Nikon

Jp

• F6 (Jp) •

使用説明書

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取る）が描かれています。

⚠ 警告（カメラについて）

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

⚠ 注意（カメラについて）

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

製品は、幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらないところに保管すること

太陽光が焦点を結び火災の原因になることがあります。

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

⚠ 危険（リチウム電池について）

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（リチウム電池について）

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池に表示された警告・注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

外装チューブをはがしたり、キズをつけないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

電池の「+」と「−」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

目次

撮影前に　P.2～18

安全上のご注意 .... P.2～5
はじめに P.8
ご確認ください P.9
各部の名称と主なはたらき .... P.10～18

撮影の基本ステップ　P.19～37

1. 電池を入れます。........ P.20～21
2. 電池の容量を確認します。........ P.22～23
3. レンズを取り付けます。........ P.24～25
4. フィルムを入れ、給送モードをセットします。........ P.26～27
5. フォーカス機能をセットします。........ P.28～29
6. 測光モードと露出モードをセットします。........ P.30～31
7. カメラを構え、ピントを合わせます。........ P.32～33
8. ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。........ P.34～35
9. フィルムを巻き戻します。........ P.36～37

コラム：被写界深度　P.38

操作の詳細　P.39～88

このカメラに使用可能なレンズについて .... P.40～44
フィルムについて .... P.45～49
　フィルムの巻き上げ状態の確認方法 P.45
　フィルム感度のセットと確認 P.46
　給送モードの選択 P.47
　ボタン操作によるフィルムの自動巻き戻し P.48
　巻き戻しクランクによるフィルムの手動巻き戻し P.49
オートフォーカス .... P.50～62
　AFサーボの選択 P.50
　フォーカスエリアの選択 P.52
　AFエリアモードの選択 P.54
　オートフォーカス機能の組み合わせと特長（シングルAFサーボ：AF-S） P.56
　オートフォーカス機能の組み合わせと特長（コンティニュアスAFサーボ：AF-C） P.58
　フォーカスロック撮影 P.60
　オートフォーカスが苦手な被写体について P.62
マニュアルフォーカス P.63
測光モード .... P.64～65
各露出モードによる撮影 .... P.66～73
　P：プログラムオート P.66
　S：シャッター優先オート P.68
　A：絞り優先オート P.70
　M：マニュアル P.72
AEロック撮影 .... P.74～75
露出補正 P.76
オートブラケティング（自動段階露出）........ P.77～81

長時間露出撮影 P.82
視度調節機能／イルミネーター P.83
セルフタイマー撮影 P.84
プレビューボタン／距離基準マーク P.85
ミラーアップ撮影 P.86
ファインダースクリーンの交換 P.87
シャッターモニター機能 P.88

メニューガイド P.89～154

メニューの操作（各メニュー共通）........ P.90～91
カスタムメニュー .... P.92～112
カスタムメニュー項目一覧 P.92
カスタムメニュー項目の詳細 P.93
セットアップメニュー .... P.113～128
セットアップメニュー項目の詳細 P.113
撮影データの記憶 P.114
日時の設定 P.127
撮影メニュー .... P.129～148
撮影メニュー項目の詳細 P.129
撮影データの写し込み P.130
多重露出撮影 P.143
インターバルタイマー撮影 P.145
レンズ情報 .... P.149～151
言語の設定 P.152
ツーボタンリセット P.153
露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて P.154

スピードライト撮影 P.155～169

ニコンクリエイティブライティングシステム .... P.156～159
CLS非対応スピードライトのTTLモードによる撮影 P.160
TTLモード以外の発光モード P.161
アクセサリーシュー／シンクロターミナル／レディーライト P.162
シンクロモード .... P.163～164
使用可能なスピードライトについて .... P.165～167
スピードライトを使用した撮影方法 .... P.168～169

資料編 P.171～194

別売アクセサリー .... P.172～176
フィルターについて P.177
カメラと電池の取り扱いについて .... P.178～179
故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）........ P.180～184
アフターサービスと保証について P.185
仕様 .... P.186～191
索引 .... P.192～194

はじめに

このたびはニコンF6をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

このカメラには、次のような特長があります。

- 9つのクロスタイプセンサーを含む11個のセンサーを備えた、高速AFモジュール（マルチCAM2000）の搭載により、高速連続撮影においても優れたAF性能を発揮し、動きの不規則な被写体でも精度の高いピント合わせを可能にします。
- 「1005分割RGBセンサー」を使用した「3D-RGBマルチパターン測光」により、ほとんどのシーンで簡単かつ効果的に適正露出を得ることができます。
- 大型背面表示パネル上でのメニュー形式による各種設定や、撮影者の好みに合わせて内容をセットすることが可能なカスタム機能、2種類のコマンドダイヤルやマルチセレクターの採用により、極めて高い操作性を実現しています。
- 堅牢なボディーと､交換レンズをはじめとする豊富なニコンシステムアクセサリー群により、このカメラ1台で様々な撮影領域をカバーすることが可能です。また、ニコンクリエイティブライティングシステムにも対応しており、ニコンクリエイティブライティングシステム機能を搭載したスピードライトと組み合わせて使用すると、多彩なスピードライト撮影を行うことができます。
- 撮影時のシャッタースピードや絞り値、レンズの焦点距離などの撮影データをカメラに記憶し、コンパクトフラッシュカードに保存することができます（別売のデータリーダー使用）。

■表記上のおことわり

本文中のマークについて

- ：カメラの故障を防ぐために注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
- ：カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
- ：カメラを使用する場合に、便利な情報を記載しています。
- CSM：カスタムメニューにより、各機能を撮影者自身の好みに合った状態にセットできる内容が書かれています。小文字のアルファベットおよび数字はその機能のメニューナンバーです。
- ：参照ページが書かれています。

■インターネットご利用の方へ

- 使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を以下の当社webサイトでご覧いただけます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

・製品をより有効にご利用いただくため、定期的にアクセスされることをおすすめいたします。

ご確認ください

■ 保証書とカスタマー登録カードについて

この製品には保証書とカスタマー登録カードが添付されていますので、ご確認ください。

- 保証書の詳細につきましては、P.185の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。
- カスタマー登録は下記ホームページからも行えます。
  http://reg.nikon-image.com

■ 使用説明書の再発行はニコンサービスセンターへ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、ニコンサービスセンターにて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■ 撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をする時には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■ 定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1〜2年に一度は定期点検を、3〜5年に一度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう、一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■ 本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のレンズ及びスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

- 他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

■付属品について

- この製品には次のような付属品が同梱されていますので、ご確認ください。

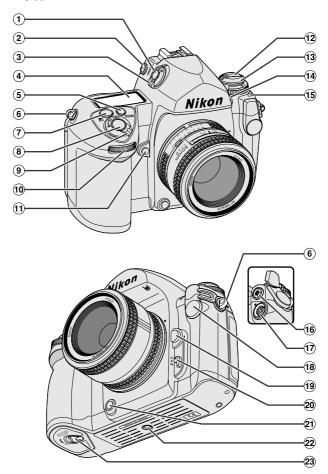
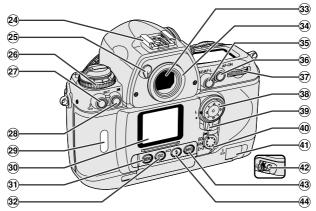
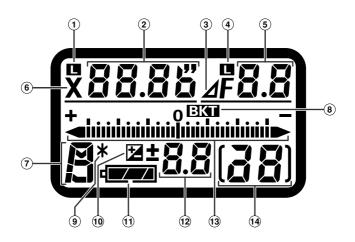
ボディーキャップ P.25

ストラップ

3Vリチウム電池 2本 P.20

ストラップの取り付け方

■カメラ本体

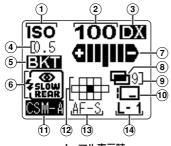
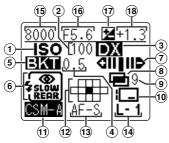
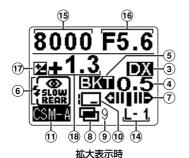
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
Nikon
MODE
OFF
ON
50mm
1:1.4 D
AF NIKKOR
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
C
S
M
MADE IN JAPAN

① 測光モードダイヤルロックボタン .... P.30、64
② 視度調節ノブ...................... P.83
③ 測光モードダイヤル .... P.30、64
④ 上面表示パネル................... P.12
⑤ 露出モードボタン.... P.30、66〜73
⑥ 吊り金具
⑦ 露出補正ボタン................... P.76
⑧ シャッターボタン P.22
⑨ 電源スイッチ................ P.20、23
⑩ サブコマンドダイヤル .... P.16〜17
⑪ プレビューボタン P.85
⑫ 巻き戻しクランク P.49
⑬ 巻き戻しノブ.......... P.26、36、49
⑭ セルフタイマー表示LED P.84
⑮ 給送モードセレクトダイヤルロックボタン .... P.26、47、84、86
⑯ シンクロターミナル P.162
⑰ 10ピンターミナル............. P.176
⑱ ターミナルキャップ
⑲ レンズ取り外しボタン P.24
⑳ フォーカスモードセレクトダイヤル .... P.50、63
㉑ ファンクションボタン .... P.110、151、158
㉒ 三脚ネジ穴....................... P.191
㉓ 電池ホルダー着脱ノブ P.20
㉔ アクセサリーシュー P.162
㉕ アイピースシャッターレバー P.83、84
㉖ 給送モードセレクトダイヤル .... P.26、47、84、86
㉗ オートブラケティングボタン... P.77
R2（フィルム巻き戻し）ボタン. P.48
㉘ コマンドロックボタン ..... P.69、71
㉙ フィルム確認窓................... P.27
㉚ 背面表示パネル................... P.14
㉛ MENUボタン........ P.15、90、153
㉜ ISO感度ボタン P.46
㉝ ファインダー接眼窓
㉞ アイピースDK-17............... P.83
㉟ AE/AFロックボタン P.60、74、101
㊱ AF作動ボタン............... P.51、97
㊲ メインコマンドダイヤル . P.16〜17
㊳ マルチセレクター P.18
㊴ マルチセレクターロックレバー .... P.28、53、90
㊵ AFエリアモードセレクトダイヤル .... P.28、52、54
㊶ R1ボタンカバー.................. P.48
㊷ R1（フィルム巻き戻し）ボタン. P.48
㊸ INFOボタン..... P.124、150、153
㊹ シンクロモードボタン P.163

■上面表示パネル

● 説明のため全ての表示を点灯した状態です。

① シャッタースピードロックマーク . P.69
② シャッタースピード表示 .... P.68、72、82
③ 絞り段数マーク............. P.25、42
④ 絞りロックマーク P.71
⑤ 絞り値表示.................. P.70、72
⑥ シンクロマーク P.106
⑦ 露出モード表示....... P.30、66～73
⑧ オートブラケティングマーク... P.77
⑨ プログラムシフトマーク......... P.66
⑩ 露出補正マーク P.76
⑪ バッテリーチェック表示......... P.23
⑫ 露出補正値表示................... P.76
⑬ 露出インジケーター P.73
露出補正インジケーター......... P.76
オートブラケティングインジケーター P.77
⑭ フィルムカウンター P.26

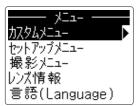
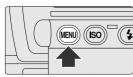
■ファインダー内表示

- 説明のため全ての表示を点灯した状態です。

① 中央部重点測光エリア φ12mm. P.65
② フォーカスフレーム（エリア）.. P.52
スポット測光エリア P.65
③ 露出インジケーター P.73
露出補正インジケーター......... P.76
オートブラケティングインジケーター P.77
④ 露出補正マーク P.76
⑤ オートブラケティングマーク ... P.77
⑥ AEロックマーク.................. P.74
⑦ シャッタースピードロックマーク . P.69
⑧ 絞りロックマーク P.71
⑨ ピント表示.................... P.32、33
⑩ 測光モード表示............. P.30、64
⑪ FVロックマーク................ P.158
⑫ 露出モード表示....... P.30、66〜73
⑬ シンクロマーク.................. P.106
⑭ シャッタースピード表示
.... P.68、72、82
⑮ 絞り段数マーク .... P.25、42
⑯ 絞り値表示.................... P.70、72
⑰ 多重露出マーク.................. P.143
⑱ バッテリーチェック表示......... P.23
⑲ フィルムカウンター P.26
露出補正値表示..................... P.76
⑳ レディーライト.................. P.162

■背面表示パネル（撮影情報表示時）

- 撮影情報表示は通常、ノーマル表示で表示されますが、カスタムメニュー**「d7：背面情報表示」**で**「詳細表示」**または**「拡大表示」**に変更できます（P.105）。
- 説明のため全ての表示を点灯した状態です。

ノーマル表示時

詳細表示時

拡大表示時

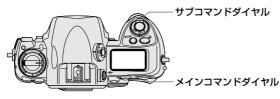
① フィルム（ISO）感度マーク .. P.46
② フィルム（ISO）感度表示..... P.46
③ DXマーク................... P.27
④ オートブラケティング補正ステップ P.77
⑤ オートブラケティングマーク .. P.77
⑥ シンクロモード表示......... P.163
⑦ オートブラケティングインジケーター P.77
⑧ 多重露出マーク P.143
⑨ 多重露出回数 P.143
⑩ 写し込みマーク .... P.133、137
⑪ カスタム表示................ P.93
⑫ フォーカスエリア表示 P.52
⑬ AFサーボ表示............... P.50
⑭ レンズNo.表示............. P.150
⑮ シャッタースピード表示 .... P.68、72、82
⑯ 絞り値表示 .... P.70、72
⑰ 露出補正マーク.............. P.76
⑱ 露出補正値表示.............. P.76

■背面表示パネル（メニュー画面表示時）

- 撮影情報表示時にMENUボタンを押すと表示されます。MENUボタンをもう一度押すと撮影情報表示に戻ります。
- カスタムメニュー、セットアップメニュー、撮影メニュー、レンズ情報、言語（Language）に分かれています。

- カスタムメニュー（P.92）

- セットアップメニュー（P.113）

- 撮影メニュー（P.129）

- レンズ情報（P.150）

- 言語（Language）（P.152）

■コマンドダイヤルと操作ボタン

● このカメラには2種類のコマンドダイヤルがついています。各操作ボタンと併用、または単独操作で次のような機能がセットできます。

■フィルム関係

● フィルム（ISO）感度のセット（P.46）

■露出関係

● 露出モードのセット（P.30、66～73）

● 露出モードが P の時のプログラムシフト（P.66）

● 露出モードが S または M の時のシャッタースピードのセット［※1］（P.68、72）

● 露出モードが A または M の時の絞り値のセット［※1］（P.70、72）

● 露出モードが S または M の時のシャッタースピードのロック／解除［※1］（P.69、72）

● 露出モードが A または M の時の絞り値のロック／解除［※1］（P.71、72）

● 露出補正量のセット［※2］（P.76）

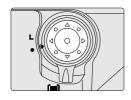
● オートブラケティングの撮影コマ数のセット［※3］（P.77）

● オートブラケティングの補正ステップのセット［※3］（P.77）

■スピードライト関係

● シンクロモードのセット（P.163）

［※1］CSM f4：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（P.111）。

［※2］CSM b3：コマンドダイヤルの操作だけで、露出補正が行えるように変更できます（P.99）。

［※3］CSM e8：メインコマンドダイヤルでオートブラケティングのON/OFFを、サブコマンドダイヤルで補正ステップと撮影コマ数の組み合わせをセットできるように変更できます（P.108）。

■マルチセレクターの基本操作

- マルチセレクターを操作して、フォーカスエリアの選択（P.52）やメニュー操作（P.90）、撮影データの表示（P.124）を行うことができます。
- カスタムメニュー**「f2：マルチセレクター起動」**を**「半押し起動する」**または**「AF起動する」**にセットすると、半押しタイマーがOFFの時にマルチセレクターの操作で、半押しタイマーがON、またはオートフォーカスが作動するように変更できます（P.109）。

■フォーカスエリア選択時

▲（上）：上のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択［※1］
▼（下）：下のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択［※1］
▶（右）：右のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択［※1］
◀（左）：左のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択［※1］
●（中央）：中央のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択［※2］

■メニュー操作時

▲（上）：項目を選択、または数値等の設定［※3］
▼（下）：項目を選択、または数値等の設定［※3］
▶（右）：決定、または次の画面に進む［※3］
◀（左）：キャンセル、または1つ前の画面に戻る［※3］
●（中央）：決定、または次の画面に進む［※3］

■撮影データ表示時

▲（上）：フィルム番号を選択、またはコマ情報を選択表示
▼（下）：フィルム番号を選択、またはコマ情報を選択表示
▶（右）：フィルム番号を決定、またはフィルム番号選択画面に戻る
◀（左）：撮影情報表示画面またはフィルム番号選択画面に戻る

［※1］**CSM a6**：**マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になる循環方式に変更できます（P.98）。**

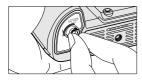
［※2］**CSM f1**：**マルチセレクターの中央を押したときの機能を、ファインダー内で選択されているフォーカスエリアのフレームを点灯させるように変更したり、中央を押しても何も機能しないように変更したりできます（P.109）。**

［※3］**CSM f4**：**通常マルチセレクターを使用するメニューの操作を、コマンドダイヤルも使用してメニューの操作が行えるように変更できます（P.112）。**

撮影の基本ステップ

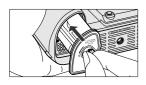
プログラムオートによる簡単な撮影方法を説明しています。

ここでは、もっとも簡単な撮影方法として下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、この撮影方法でほとんど行えます。

項目		設定	参照
装着レンズ	→	GタイプまたはDタイプAFレンズ	P.24
フィルム感度	→	DX	P.27
フィルム給送モード	→	S（1コマ巻き上げ）	P.26
フォーカスモード	→	S（シングルAFサーボ）	P.28
AFエリアモード	→	[■]（シングルエリアAFモード）	P.28
測光モード	→	（3D-RGBマルチパターン測光）	P.30
露出モード	→	P（プログラムオート）	P.30
カスタムメニュー	→	全て初期設定	P.92～112

1. 電池を入れます。

このカメラには、3V CR123A リチウム電池を2本使用します。

1 電源スイッチをOFFにし､電池ホルダー(MS-41)着脱ノブを↺の方向に回してロックを解除します。

- 電池を入れる時は電源スイッチをOFFにしてから、2本とも同じメーカーの新品電池を使用してください。

2 電池ホルダーをカメラから引き出し、ホルダー内の⊕⊖表示にしたがってリチウム電池を2本入れます。

- ⊕⊖を間違えると、故障の原因となる場合があります。

3 電池ホルダーをカメラに挿入し、着脱ノブを↺の反対方向に回して確実にロックします。

電池の保管のご注意

- 電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合はただちに医師に相談してください（安全上のご注意 P.5）。

内蔵時計用のバックアップ電池について

- このカメラには、内蔵時計用のバックアップ電池が内蔵されています。このバックアップ電池は3Vリチウム電池や別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40（P.172）でカメラに電源が供給されている時に、約48時間で充電されます。充電が完了すると、カメラから3Vリチウム電池を取り出したり、マルチパワーバッテリーパックMB-40を取りはずしても、記憶された日時が約4カ月間保持されます。

カメラの内蔵時計がリセットしている場合について

時計が
リセットしました

日時を
設定してください

- 長期間カメラに電源が供給されない状態が続いた場合や、ご購入後初めてカメラに電池を入れた時、電源スイッチをONにすると背面表示パネルにイラストのような警告が表示される場合があります（各操作ボタンおよびコマンドダイヤルを操作すると通常の表示画面に戻ります）。この場合、日時の設定を行ってください（P.127）。
  - ・日時が設定されていなくても通常の撮影には支障はありませんが、撮影データ（年月日、時刻）の記憶（P.114）、撮影データ（日時分、年月日、時刻）の写し込み（P.130）、インターバルタイマー撮影（P.145）は正しく行われません。
  - ・時計がリセットした後に電源スイッチをONにすると、日時が2004年1月1日0時0分にセットされ、計時を開始します。このまま日時を設定しない状態で使用すると、電源スイッチをONにするたびに背面表示パネルにイラストのような警告が表示されます。

新品電池で撮影可能なフィルム本数についてはP.190をご覧ください。

3V CR123A リチウム電池以外の電源について

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40（P.172）を使用することにより、単3形電池8本または別売のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4（別売のバッテリー室カバーBL-3を併用）が使用可能になります。

海外などへお出かけの際は、予備の電池をお持ちください。

2. 電池の容量を確認します。

上面表示パネルまたはファインダー内表示で電池容量を確認できます。

上面表示パネル

ファインダー内表示

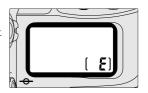
電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示 [バッテリー] で電池容量を確認します。

- [バッテリー] が点灯している場合、電池の容量は充分です。他の表示状態の場合は、次ページの表をご覧ください。
- 電源スイッチをONにすると、半押しタイマーがONになり、カメラの露出計が作動します。

■シャッターボタンの半押し操作と半押しタイマーについて

- 電源スイッチをONにしてから約8秒間、何の操作も行わないでいると上面表示パネルの一部、背面表示パネルの一部、およびファインダー内表示の全てが自動的に消灯します（半押しタイマーOFF）。この状態でシャッターボタンを半押し（軽く押す）すると、半押しタイマーが作動して、再点灯します（半押しタイマーON）。
- カメラの設定状態が以下の場合、半押しタイマーがOFFの時に背面表示パネルに「F6 Nikon」と表示されます。
  - ・フィルム感度：DX
  - ・AFエリアモード：[o]（シングルエリアAFモード）
  - ・フォーカスエリア：中央選択
  - ・露出モード：P（プログラムオート）
  - ・露出補正：0.0（補正無し）
  - ・ブラケティング：設定無し
  - ・写し込み：設定無し（全てOFF）
  - ・シンクロモード：先幕シンクロモード

CSM c4：半押しタイマーの作動時間を変更できます（P.102）。

バッテリーチェック表示について

- バッテリーチェック表示の点灯状態と電池容量については以下の通りです。

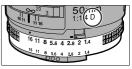
上面表示パネル	ファインダー内表示（半押しタイマーON時）	内容
（点灯）	（点灯）	電池の容量は充分です。
（点灯）	（点灯）	電池容量が減り始めました。
（点灯）	（点灯）	電池容量がわずかです。予備の電池を準備してください。
（点滅）	（点滅）	電池を交換してください（シャッターがきれなくなり、背面表示が消灯します）。

- 使用する電池のメーカーや使用する場所の温度により、電池消耗の度合が異なります。特に低温時は、常温時より早めにバッテリーチェック表示 が点灯、点滅する場合があります。また、低温のために、一時的にバッテリーチェック表示 が点灯、点滅した電池でも、常温に戻るとバッテリーチェック表示が や に戻る場合があります。

電源スイッチをOFFにした場合の表示について

- 電池が入っている状態で電源スイッチをOFFにすると、上面表示パネルにフィルムカウンターのみが表示されます。

言語と日時の設定について

- 言語を設定すると、背面表示パネルに表示される内容が、設定した言語で表示されます。日本語以外に、「ドイツ語」、「英語」、「スペイン語」、「フランス語」、「中国語（簡体）」に設定可能です（P.152）。
- 日時を設定すると、撮影データの記憶（P.114）や写し込み（P.130）、インターバルタイマー撮影（P.145）などで正しい日時を使用することができます（P.127）。

3. レンズを取り付けます。

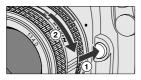
カメラの機能を充分に活用するためには、GタイプまたはDタイプのCPUレンズの使用をおすすめします。

CPUレンズには信号接点があります。

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

1 電源スイッチをOFFにします。

- レンズの取り付け・取り外しを行う時は、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。

2 カメラにレンズを取り付けます。

- レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせ、時計と反対回りにカチッと音がするまでレンズを回します。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。

3 絞りリングを最小絞りにセットします（Gタイプ以外のCPUレンズの場合）。

- 絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットし、必ずロックしてください。絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、電源スイッチをONにすると上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- 絞りリングのないGタイプレンズを使用する場合、最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要はありません。

■カメラからレンズを取り外すには

- カメラの電源スイッチをOFFにして、レンズ取り外しボタンを押しながら①、時計回りにレンズを回します②。

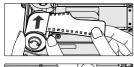
レンズの着脱の際には

- レンズの取り付け、取り外しの際は、レンズが不用意に作動しないよう、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。また、レンズの着脱は、直射日光を避けて行ってください。

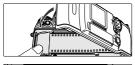
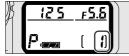
カメラからレンズを長時間外しておく時には

- カメラからレンズを長時間外しておく時は、付属のボディーキャップ（P.9）、または別売のボディーキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください（旧タイプのボディーキャップBF-1は装着できません）。

使用可能なレンズについての詳細はP.40をご覧ください。

CPUレンズ以外のレンズ（非CPUレンズ）について

- 非CPUレンズを使用する場合、絞り値の表示が開放からの段数表示（例：ΔF2［開放から2段の場合］）になりますが、「レンズ情報」（P.149）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することにより、絞り値の表示やRGBマルチパターン測光など、CPUレンズ装着時のみ使用できる機能の一部が使用可能になります。また、非AI方式レンズを使用する場合は、そのままでは装着できませんのでP.43をご覧ください。

4. フィルムを入れ、給送モードをセットします。

1 **電源スイッチをONにし、巻き戻しノブを引き上げて裏ぶたを開けます。**

2 **フィルムを入れ、フィルムの先端をカメラの赤色マークに合わせます。**

- フィルムのパトローネをイラストのように斜めにして、パトローネ上部をパトローネ用ガイドの下にくぐらせるようにして入れると、フィルム装填が容易に行えます。
- フィルムの先端をしっかりと赤色マークに合わせてください。赤色マークより手前にしたり、越えたりすると、フィルムが正しく装填されない場合があります。
- フィルムが浮き上がらないように、フィルムのパトローネを押さえてください。

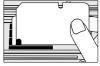
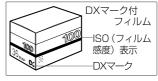
3 **引き出した巻き戻しノブを戻し、裏ぶたをパチンと音がするまで静かに閉じると、フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされます。**

- 上面表示パネルのフィルムカウンターに 1 が表示されると、フィルムの装填は完了です。
- 上面表示パネルとファインダー内表示に Err と E が点滅し、背面表示パネルに**「空送りエラー」**と表示されている場合は、フィルムが正しく装填されていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

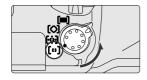
4 **給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルをS（1コマ巻き上げ）にセットします。**

フィルムの出し入れの際のご注意

- 初めてご使用になる場合は、シャッター幕を保護するカバーが付いていますので、フィルムを入れる前にこの保護カバーを取り外してください。
- シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように充分注意してください。
- フィルムの交換は、直射日光を避けて行ってください。

撮影の基本ステップ

巻き戻しクランクおよび巻き戻しノブについてのご注意

- 巻き戻しクランクでフィルムのたるみを取る操作はしないでください。フィルムがスプロケットの歯から外れ、フィルムが正しく給送されなくなることがあります。また、シャッター幕を破損する原因になります。
- フィルム装填後はフィルムを巻き戻すまで、巻き戻しノブを強く押したまま給送するなどして巻き戻しクランクの動きを妨げることのないようにご注意ください。フィルムが正しく給送されなくなることがあります。
- このカメラの巻き戻しノブには裏ぶた開閉のロック機構がありませんので、ご注意ください。

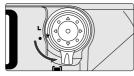
DXマーク付フィルムについて

- フィルム感度を DX にセットしてある時は、DXマーク付フィルムを使用すると、フィルム感度が自動的にセットされます（ISO 25〜5000）。
- フィルム感度を DX にセットしてDXマーク付フィルム以外のフィルムを入れると、上面表示パネルとファインダー内表示に Err が点滅し、背面表示パネルに「DX ERR」と表示して警告します。この状態ではシャッターがきれませんので、手動でフィルム感度をセットしてください（P.46）。
- フィルム感度が DX にセットされていない場合はP.46をご覧ください。

フィルムの感度と規定コマ数は、フィルム確認窓で確認できます。

フィルム上の撮影画像とコマ番号は一致しない場合があります。

給送モードについての詳細はP.47をご覧ください。

CSM d1：フィルムの1コマ目までの空送りが、シャッターボタンを押すことで開始されるように変更できます（P.103）。

5. フォーカス機能をセットします。

1 フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）にセットします。

- フォーカスモードセレクトダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。

2 AFエリアモードセレクトダイヤルを[▫]にセットします。

- 11カ所のフォーカスエリアの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけを使用してピント合わせを行う、**シングルエリアAFモード**となります（P.54）。

3 マルチセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、マルチセレクターで中央のフォーカスエリアを選択します。

- シャッターボタンを半押しし、マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して中央のフォーカスエリアを選択します（マルチセレクターの中央を押すと、中央のフォーカスエリアが選択されます）。
- ファインダー内では、選択したフォーカスエリアのフレームが赤色に一瞬点灯します。また、背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には、選択したフォーカスエリアが表示されます。

ISO 100 DX

AF-S

ノーマル表示時

フォーカスモードをSまたはCにセットした時のご注意

- フォーカスモードをS（シングルAFサーボ）またはC（コンティニュアスAFサーボ）にセットした時は、レンズの距離リングを手で回さないでください（使用するレンズがM/Aモードにセットした AF-SレンズおよびAF-Iレンズを除くAFレンズの場合)。

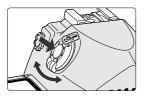
オートフォーカスが苦手な被写体についてはP.62をご覧ください。

AFエリアモードの特長

AFエリアモード		特長
[▫]	シングルエリアAFモード	選択した1つのフォーカスエリアだけを使用してピント合わせを行います。
[⁘]	ダイナミックAFモード	選択した1つのフォーカスエリアを使用してピント合わせを行い、選択したフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用して同じ被写体に対してピント合わせを行います。
[◇]	グループダイナミックAFモード	選択したフォーカスエリアグループ（隣り合う複数のフォーカスエリアの組み合わせ）内の中央のフォーカスエリアを使用して、フォーカスエリアグループ内でダイナミックAFモードのようにピント合わせを行います。
[■]	至近優先ダイナミックAFモード	11カ所のフォーカスエリアのうち、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行い、被写体が動いてピントの合ったフォーカスエリアから外れた場合でも、他のフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。

フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードなどフォーカス機能の詳細はP.50～63をご覧ください。

6. 測光モードと露出モードをセットします。

測光モードを ▣（マルチパターン測光）に、露出モードを P（プログラムオート）にセットします。

1 測光モードダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードダイヤルを ▣（マルチパターン測光）にセットします。

- ファインダー内表示にマルチパターン表示 ▣ が点灯します。
- 1005分割RGBセンサーにより得られるさまざまな情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにGタイプまたはDタイプレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた3D-RGBマルチパターン測光となります（P.64）。

2 露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを P（プログラムオート）にセットします。

- シャッターボタンを半押しすると、適正露出が得られるようにカメラが自動的にセットしたシャッタースピードと絞り値が、上面表示パネル、背面表示パネル（拡大表示時および詳細表示時）およびファインダー内表示に点灯します。

測光について

- 撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを測光といいます。測光は露出（露光）決定時の重要な情報源で、これによりフィルムに最適な光量（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。通常、被写体が含まれる撮影画面内の明るさは必ずしも一様ではないため、このカメラは、画面を1005分割し、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「マルチパターン測光」（P.64）と、撮影画面内中央部の明るさに重点を置いて適正露出を決める「中央部重点測光」（P.65）、11カ所のフォーカスエリアのうち選択した1つに重なる狭い測光エリアで測光する「スポット測光」（P.65）の3つの測光モードを備えています。

露出（露光）について

- 被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルムに感光させて記録することを「露出（露光）」といいます。その時、被写体の明るさとフィルムの感度に合わせてシャッタースピードと絞りを調節し、フィルムに最適な光量（適正露出）を与えることが大切です。このカメラは、プログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアルの4つの露出モードを備えています。

各露出モードの特長

表示	露出モード	特長・こんな時に使用すると便利です。
P P.66	プログラムオート	カメラが自動的にシャッタースピードと絞りをセットします。また、プログラムシフト（P.66）や露出補正（P.76）により、撮影者の意図を反映させることもできます。
S P.68	シャッター優先オート	撮影者が好みのシャッタースピードをセットすると、カメラが絞りを自動的にセットします。動きの速い被写体の瞬間を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。
A P.70	絞り優先オート	撮影者が好みの絞りをセットすると、カメラがシャッタースピードを自動的にセットします。手前から奥まで鮮明に写す、背景をぼかすなどの被写界深度（ピントの合う前後の範囲 P.38）を生かした撮影に最適です。
M P.72	マニュアル	撮影者がシャッタースピードも絞りも自由にセットできます。他の露出モードでは意図した撮影が難しい時などに便利です。長時間露出（バルブ）撮影もこのモードでできます。

7. カメラを構え、ピントを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、カメラがピント合わせを行います。

1

カメラを正しく構えます。

- わきを締めてひじは軽く体につけ、片足を軽く踏み出して上半身を安定させます。
- 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手でレンズを支えます。

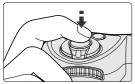
2

構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンを半押しすると、フォーカスフレームが一瞬点灯し、カメラが自動的にピント合わせを行います。
- ピントが合うとファインダー内のピント表示 ● が点灯します。

手ブレとシャッタースピードについて

- 手ブレを防ぐには、一般にシャッタースピードを「1/装着しているレンズの焦点距離」秒より高速にします。たとえば50mmレンズの場合、シャッタースピードを1/50秒より高速にすると手ブレをある程度防ぐことができます。シャッタースピードを低速にしたい場合は、三脚またはVRレンズのご使用をおすすめします。

構図を決める際のご注意

- このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約100%ですが、ネガフィルムをサービスサイズなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、ご注意ください。

ピント表示について

- ファインダー内のピント表示 ● の点灯および点滅については以下のとおりです。
  - ●（点灯）：被写体にピントが合っています。
  - ▶（点灯）：目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
  - ◀（点灯）：目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
  - ▶ ◀（点滅）：オートフォーカスでピント合わせができません。

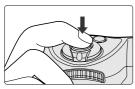
ファインダーの中の表示や被写体がはっきりしない時は、視度を調節してください（P.83）。ファインダーの中の表示や被写体が確認しやすくなります。

ピントを合わせたいものがフォーカスエリアから外れる場合は、フォーカスロック撮影を行ってください（P.60）。

オートフォーカスが苦手な被写体については、P.62をご覧ください。

マルチパワーバッテリーパックMB-40について

- 縦位置シャッターボタンを備えたマルチパワーバッテリーパックMB-40（別売 P.172）を装着すると、縦位置に構えた時にシャッターがきりやすくなります。

CSM a4：オートフォーカスでピント合わせる時に、シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタンの操作でのみオートフォーカスが作動するように変更できます（P.97）。

8. ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。

ピント表示 ● を確認し、シャッターボタンをゆっくりと押し込んでシャッターをきってください。

1 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示を確認します。

- シャッタースピードと絞りは1/3段ステップで表示されます。
- 表示パネルやファインダー内表示に警告が行われた場合、P.67を参考に対応してください。

2 ピント表示 ● の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

- シャッターをきるとフィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、次の撮影の準備が完了します。

セルフタイマー撮影については、P.84をご覧ください。

リモート撮影については、P.176をご覧ください。

予測駆動フォーカスについて

- フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ P.50）または**C**（コンティニュアスAFサーボ P.50）にセットして、シャッターボタンを半押し、またはAF作動ボタン（P.51）を押し続けてピント合わせを行っている時、動いている被写体をカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り換わります。予測駆動フォーカス作動時は、被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合に、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。
  - ·**S**（シングルAFサーボ）の場合は、初めから動いている被写体に対して予測駆動フォーカスが作動し、被写体が静止した時には、ピントはそこでロックされます。
  - ·**C**（コンティニュアスAFサーボ）の場合は、途中から動き出した被写体に対しても予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体が静止してもピントがロックされることはありません。

撮影データの写し込みと記憶について

- このカメラは、フィルムの「画面内」、「コマ間」および「0コマ目」に日時やシャッタースピード、絞り値、レンズの焦点距離などの撮影データ（写し込む場所によって写し込める内容は異なります）をフィルムに写し込むことができます。また、カメラの内蔵記憶メモリに撮影時の撮影データが記憶されます。撮影データの写し込みについての詳細はP.130を、撮影データの記憶についてはP.114をご覧ください。

CSM b1：上面表示パネル、背面表示パネル（拡大表示時および詳細表示時）およびファインダー内に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます（P.99)。

9. フィルムを巻き戻します。

フィルムの最後のコマが撮影されると、カメラが自動的にフィルムの巻き戻しを開始します。巻き戻しの完了を確認してから、フィルムを取り出してください。

1 最後のコマが撮影されると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

- フィルムの巻き戻し中は、上面表示パネルおよびファインダー内表示にフィルム巻き戻し表示が 0 _ _ → 0 _ → 0 の順に点灯し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。また、背面表示パネルには**「巻き戻し中」**と表示されます。

2 上面表示パネルの E の点滅を確認し、巻き戻しノブを引き上げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

- 上面表示パネルおよびファインダー内表示に E が点滅し、背面表示パネルに**「巻き戻し完了」**と表示されると、巻き戻しは完了です（半押しタイマーがOFFになると、上面表示パネルの E が点灯に変わり、ファインダー内表示、および背面表示パネルの**「巻き戻し完了」**は消灯します）。必ず E の点滅または**「巻き戻し完了」**の表示を確認してから、直射日光を避けて裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

フィルムの途中巻き戻しについては、P.48をご覧ください。

巻き戻しクランクを使用した手動巻き戻しについては、P.49をご覧ください。

巻き戻しノブのご注意

- このカメラの巻き戻しノブにはロック機構がありませんので、ご注意ください。
- フィルムの巻き戻しを行う際には、巻き戻しノブが下がっていることを確認してください。

フィルムの規定コマ数を超えて撮影したコマは、現像処理上カットされることがあります。

CSM d2：自動的に巻き戻しを開始せずに、ボタン操作により巻き戻しが開始されるように変更できます（P.103)。

CSM d3：フィルムを巻き戻す時に、パトローネ内にフィルムを全て巻き取らずに、フィルムリーダー部を残すように変更できます。（P.103)。

CSM d4：35コマ目、または36コマ目の撮影が終了した時点でフィルム給送を停止するようにできます（P.104)。

C O L U M N

コラム：被写界深度

ここでは、ピントと被写界深度についての基礎知識を説明します。

■被写界深度

一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を**被写界深度**といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。
特にレンズの絞りは、**絞る**（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、**被写界深度が深くなります**。逆にレンズの**絞りを開く**（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、**被写界深度が浅くなります**。
また、他の条件が同じであれば、撮影距離が近いほど、あるいはレンズの焦点距離が長いほど被写界深度が浅くなり、撮影距離が遠いほど、あるいはレンズの焦点距離が短いほど被写界深度が深くなります。さらに、被写界深度はピントを合わせた一点の手前に浅く、奥に深くなります。被写界深度と絞り、レンズの焦点距離、撮影距離の関係は表にすると以下のようになります。

	絞り	レンズの焦点距離	撮影距離
被写界深度が深い	絞る（大きい数値）	短い（広角レンズ）	遠い
⬍	⬍	⬍	⬍
被写界深度が浅い	開く（小さい数値）	長い（望遠レンズ）	近い

絞りを開いた場合 F2.8
（被写界深度が浅い場合）

絞りを絞った場合 F32
（被写界深度が深い場合）

C O L U M N

操作の詳細

このカメラの各機能をレンズ、フィルム、ピント、
露出、その他の機能の順に詳細に説明しています。

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPUレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）のご使用をおすすめします。特に、GタイプまたはDタイプAFレンズを使用すれば、カメラの機能が最大限に使用できます。

■CPUレンズ

レンズ ＼ モード	フォーカスモード			露出モード				測光モード			
	オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P	S	A	M	マルチパターン測光 3D-RGB	マルチパターン測光 RGB	中央部重点測光	スポット測光
Gタイプ AFレンズ Dタイプ AFレンズ ※1、2 AF-Sレンズ AF-Iレンズ	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
PCマイクロ 85mm F2.8D ※3	—	○※4	○	—	—	—	○	○	—	○	○
AF-Sテレコンバーター AF-Iテレコンバーター ※5	○※6	○※6	○	○	○	○	○	○	—	○	○
GタイプおよびDタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）	○※7	○※7	○	○	○	○	○	—	○	○	○
AI-Pニッコール	—	○※8	○	○	○	○	○	—	○	○	○

※1：このカメラは、VRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。

※2：DXニッコールは使用できません。また、IXニッコールは装着できません。

※3：カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされている時には、正しく機能しません。

※4：アオリ操作を行っていない場合のみ可能。

※5：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。

・使用可能なAF-SおよびAF-Iレンズは以下の通りです。

AF-S VR マイクロ ED105mm F2.8G ＊1
AF-S VR ED200mm F2G
AF-S VR ED300mm F2.8G
AF-S ED300mm F2.8D II
AF-S ED300mm F2.8D
AF-I ED300mm F2.8D
AF-S ED300mm F4D ＊2
AF-S ED400mm F2.8D II
AF-S ED400mm F2.8D
AF-I ED400mm F2.8D
AF-S ED500mm F4D II ＊2
AF-S ED500mm F4D ＊2
AF-I ED500mm F4D ＊2
AF-S ED600mm F4D II ＊2
AF-S ED600mm F4D ＊2
AF-I ED600mm F4D ＊2
AF-S VR ED70-200mm F2.8G
AF-S ED80-200mm F2.8D
AF-S VR ED200-400mm F4G ＊2

＊1：AF撮影はできません。

＊2：AF-S TC-17E II、AF-S TC-20E II、AF-I TC-20Eとの組み合わせでは、AF撮影はできません。

・上記以外のレンズには使用できません。レンズ後部がテレコンバーターに接触し、破損する恐れがありますので、取り付けないでください。

※6：合成絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

※7：AF 80-200mm F2.8S　AF 35-70mm F2.8S　AF 28-85mm F3.5-4.5S（New）　AF 28-85mm F3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※8：開放絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

■非CPUレンズ他

レンズ／アクセサリー ＼ モード	フォーカスモード			露出モード				測光モード			
	オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P	S	A	M	マルチパターン測光		中央部重点測光	スポット測光 ※2
								3D-RGB	RGB ※1		
AI-Sレンズ AIレンズ シリーズEレンズ	△※3	○※4	○	—	—	○	○	—	○	○	○
改造AIニッコール	—	○※4	○	—	—	○	○	—	○	○	○
非AI方式レンズ ※5	—	○※4	○	—	—	○※6	○※7	—	—	○※8	○※8
メディカル120mm F4	—	○	○	—	—	—	○※9	—	—	—	—
レフレックスレンズ ※10	—	—	○	—	—	○	○	—	—	○	○
PCニッコール ※10	—	—	○	—	—	○※11	○※12	—	—	○※13	○※13
テレコンバーター TC-16AS	○※14	—	—	—	—	○	○	—	○※15	○※15	○※15
AI-Sテレコンバーター AIテレコンバーター	—	○※16	○	—	—	○	○	—	○※15	○※15	○※15
ベローズPB-6 （接写用リング併用）	—	○※16	○	—	—	○※17	○※7	—	—	○※13	○※13
オート接写リング （PK-11A.12.13. PN-11）	—	○※16	○	—	—	○	○	—	—	○	○

※1　:「レンズ情報」（P.149）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することにより可能です。ただし、一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は、中央部重点測光またはスポット測光で撮影してください。

※2　：測光エリアは中央に固定されます。

※3　：TC-16ASを装着し、合成絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

※4　：開放絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

※5　：そのままでは装着できませんが、カメラの露出計連動レバーを可倒式に改造することにより装着可能です（P.43）。

※6　：絞り込み測光で使用可能（プレビューボタンを押したままシャッターをきってください P.85）。

※7　：絞り込み測光で使用可能。

※8　：絞り込み測光となります。絞りがf/4（f/4含まず）より暗い場合は、カスタムメニューの「b6：スクリーン補正」で「+0.5」にセットしてください（P.100）。

※9　：1/125秒以下の低速シャッタースピードで使用可能（ただし、カメラの露出計は使用できません）。

※10：一部装着不可能なレンズがあります（P.42）。

※11：絞り込み測光で使用します。レンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後アオリ操作を行ってください。

※12：絞り込み測光で使用します。レンズ側で絞りプリセットを行い、アオリ操作を行う前に測光して露出を決定してください。

※13：絞り込み測光となります。カスタムメニューの「b6：スクリーン補正」で「+0.5」にセットしてください（P.100）。

※14：一部装着不可能なレンズ（P.42）を除き、開放絞りがf/3.5以上明るいAI-S、AI、シリーズEレンズで使用可能。

※15：レンズとの組み合わせにより、露出補正が必要な場合があります（ご使用になるテレコンバーターの使用説明書をご参照ください）。

※16：合成絞りがf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

※17：絞り込み測光で使用可能（ベローズ側で絞り込みを行い、測光後シャッターをきってください）。

■非CPUレンズの使用にあたって

非CPUレンズ使用時の制約事項

- 露出モードを A（絞り優先オート）または M（マニュアル）にセットしてください。これ以外にセットした場合は、上面表示パネルの露出モード表示（ P または S ）が点滅して警告すると同時に、自動的に露出モードを A に切り換えて制御します（ファインダー内表示には A が点灯します）。
- AI方式レンズの場合、「レンズ情報」（P.149）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定すると、RGBマルチパターン測光が可能になります。設定を行わないまま、マルチパターン測光にセットした場合は、自動的に中央部重点測光に切り換えて制御します。
- AI方式レンズの場合、「レンズ情報」でレンズの開放絞り値を設定すると、絞り値の表示が可能になります。設定を行わない場合は開放からの段数表示（例：ΔF2 [開放から2段の場合]）になります。
- 絞りのセットはレンズの絞りリングで行ってください。コマンドダイヤルによる絞りのセットは行えません。

ベローズPB-6について

- 接写用リングを併用すると装着できます（縦横変換を行う場合はPB-6Dが必要です）。
  ・ダブルレリーズAR-10（変換コードMC-25併用）を使用すると便利です。

ニッコール13mm F5.6（AI-S、AI、非AI方式）の使用について

- カメラのグリップ部とレンズ外周の間隔が狭くなっているため、三脚のご使用をおすすめします。

使用できない非CPUレンズ等について

- 下記の非CPUレンズ等は使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。
  ・フィッシュアイ（6mm F5.6　7.5mm F5.6　8mm F8　OP10mm F5.6）
  ・旧21mm F4 ・旧PC35mm F3.5
  ・旧レフレックス500mm F8 ・旧レフレックス1000mm F6.3
  ・F3AF用（80mm F2.8　200mm F3.5　テレコンバーターTC-16S）
  ・K2リング ・複写装置PF-4

AFテレコンバーターTC-16ASに装着できないレンズについて

- レンズの開放絞りがf/3.5以上（f/1.2～3.5）明るい場合は、TC-16ASにAIニッコールレンズを装着して、オートフォーカス撮影が可能となりますが、下記のレンズはTC-16ASに装着できません。
  ・PCニッコール全製品 ・AI改造ニッコール全製品 ・AIマイクロニッコール55mm F3.5
  ・AIニッコール　20mm F2.8、35mm F1.4、400mm F2.8、400mm F3.5、28mm F2（No.540020以前の製品）、28mm F2.8（No.500000以前の製品）、35mm F2（No.931000以前の製品）、35mm F2.8（No.880000以前の製品）、50mm F1.4（No.398000以前の製品）、50mm F2（No.364000以前の製品）

■非AI方式レンズの使用にあたって

非AI方式レンズを使用する場合は、カメラの露出計連動レバーを可倒式に改造する必要があります(有料：ニコンサービスセンターにお問い合わせください)。改造後は、下記の手順で取り付けてください。

■AI方式レンズと非AI方式レンズの見分け方

AI方式レンズ

非AI方式レンズ

- AI方式のレンズは、露出計連動ガイドが付いています。また、露出計連動爪は穴のあいたタイプになっています（ただし、AFニッコールレンズ［F3AF用は除く］、AI-Pニッコール等のCPUレンズ、シリーズE、ニッコール50mm F1.8Sには露出計連動爪は付いていません)。

■露出計連動レバー改造後の非AI方式レンズの取り付け方

1

- 露出計連動レバーを押し上げます。

2

- レンズの絞り指標とカメラの着脱指標を合わせて、時計と反対回りにカチッと音がして止まる位置（絞り指標が真上になる）までレンズを回します。

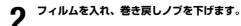
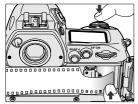
カメラの改造により使用可能になるレンズについて

- 下記のレンズは、カメラの露出計連動レバーを可倒式に改造することにより使用可能となります（有料）。
  ・AI改造をしてないレンズ（非AI方式レンズ）
  ・PC28mm F4（No.180900以前の製品）
  ・PC35mm F2.8（No.906200以前の製品）
  ・レフレックス1000mm F11（No.142361～143000）
  ・レフレックス2000mm F11（No.200111～200310）
  ・ED180-600mm F8（No.174041～174180）
  ・ED360-1200mm F11（No.174031～174127）
  ・200-600mm F9.5（No.280001～300490）
  ※：上記レンズにつきましては、すでに修理可能期間をすぎておりますので、修理依頼はお受けできません。

■フィルムの巻き上げ状態の確認方法

裏ぶたを開けたまま、フィルムの巻き上げ状態を確認することができます。

1 **電源スイッチをONにし、巻き戻しノブを引き上げて裏ぶたを開けます。**

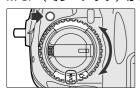
2 **フィルムを入れ、巻き戻しノブを下げます。**

3 **フィルムの先端をフィルム先端指標に合わせ、シャッターボタンを押します。**

- フィルムの穴（パーフォレーション）をスプールの突起部に合わせ、フィルムの先端をフィルム先端指標に合わせて指先で軽くフィルムを押しつけたままシャッターボタンを押すことにより、裏ぶたを開けたまま、フィルムの巻き上げ状態が確認できます。
- 確認後、裏ぶたを閉じると、さらにフィルムの空送りが行われ、1コマ目がセットされます（カスタムメニューの**「d1：フィルム自動空送」**を**「シャッター釦全押し」**にセットしてある場合はシャッターボタンを押してください P.103）。
- フィルム巻き上げ状態確認のため、シャッターボタンを繰り返し押すと、シャッターボタンを押した回数分撮影可能なフィルムコマ数が少なくなります。

■フィルム感度のセットと確認

DXマークの付いていないフィルムを使用する場合や、DXマーク付きでもフィルム感度を変更して増感撮影する場合は、下記の操作でフィルム感度を設定してください。

ISO感度ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで使用するフィルムのISO感度をセットします。

- コマンドダイヤルの回転でフィルム感度を DX またはISO 6〜6400の範囲（1/3段ステップ）にセットすることができます。
- DXマーク付フィルムの場合は、DX にセットしてフィルムを装填するとISO 25〜5000の範囲でフィルム感度は自動設定されます。
- DXマークがないフィルムの場合は、ISO 6〜6400の範囲でセットできます。
- セットされているフィルムの感度は背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）に表示されます（拡大表示時はISO感度ボタンを押すと確認できます）。

フィルムの増感・減感について

- DXマーク付フィルムを装填しても、DX 以外の感度にセットするとその感度が優先されますので、フィルムの増感・減感を行う撮影に便利です。

CSM d6：DX にセットして、誤ってDXマークがないフィルムを装填すると、上面表示パネルおよびファインダー内表示に Err が点滅し、背面表示パネルに「DX ERR」と表示して警告しますが、通常、フィルムを1コマ目まで空送りした後に行われるこの警告を、電源スイッチONの状態で裏ぶたを閉じただけで（1コマ目まで空送りせずに）行われるように変更できます（P.104）。

■給送モードの選択

給送モードダイヤルにより、S（1コマ巻き上げ）、CL（低速連続巻き上げ）、CH（高速連続巻き上げ）、CS（超低速連続巻き上げ）、◌（セルフタイマー）、M-UP（ミラーアップ）から選択できます。

給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルをセットします。

- 給送モードの種類と特徴は次のとおりです。

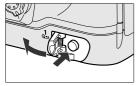
S　：**1コマ巻き上げ**
シャッターボタンを押すごとに、フィルムが1コマずつ巻き上げられます。

CL　：**低速連続巻き上げ**
シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約2コマ／秒［約4コマ／秒］で連続して巻き上げられます。

CH　：**高速連続巻き上げ**
シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約5.5コマ／秒［約8コマ／秒］で連続して巻き上げられます。

CS　：**超低速連続巻き上げ**
シャッターボタンを押し続けると、フィルムが最高約1コマ／秒［約2コマ／秒］で連続して巻き上げられます。巻き戻し速度も遅くなり、巻き戻し音は小さくなります。

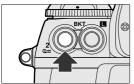
◌　：**セルフタイマー**
記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたい時などに便利です（P.84）。

M-UP：**ミラーアップ**
ミラーによる振動などを防止したい場合などに、1回目のレリーズでミラーをアップさせ、2回目のレリーズで露光を行うことができます（P.86）。

※：巻き上げ速度は、フォーカスモードC、露出モード M、シャッタースピード1/250秒以上、常温20℃、新品3Vリチウム電池使用時の1〜36コマ撮影時の平均値です（［ ］内は別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40使用時 P.172）。

電池消耗時の巻き上げ速度について

- 給送モードS、CH、およびセルフタイマー時に、電池が消耗している場合（バッテリーチェック表示 ▭ の点灯時）は、通常はミラーダウン開始時に行われるフィルム巻き上げが、ミラーダウン完了後に行われるように自動的に切り換わるため、巻き上げ速度が遅くなります。この場合、早めの電池交換をおすすめします。

■ボタン操作によるフィルムの自動巻き戻し

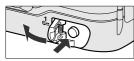
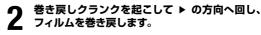
撮影途中でフィルムを巻き戻す時や、カスタムメニューの「d2：自動巻き戻し」（P.103）を「巻き戻し操作」にセットした場合は下記の操作で巻き戻しを行ってください。

R1ボタンカバーを開けてR1ボタンを押してから、R2ボタンを押します。

- フィルム巻き戻し中は、上面表示パネルおよびファインダー内表示にフィルム巻き戻し表示 が点滅し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。背面表示パネルには**「巻き戻し中」**と表示されます。
- 上面表示パネルおよびファインダー内表示に E が点滅し、背面表示パネルに**「巻き戻し完了」**と表示されると、巻き戻しは完了です（半押しタイマーがOFFになると、上面表示パネルの E が点灯に変わり、ファインダー内表示、および背面表示パネルの**「巻き戻し完了」**は消灯します）。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

巻き戻しを行う際は、巻き戻しノブが下がっていることを確認してください

- 巻き戻しノブが上がったままでは、フィルムの巻き戻しができません。

フィルムの巻き戻しが行われない場合

- 電池容量が極端に低下している場合や低温時には、上面表示パネルおよびファインダー内表示に、フィルム巻き戻し表示 とフィルムカウンターが点滅し、フィルムの巻き戻しが行われなかったり、巻き戻し途中でモーターが停止したりすることがあります。このような時は、いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして、再度巻き戻し操作を行うか、巻き戻しクランクを使用して手動で巻き戻しを行ってください（P.49）。
- フィルムの巻き戻し中に電源スイッチをOFFにすると、モーターが停止します。このような時は、電源スイッチをONにして、再度巻き戻し操作を行うか、巻き戻しクランクを使用して手動で巻き戻しを行ってください（P.49）。

CSM d3：フィルムを巻き戻す時に、パトローネ内にフィルムを全て巻き取らずに、フィルムリーダー部を残すように変更できます。（P.103）。

■巻き戻しクランクによるフィルムの手動巻き戻し

巻き戻しクランクを使用して、手動でフィルムを巻き戻すことができます。

1 **電源スイッチをONにし、R1ボタンカバーを開けてR1ボタンを押します。**

2 **巻き戻しクランクを起こして ▶ の方向へ回し、フィルムを巻き戻します。**

- フィルムの巻き戻しが終わりに近づくと、クランクの回転が少し軽くなります（これは、フィルムがスプールから離れる時です）。その後、さらにフィルムを充分に巻き取ります。
- 上面表示パネルおよびファインダー内表示に E が点滅し、背面表示パネルに**「巻き戻し完了」**と表示されると、巻き戻しは完了です（半押しタイマーがOFFになると、上面表示パネルの E が点灯に変わり、ファインダー内表示、および背面表示パネルの**「巻き戻し完了」**は消灯します）。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

✔ 手動巻き戻し時のご注意

- フィルムを完全にパトローネに巻き取らないうちは（先端を残したまま）、シャッターをきらないでください。シャッター幕を破損させることがあります。

R1ボタンについて

- 撮影途中で誤ってR1ボタンを押してしまった場合は、シャッターボタンを押しこむとR1ボタンを元に戻すことができます（この場合、シャッター幕は開かずにフィルムが1コマ送られますが、フィルムカウンターは変わりません）。

フィルムカウンターについて

- フィルム巻き戻し中のコマ数をフィルムカウンターに表示しますが、フィルムカウンターに表示されるコマ数は実際のコマ数と一致しない場合があります。

■AFサーボの選択

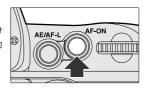
シングルAFサーボ（フォーカス優先）とコンティニュアスAFサーボ（レリーズ優先）の、2つのAFサーボから選べます。

ノーマル表示時

フォーカスモードセレクトダイヤルをS（シングルAFサーボ）、またはC（コンティニュアスAFサーボ）にセットします。

- セットされたAFサーボは、背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）に、シングルAFサーボの場合は**「AF-S」**、コンティニュアスAFサーボの場合は**「AF-C」**と表示されます。
- AFサーボの種類と特徴は次のとおりです。

S：**シングルAFサーボ（AF-S・フォーカス優先モード）**
ファインダー内ピント表示 ● が点灯している時のみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。ピント表示 ● が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されます（連続撮影時にもフォーカスロックされ続けます）。ただし、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカス（P.35）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターがきれる状態になります。被写体が静止した時はピント表示 ● が点灯して、ピントはそこでフォーカスロックされます。

C：**コンティニュアスAFサーボ（AF-C・レリーズ優先モード）**
ファインダー内ピント表示 ● の点灯、消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったんピント表示 ● が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、動いている被写体には予測駆動フォーカス（P.35）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。

マニュアルフォーカスについて

- フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にセットすれば、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます（P.63）。

AF作動ボタンについて

- オートフォーカスで撮影中にAF作動ボタンを押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けた時と同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

レンズ側のAF作動機能について

- レンズ側でもオートフォーカス動作ができるAF作動機能を備えたレンズがあります（AF-S VR ED200mm F2G、AF-S VR ED200-400mm F4Gなど）。詳細はレンズの使用説明書をご覧ください。

CSM a4：オートフォーカスでピント合わせる時に、シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタンの操作でのみオートフォーカスが作動するように変更できます（P.97）。

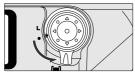
・この場合、AF作動ボタンを押し続けてカメラが自動的に被写体にピントを合わせた後に、AF作動ボタンから指をはなせばフォーカスロック（P.60）と同じような効果が得られます。

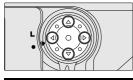
CSM c3：AF作動ボタンとAE/AFロックボタンの機能を、下記のように変更できます（P.102）。

・AF作動ボタンの機能とAE/AFロックボタンの機能を入れ換えます。

・AE/AFロックボタンもAF作動ボタンとして機能します（AF作動ボタンの機能は変更しません）。

・AF作動ボタンもAE/AFロックボタンとして機能します（AE/AFロックボタンの機能は変更しません）。

操作の詳細

■フォーカスエリアの選択

このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする11カ所のフォーカスエリアがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロック（P.60）の手間を省くことができます。

1 AFエリアモードセレクトダイヤルを [■] 以外に合わせます。

- AFエリアモードセレクトダイヤルを [■] に合わせると、フォーカスエリアを選択することができません。

シングルエリアAFモード時

2 マルチセレクターロックレバーを回転させてロックを解除し、マルチセレクターでフォーカスエリアを選択します。

- シングルエリアAFモード時およびダイナミックAFモード時には1カ所、グループダイナミックAFモード時には1グループを選択できます。
- シャッターボタンを半押しし、マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して希望するフォーカスエリアを選択します（マルチセレクターの中央を押すと、中央のフォーカスエリアまたは中央のフォーカスエリアグループが選択されます）。
- ファインダー内では、選択したフォーカスエリアのフレームが一瞬点灯します。
- 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には、選択したフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループが表示されます。

背面表示パネルのフォーカスエリア表示について

- 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）のフォーカスエリア表示は以下のとおりです。

  [▫]：**シングルエリアAFモード**
  選択したフォーカスエリアが表示されます。

  [⁘]：**ダイナミックAFモード**
  選択したフォーカスエリアが表示されます。

  [◇]：**グループダイナミックAFモード**
  選択したフォーカスエリアグループが、P.55のイラストのように表示されます。

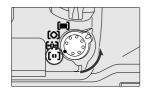
  [▬]：**至近優先ダイナミックAFモード**
  全てのフォーカスエリアが「▪」で表示されます（フォーカスエリアはカメラが自動的に選択します P.55）。

マルチセレクターロックレバーについて

- フォーカスエリアを選択した後、マルチセレクターロックレバーを回転させてロックすると、フォーカスエリアを選択した位置に固定することができます。

ファインダースクリーン交換時について

- ファインダースクリーンを別売の他のタイプ（P.174）に交換しても、フォーカスエリアの選択は可能です。

CSM a5：**マニュアルフォーカス時や連写時に、ファインダー内のフォーカスフレームが点灯しないように変更できます。また、フォーカスエリア選択時のフォーカスフレーム点灯時間を0.2秒または1秒のいずれかにセットできます（P.97）。**

CSM a6：**マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になる循環方式に変更できます（P.98）。**

CSM f1：**マルチセレクターの中央を押したときの機能を、ファインダー内で選択されているフォーカスエリアのフレームを点灯させるように変更したり、中央を押しても何も機能しないように変更したりできます（P.109）。**

■AFエリアモードの選択

オートフォーカス時に、11カ所のフォーカスエリアをどのように活用してピント合わせを行うか、撮影状況などに応じて4つのAFエリアモードから選択できます。

AFエリアモードセレクトダイヤルで、AFエリアモードをセットします。

● AFエリアモードの種類と特徴は次のとおりです。

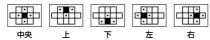
[ ] ： シングルエリアAFモード

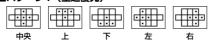
11カ所のフォーカスエリアの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアだけでピント合わせを行うモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせせいたい場合などに便利です。

● 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には選択したフォーカスエリアが表示されます。

[ ] ： ダイナミックAFモード

撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行うことが可能です（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。このモードは動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続ける時など、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

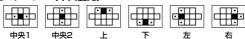
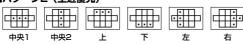
● 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には選択したフォーカスエリアが表示されます。

[ ] ： グループダイナミックAFモード

隣り合う複数のフォーカスエリアを組み合わせて、「中央、上、下、左、右」の5つのフォーカスエリアグループを構成し、撮影者自身がそのうちの1つのフォーカスエリアグループを選択します。選択されたフォーカスエリアグループ内の中央のフォーカスエリア（次ページのイラスト中の■）を使用してピント合わせを行います。動き回る被写体のおおよその位置が予測できる場合などに便利です。

● 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には選択したフォーカスエリアグループが次ページのイラストように表示されます。

● カスタムメニュー**「a3：グループダイナミックAF」**（P.96）で次のように変更できます。

・フォーカスエリアの組み合わせを、「中央1、中央2、上、下、左、右」の6つのフォーカスエリアグループに変更できます［パターン2（中央優先）、パターン2（至近優先)］。

・選択されたフォーカスエリアグループ内で至近優先ダイナミックAFモードのようにピント合わせを行うように変更できます［パターン1（至近優先）、パターン2（至近優先）］。

● フォーカスエリアグループの組み合わせは以下のとおりです。

■パターン1（中央優先）［初期設定］

■パターン1（至近優先）

■パターン2（中央優先）

■パターン2（至近優先）

・中央1と中央2の切り換えは、マルチセレクターの中央を押して行います。ただし、カスタムメニュー**「f1：中央釦の機能」**（P.109）を**「AFエリア中央リセット」**以外にセットしている場合は切り換えることができません。

[■]：至近優先ダイナミックAFモード

11カ所のフォーカスエリアのうち、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行う方法です。11カ所のフォーカスエリアのいずれかにピントが合いますので、ピントの外れた写真を避けることができます。

● フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）の場合、最終的にピントを合わせたフォーカスエリアのフレームが一瞬点灯します。また、フォーカスモードが**C**（コンティニュアスAFサーボ）の場合でも、カスタムメニュー**「a1：AF-Cモードの優先」**（P.96）を**「フォーカス」**にセットすると、同様に点灯します。

● 背面表示パネル（ノーマル表示時および詳細表示時）には全てのフォーカスエリアが「▪」で表示されます。

● 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い時には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

■オートフォーカス機能の組み合わせと特長（シングルAFサーボ：AF-S）

AFサーボ	AFエリアモード	背面表示パネル※1	フォーカスフレームの点灯	フォーカスエリアの選択	
AF-S	シングルエリアAFモード		選択したフォーカスエリア	任意選択	
AF-S	ダイナミックAFモード		選択したフォーカスエリア	任意選択	
AF-S	グループダイナミックAFモード		選択したフォーカスエリアグループ	任意選択（グループ内の中央※2）	
AF-S	至近優先ダイナミックAFモード		最終的にピントを合わせたフォーカスエリア	自動選択	

※1：表示例は中央のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択した場合（ノーマル表示時および詳細表示時）です（至近優先ダイナミックAFモード時はフォーカスエリアを選択することはできません）。また、グループダイナミックAFモードのフォーカスエリアグループの組み合わせは「パターン1（中央優先）」の場合です。

※2：カスタムメニューの**「a3：グループダイナミックAF」**（P.96）を**「パターン1（至近優先）」**または**「パターン2（至近優先）」**にセットした場合、選択したフォーカスエリアグループ内で、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。

	ピント合わせの動作	次のような被写体に便利です
	撮影者自身が選択したフォーカスエリアだけを使用してピント合わせを行います。ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
	撮影者自身が選択したフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。ただし、ピントが合う前に選択したフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行います。	動きのある被写体にも対応するなど、スナップ写真で汎用的に撮影する場合に便利です。
	撮影者自身が選択したフォーカスエリアグループ内の中央のフォーカスエリア※2を使用してピント合わせを行います。ピントが合うとフォーカスロックされますが、ピントが合う前にピント合わせを行っているフォーカスエリアから被写体が外れると、選択したフォーカスエリアグループ内の他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行います。	スナップ写真などで、ピント合わせはカメラまかせにして、構図を工夫して撮影したい場合に便利です。
	11カ所のフォーカスエリアのうち、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。ピントが合うとフォーカスロックされますが、ピントが合う前にピントを合わせているフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行います。	スナップ写真などピント合わせをカメラまかせにして、気軽に撮影する場合に便利です。

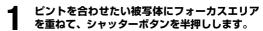
CSM a2：フォーカスモードがS（シングルAFサーボ）の時に、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるようにレリーズ優先に変更できます（P.96）。

■オートフォーカス機能の組み合わせと特長（コンティニュアスAFサーボ：AF-C）

AFサーボ	AFエリアモード	背面表示パネル[※1]	フォーカスフレームの点灯	フォーカスエリアの選択
AF-C	シングルエリアAFモード		選択したフォーカスエリア	任意選択
AF-C	ダイナミックAFモード		選択したフォーカスエリア	任意選択
AF-C	グループダイナミックAFモード		選択したフォーカスエリアグループ	任意選択（グループ内の中央[※2]）
AF-C	至近優先ダイナミックAFモード		点灯しません	自動選択

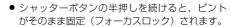
※1：表示例は中央のフォーカスエリアまたはフォーカスエリアグループを選択した場合（ノーマル表示時および詳細表示時）です（至近優先ダイナミックAFモード時はフォーカスエリアを選択することはできません）。また、グループダイナミックAFモードのフォーカスエリアグループの組み合わせは「パターン1（中央優先）」の場合です。

※2：カスタムメニューの**「a3：グループダイナミックAF」**（P.96）を**「パターン1（至近優先）」**または**「パターン2（至近優先）」**にセットした場合、選択したフォーカスエリアグループ内で、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。

ピント合わせの動作	次のような被写体に便利です
撮影者自身が選択したフォーカスエリアだけを使用してピント合わせを行います。ピントが合ってもフォーカスロックされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。	モータースポーツや陸上競技などで、１つのフォーカスエリアでとらえ続ける場合に便利です。
撮影者自身が選択したフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。ピントが合ってもフォーカスロックされません。選択したフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用して同じ被写体に対してピント合わせを行います。	被写体の動きを予想しづらく、１つのフォーカスエリアでとらえ続けることが困難な場合に便利です。
撮影者自身が選択したフォーカスエリアグループ内の中央のフォーカスエリア※2を使用してピント合わせを行います。ピントが合ってもフォーカスロックされません。ピントを合わせているフォーカスエリアから被写体が外れると、選択したフォーカスエリアグループ内の他のフォーカスエリアからのピント情報を利用して同じ被写体に対してピント合わせを行います。	動きの激しい被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして、構図を工夫して撮影したい場合に便利です。
11カ所のフォーカスエリアのうち、自動的に最も手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピント合わせを行います。ピントが合ってもフォーカスロックされません。ピントを合わせているフォーカスエリアから被写体が外れると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピント合わせを行います。	動きのある被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして、気軽に撮影する場合に便利です。

CSM a1：フォーカスモードがC（コンティニュアスAFサーボ）の時、通常よりもピント合わせを優先させる状態に変更できます。また、ピントが合っている時のみシャッターがきれるようにフォーカス優先にも変更できます（P.96）。

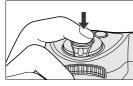
■フォーカスロック撮影

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物やものなど）が11カ所のフォーカスエリアのいずれからも外れる構図の時に使用します。また、「オートフォーカスが苦手な被写体」（P.62）にも有効です。フォーカスロックの方法はシングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ねて、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとピント表示 ● が点灯します。

2 ピント表示 ● が点灯したら、フォーカスロックを行います。

■シングルAFサーボ（AF-S）の場合

- シャッターボタンの半押しを続けると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。
- AE/AFロックボタンを押してフォーカスロックを行うこともできます（コンティニュアスAFサーボの場合をご覧ください）。

■コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合

- シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押し続けると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。
  - ・シャッターボタンから指を離しても、AE／AFロックボタンを押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（P.74）も同時に行われます。

3 **フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。**

- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックを行った場合は、シャッターをきった後もシャッターボタンから指を離さずに再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。AE/AFロックボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE/AFロックボタンを押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタンから指を離してフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

操作の詳細

CSMc2：AE/AFロックボタンを押した時に、AFロックだけ行われるように変更できます（P.101）。

CSMc3：AF作動ボタンとAE/AFロックボタンの機能を、下記のように変更できます（P.102）。

・AF作動ボタンの機能とAE/AFロックボタンの機能を入れ換えます。
・AE/AFロックボタンもAF作動ボタンとして機能します（AF作動ボタンの機能は変更しません）。
・AF作動ボタンもAE/AFロックボタンとして機能します（AE/AFロックボタンの機能は変更しません）。

■オートフォーカスが苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス P.63）に切り換えてマニュアルでピントを合わせるか、おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（P.60）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

■明暗差がはっきりしない場合

- 白壁や背景と同色の服をきている人物など。

■フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体

- オリの中の動物や木の前の人物など。

■連続した繰り返しパターンの被写体

- ビルの窓など。

■フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合

- 太陽が背景に入った日陰の人物など。

■フォーカスエリアに対して主要被写体が小さい場合

- フォーカスエリア内に遠くの建物と近くの人物が混在する場合など。

■絵柄がこまかな場合

- 一面の花畑など、小さな被写体や、明暗差が少ない被写体など。

被写体が非常に暗い場合

- マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）またはアクティブ補助光（AF補助光）を備えた別売のスピードライトを装着することにより、オートフォーカスによるピント合わせが行いやすくなります。マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）についてはP.159を、アクティブ補助光（AF補助光）についてはP.167をご覧ください。

マニュアルフォーカス

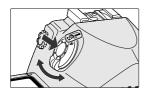
フォーカスモードセレクトダイヤルを M にセットすれば、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

■マニュアルフォーカスによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルをM（マニュアル）にセットします。ピントはレンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。

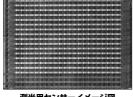
- シャッターは、ピント表示 ● の点灯、消灯にかかわらずきることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（P.62）を撮影する時や、オートフォーカス撮影ができないレンズ（P.40）を装着している時にご使用ください。
- ファインダースクリーンをJ、A、L型（別売 P.174）に交換すると、ピント合わせが素早く行えます。

■フォーカスエイドによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルをM（マニュアル）にセットした時、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着すると、ファインダー内ピント表示 ● により合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

- シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回してピント表示 ● を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。
- AFエリアモードセレクトダイヤルの位置にかかわらず、撮影者自身がマルチセレクターでフォーカスエリアを選択することができ、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます。
- ファインダー内表示に ▶ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも手前にピントが合っています。 ◀ 表示が点灯している時は、ピントを合わせたい被写体よりも後方にピントが合っています。いずれの場合も、レンズの距離リングを回してピント表示 ● を点灯させてください。

CSM a8：装着しているAF-SレンズまたはAF-IレンズをM/Aモードにセットし、カメラのフォーカスモードをマニュアルフォーカスにセットした場合でも、オートフォーカス撮影ができるように変更できます（P.98）。

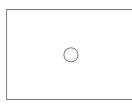
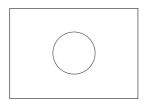
■測光モードの選択

被写体の光の状況に応じて、3つの測光モードから選べます。

測光モードダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードダイヤルで測光モードをセットします。

- ファインダー内に測光モード表示が表示されます。
- 装着レンズによっては使用できない測光モードがあります（P.40）。
- 測光モードの種類と特長は次のとおりです。

測光用センサーイメージ図

：3D-RGBマルチパターン測光

- 1005分割RGBセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が画面全体を大きく占めている場合などにより威力を発揮し、目で見た感じに近い明るさを再現します。

- Gタイプまたは Dタイプレンズ装着時のみ、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた3D-RGBマルチパターン測光となります。GタイプおよびDタイプ以外のCPUレンズ装着時や、「レンズ情報」（P.149）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定した非CPUレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。
- マルチパターン測光は、CPUレンズおよびレンズ情報の設定を行った非CPUレンズ装着時のみ可能です。これ以外の場合は、マルチパターン測光にセットしても、自動的に中央部重点測光に切り換えて制御します。
- AEロック（P.74）や露出補正（P.76）を行う時は、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。
- ファインダースクリーンをU型に交換した場合（別売 P.174）は、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

[◉]：中央部重点測光

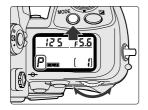
- 中央部重点測光はファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定します。φ12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。

CSM b4：中央部重点測光設定時の測光範囲をφ8mm、12mm、15mm、20mmのいずれかに、または測光方式を画面全体の平均測光に変更できます（P.100）。

[・]：スポット測光

- フォーカスエリアに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しい時など、フォーカスエリア相当の狭い範囲の露出を基準に撮影したい場合に適しています。

- 測光エリアは選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。ただし、グループダイナミックAFモード時（P.54）は、選択されたフォーカスエリアグループ内の中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。また、以下の場合、フォーカスエリアの連動は行われず、画面中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。
  - ・至近優先ダイナミックAFモード時（P.55）
  - ・非CPUレンズ使用時（P.41）
  - ・カスタムメニュー**「b6：スクリーン補正」**（P.100）で**「BorE以外」**にセットした場合（測光範囲はφ6mm相当［全画面の約3.3%］に変更されます）

露出倍数のかかるフィルターの使用について

- 露出倍数のかかるフィルター（P.177）を使用する場合、マルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。

CSM f3：ファンクション釦機能を「[◈]簡易設定」、「[◉]簡易設定」、「[・]簡易設定」のいずれかにセットすると、ファンクションボタンを押している間だけ、一時的にセットした測光モードに切り換わるように変更できます（P.110）。

操作の詳細

■ P：プログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようプログラム線図に従ってカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフトや露出補正（P.76）、オートブラケティング（P.77）などの併用により、高度な撮影も楽しめます。
・CPUレンズ装着時のみ使用できます。

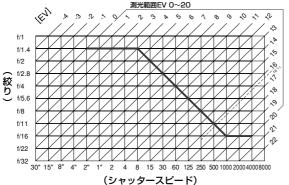
1 **露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを P にセットします。**

2 **構図を決め、ピントを合わせて撮影します。**

■プログラムシフトについて

- プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は上面表示パネルにプログラムシフトマーク＊が点灯します。解除は、プログラムシフトマーク＊が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、カスタムメニュー**「b1：露出設定ステップ」**（P.99）の設定の変更を行う、ツーボタンリセット（P.153）を行うなどで可能です。

レンズの絞りリングについて

- Gタイプ以外のCPUレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

非CPUレンズ使用時について

- 非CPUレンズを装着すると、露出モードを自動的に A（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、上面表示パネルの P が点滅して警告し、ファインダー内表示に A が点灯します。「レンズ情報」（P.149）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に絞り値が表示されます。この場合、絞りリングによる中間絞りのセットは可能ですが、表示は1段単位になります。開放絞り値を設定しない場合、絞り値表示が開放からの絞り段数表示（例：ΔF2［開放から2段の場合］）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

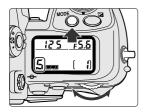
警告表示について

- 次の警告が上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり（露出オーバー）暗すぎたりして（露出アンダー）、カメラの制御範囲を超えています。以下のように対応してください。
  - ・HI：ND（光量調節用）フィルター（別売）を使用してください。
  - ・Lo：スピードライト（別売）を使用してください。

プログラム線図について

- プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです。

━：ISO 100、開放絞りf/1.4・最小絞りf/16のレンズ（例：AF50mm F1.4D）の場合

- フィルム感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の時16⅓を越えるEV値では、全て16⅓として制御されます。

CSM b1：上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます（P.99）。

■ S：シャッター優先オート

撮影者がシャッタースピード（30秒～1/8000秒、X）をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影などで被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

・CPUレンズ装着時のみ使用できます。

1 **露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを S にセットします。**

2 **メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/8000秒、X）をセットします。**

3 **構図を決め、ピントを合わせて撮影します。**

bulb が点滅した場合について

● 露出モードを M（マニュアル）にして bulb にセットした後、bulb を解除しないで S（シャッター優先オート）にセットすると、bulb 表示が点滅してシャッターはきれません。S で撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回して bulb 以外のシャッタースピードにセットしてください。

シャッタースピードのロックについて

● 操作手順の2でセットしたシャッタースピードをロックする場合は、コマンドロックボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルおよびファインダー内表示にシャッタースピードロックマーク 🄻 を点灯させせます。背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）にはシャッタースピードが反転表示されます。解除する時は、コマンドロックボタンを押しながらメインコマンドダイヤルでシャッタースピードロックマーク 🄻 を消灯させてください。

詳細表示時

レンズの絞りリングについて

● Gタイプ以外のCPUレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

非CPUレンズ使用時について

● 非CPUレンズを装着すると、露出モードを自動的に A（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、上面表示パネルの S が点滅して警告し、ファインダー内表示に A が点灯します。「レンズ情報」（P.149）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に絞り値が表示されます。この場合、絞りリングによる中間絞りのセットは可能ですが、表示は1段単位になります。開放絞り値を設定しない場合、絞り値表示が開放からの絞り段数表示（例：ΔF2［開放から2段の場合］）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

警告表示について

● 次の警告が上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり（露出オーバー）暗すぎたりして（露出アンダー）、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが表示されます）。以下のように対応してください。

・HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルター（別売）を使用してください。

・Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライト（別売）を使用してください。

CSM b1：上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます（P.99）。

CSM f4：サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセットが行えるように変更できます（P.111）。

■ A：絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り〜開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（P.169）。

1 **露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを A にセットします。**

2 **サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り〜開放絞り）をセットします。**

3 **構図を決め、ピントを合わせて撮影します。**

絞りのロックについて

詳細表示時

- 操作手順の2でセットした絞りをロックする場合は、コマンドロックボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルで上面表示パネルおよびファインダー内表示に絞りロックマーク L を点灯させます。背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）には絞りが反転表示されます。解除する時は、コマンドロックボタンを押しながらサブコマンドダイヤルで絞りロックマーク L を消灯させてください。また、レンズを取り外した場合も解除されます。

レンズの絞りリングについて

- Gタイプ以外のCPUレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

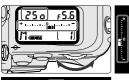
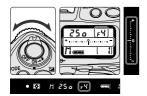
非CPUレンズ使用時について

- 非CPUレンズを装着時に、「レンズ情報」（P.149）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に絞り値が表示されます。この場合、絞りリングによる中間絞りのセットは可能ですが、表示は1段単位になります。開放絞り値を設定しない場合、絞り値表示が開放からの絞り段数表示（例：ΔF2［開放から2段の場合］）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

警告表示について

- 次の警告が上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり（露出オーバー）暗すぎたりして（露出アンダー）、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが表示されます）。以下のように対応してください。
  - ・HI：より大きい数値の絞りにセットし、それでも警告表示が消えない時は、ND（光量調節用）フィルター（別売）を使用してください。
  - ・Lo：より小さい数値の絞りにセットし、それでも警告表示が消えない時は、スピードライト（別売）を使用してください。

CSM b1：上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます（P.99）。

CSM f4：メインコマンドダイヤルで絞りのセットを行えるように変更できます（P.111）。また、Gタイプ以外のCPUレンズ装着時に、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットを行えるように変更できます（P.112）。

■ M：マニュアル

シャッタースピード（bulb、30秒～1/8000秒、X）も絞り（最小絞り～開放絞り）も、撮影者が自由にセットできるので、上面表示パネルまたはファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

1 **露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを M にセットし、構図を決めます。**

2 **露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。**

- シャッタースピード（bulb、30秒～1/8000秒、X）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらを先にセットしてもかまいません）。
- シャッタースピードを bulb にセットすると長時間露出（バルブ）撮影（P.82）となります。

3 **構図を決め、ピントを合わせて撮影します。**

シャッタースピードと絞りのロックについて

- セットしたシャッタースピードと絞りはそれぞれロックできます。シャッタースピードのロック方法はP.69の「シャッタースピードのロックについて」を、絞りのロック方法はP.71の「絞りのロックについて」をご覧ください。

露出インジケーターについて

- 露出インジケーターの見方は以下のとおりです（例：上面表示パネル）。
  ・カメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅警告します

露出値のステップが1/3段の場合	露出値のステップが1/2段の場合	露出値のステップが1段の場合
適正露出の状態	適正露出の状態	適正露出の状態
2/3段アンダーの状態	1/2段アンダーの状態	3段以上アンダーの状態
3段以上オーバーの状態	1/2段オーバーの状態	1段オーバーの状態

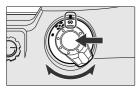
レンズの絞りリングについて

- Gタイプ以外のCPUレンズの絞りリングが最小絞りにセットされていない時は、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

非CPUレンズ使用時について

- 非CPUレンズを装着時に、「レンズ情報」（P.149）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に絞り値が表示されます。この場合、絞りリングによる中間絞りのセットは可能ですが、表示は1段単位になります。開放絞り値を設定しない場合、絞り値表示が開放からの絞り段数表示（例：ΔF2 [開放から2段の場合]）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

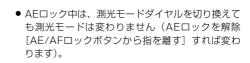
AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

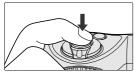
- AFマイクロレンズをこのカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合のみ、露出倍数を考慮した補正が必要となります。

CSM b1：上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます（P.99）。

CSM b5：露出モードが M（マニュアル）の時に、通常30秒まで設定できる低速側のシャッタースピードを、最長30分まで延長できます（P.100）。

CSM f4：シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます（P.111）。また、Gタイプ以外のCPUレンズ装着時に、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットを行えるように変更できます（P.112）。

AEロック撮影

AEロック撮影は、撮影画面内の露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE/AFロックボタンを押してその露出をカメラに記憶させて、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出モードは M（マニュアル）以外にセットしてください。

1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

- マルチパターン測光は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリア（スポット測光時）または画面中央部（中央部重点測光時）を重ね、シャッターボタンを半押ししたままAE/AFロックボタンを押して、ピント表示 ● の点灯を確認します。

- AE/AFロックボタンを押すと、ファインダー内にAEロック表示 **AE-L** が点灯します。

3 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

- AEロック中は、測光モードダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除［AE/AFロックボタンから指を離す］すれば変わります）。

測光モードごとの記憶される露出

- **スポット測光時：**
  - ・シングルエリアAFモード時（P.54）、ダイナミックAFモード時（P.54）、マニュアルフォーカス時（P.63）は、選択したフォーカスエリアに相当する部分の露出が記憶されます（全てCPUレンズ使用時）。
  - ・グループダイナミックAFモード時（P.54）は、選択したフォーカスエリアグループ内の中央のフォーカスエリアに相当する部分の露出が記憶されます（CPUレンズ使用時）。
  - ・至近優先ダイナミックAFモード時（P.55）、非CPUレンズ使用時（P.41）、カスタムメニュー**「b6：スクリーン補正」**（P.100）で**「BorE以外」**にセットした場合は、画面中央のフォーカスエリアに相当する部分の露出が記憶されます。
- **中央部重点測光時：**
  - ・画面中央部φ12mmの円内の露出が記憶されます。

露出モードごとのAEロック中にできること

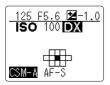
- P（プログラムオート）：プログラムシフト（P.66）
- S（シャッター優先オート）：シャッタースピードの変更
- A（絞り優先オート）：絞りの変更
  - ・いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞り値が表示されます。

オートフォーカス時のAEロック

- フォーカスロック（P.60）も同時に行われますので、ピント表示 ● の点灯も確認してください。

CSM c1：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（P.101）。

CSM c2：AE/AFロックボタンを押した時の機能を、下記のように変更できます（P.101）。

- ・AEロックだけ行われるように変更できます。
- ・AE/AFロックボタンから指を離してもAEロックの状態が保持され、シャッターをきる、半押しタイマーがOFFになる、または再度AE/AFロックボタンを押すと解除されるように変更できます。
- ・AE/AFロックボタンから指を離してもAEロックの状態が保持され、半押しタイマーがOFFになる、または再度AE/AFロックボタンを押すと解除されるように変更できます（シャッターをきってもAEロックは解除されません）。
- ・フォーカスロックだけ行われるように変更できます。

露出補正

露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの強いものがある場合、カラースライド撮影など適正露出の許容範囲（ラチチュード）が小さい時に段階的に露出をずらして撮影する場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です。

－1.0段補正

－1.0段補正（詳細表示時）

1 露出補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。

- 露出補正ボタンを押すと、露出インジケーターが露出補正インジケーターとして補正量を表示し、インジケーターの 0 が点滅表示されます。
- 補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク が点灯します。また、上面表示パネルおよび背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）には常に補正量が表示されます。
- 露出補正ボタンを押している間、ファインダー内表示の露出補正マークが、＋側にセットしている場合は と、－側にセットしてある場合は と表示されます。
- 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（P.153）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

P 125 F5.6

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

スピードライト使用時に露出補正を行うと、同時にスピードライトの発光量も補正されます

露出補正の目安

- 被写体（人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

CSM b2：露出補正量のステップを1/2段または1段に変更できます（P.99）。
CSM b3：コマンドダイヤルの操作だけで、露出補正が行えるように変更できます（P.99）。

オートブラケティング（自動段階露出）

オートブラケティングをセットすれば、カメラが表示する適正露出値（露出モードが M［マニュアル］の場合は撮影者がセットした露出値）に対して、シャッターをきるごとにセットした撮影コマ数（最大7コマ）まで、セットした補正ステップで自動的に露出をずらした（露出補正なしで最大±3段）撮影が行えます。いずれの露出モードでもセット可能です。

1 オートブラケティングボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルで補正ステップをセットします。

- オートブラケティングボタンを押している間は、撮影コマ数と補正ステップが背面表示パネルに表示されますので、背面表示パネルで確認しながらセットしてください。
- 撮影コマ数を0コマ以外にセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示にオートブラケティングマーク BKT が点灯し、露出インジケーターがオートブラケティングインジケーターとしてセット状態を表示します（ただし、露出モードが M［マニュアル］の時は上面表示パネルのみがオートブラケティングインジケーターになります）。また、背面表示パネルには補正ステップとオートブラケティングインジケーターが表示されます。
- 補正ステップと撮影コマ数の組み合わせと撮影順序についてはP.78、79の表をご覧ください。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中は補正されたシャッタースピードと絞り値が表示されます。

露出モードが P（プログラムオート）の時はシャッタースピードと絞りが、S（シャッター優先オート）の時は絞りが、A（絞り優先オート）と M（マニュアル）の時はシャッタースピードが変化します。

いずれの露出モードでも、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体のTTL調光レベル（SBブラケティング）と、定常光で照らされている背景の露出（AEブラケティング）の両方に補正が行われます。

CSMe5：通常はAEブラケティングとSBブラケティングが同時に行われますが、AEブラケティングのみ、またはSBブラケティングのみに変更できます（P.107）。

CSMe6：通常、露出モードが M（マニュアル）の場合はシャッタースピードとスピードライトの調光レベルが変化しますが、「シャッタースピードと絞り値と調光レベル」、「絞り値と調光レベル」、「調光レベルのみ」のいずれかが変化するように変更できます（P.108）。

CSMe8：メインコマンドダイヤルでオートブラケティングのON/OFFを、サブコマンドダイヤルで補正ステップと撮影コマ数の組み合わせをセットできるように変更できます（P.108）。

操作の詳細

■補正ステップと撮影コマ数の組み合わせ一覧表

補正ステップ	撮影コマ数	オートブラケティングインジケーター（上面表示パネル）	撮影順序（初期設定）	組み合わせで選択時の設定画面※
1/3段	両側7コマ	+ 0 BKT −	0/−1.0/−0.7/−0.3/+0.3/+0.7/+1.0	−
1/2段	両側7コマ	+ 0 BKT −	0/−1.5/−1.0/−0.5/+0.5/+1.0/+1.5	−
2/3段	両側7コマ	+ 0 BKT −	0/−2.0/−1.3/−0.7/+0.7/+1.3/+2.0	−
1段	両側7コマ	+ 0 BKT −	0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0	−
1/3段	両側5コマ	+ 0 BKT −	0/−0.7/−0.3/+0.3/+0.7	−
1/2段	両側5コマ	+ 0 BKT −	0/−1.0/−0.5/+0.5/+1.0	−
2/3段	両側5コマ	+ 0 BKT −	0/−1.3/−0.7/+0.7/+1.3	−
1段	両側5コマ	+ 0 BKT −	0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0	−
1/3段	両側3コマ	+ 0 BKT −	0/−0.3/+0.3	3F0.3EV
1/2段	両側3コマ	+ 0 BKT −	0/−0.5/+0.5	3F0.5EV
2/3段	両側3コマ	+ 0 BKT −	0/−0.7/+0.7	3F0.7EV
1段	両側3コマ	+ 0 BKT −	0/−1.0/+1.0	3F1.0EV
1/3段	一側2コマ	+ 0 BKT −	0/−0.3	2F0.3EV
1/2段	一側2コマ	+ 0 BKT −	0/−0.5	2F0.5EV
2/3段	一側2コマ	+ 0 BKT −	0/−0.7	2F0.7EV
1段	一側2コマ	+ 0 BKT −	0/−1.0	2F1.0EV

補正ステップ	撮影コマ数	オートブラケティングインジケーター(上面表示パネル)	撮影順序(初期設定)	組み合わせで選択時の設定画面※
1/3段	＋側2コマ		0/+0.3	2F0.3EV
1/2段	＋側2コマ		0/+0.5	2F0.5EV
2/3段	＋側2コマ		0/+0.7	2F0.7EV
1段	＋側2コマ		0/+1.0	2F1.0EV
1/3段	－側3コマ		−0.3/−0.7/0	3F0.3EV
1/2段	－側3コマ		−0.5/−1.0/0	3F0.5EV
2/3段	－側3コマ		−0.7/−1.3/0	3F0.7EV
1段	－側3コマ		−1.0/−2.0/0	3F1.0EV
1/3段	＋側3コマ		+0.3/0/+0.7	3F0.3EV
1/2段	＋側3コマ		+0.5/0/+1.0	3F0.5EV
2/3段	＋側3コマ		+0.7/0/+1.3	3F0.7EV
1段	＋側3コマ		+1.0/0/+2.0	3F1.0EV

※：カスタムメニュー**「e8：BKT設定方法」**（P.108）を**「組み合わせで選択」**にセットした場合、補正ステップと撮影コマ数の組み合わせを選択する時に表示されます。この場合、表中　　の補正ステップと撮影コマ数の組み合わせは選択することができません。

- 撮影コマ数が2コマ以外の場合、1コマ目はオートブラケティングインジケーター上の中間の補正値から撮影され、2コマ目以降はマイナス側からプラス側へ順番に撮影されます。
- 補正ステップはカスタムメニュー**「b1：露出設定ステップ」**（P.99）の設定にかかわらずセットできますが、オートブラケティング撮影中に上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードおよび絞り値は**「b1：露出設定ステップ」**の設定に従って表示されますので、実際に制御されているシャッタースピードおよび絞り値と、表示されているシャッタースピードおよび絞り値が異なる場合があります。

CSMe7：補正順序を、マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（P.108）。

操作の詳細

■オートブラケティングの解除方法

- オートブラケティングボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで撮影コマ数を0コマにセットしてください（セットした補正ステップは保持されます）。また、カスタムメニュー**「e8：BKT設定方法」**（P.108）を**「組み合わせで選択」**にセットした場合は、メインコマンドダイヤルで「撮影OFF」にセットしてください（セットした補正ステップと撮影コマ数は保持されます）。
- ツーボタンリセット（P.153）、カスタムメニューの**「C：カスタム切換え」**（P.93）、**「R：カスタムリセット」**（P.94）、**「b1：露出設定ステップ」**または**「b2：露出補正ステップ」**の設定変更（P.99）を行った場合も解除されます。

オートブラケティングとその他の機能

- **露出補正（P.76）が同時にセットしてある場合：**
  - ・両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±3段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- **フィルム給送モードをCL（低速連続巻き上げ）、CH（高速連続巻き上げ）、CS（超低速連続巻き上げ）にセットし撮影している場合：**
  - ・シャッターボタンを押し続けると、セットした撮影コマ数が終了した時点でいったん自動的に停止します。ただし、カスタムメニュー**「f3：ファンクション釦機能」**（P.110）を**「BKT自動連写」**にセットすると、ファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けている間は、セットした撮影コマ数が終了しても繰り返しオートブラケティング撮影を行います。
- **フィルム給送モードをS（1コマ巻き上げ）にセットし撮影している場合：**
  - ・カスタムメニュー**「f3：ファンクション釦機能」**（P.110）を**「BKT自動連写」**にセットして、ファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けると、セットした撮影コマ数だけ連続撮影を行い自動的に停止します。
- **セルフタイマー撮影時（P.84）：**
  - ・セットした撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。

オートブラケティング中にフィルムが終わった場合など

- フィルム交換後に残りの撮影が行えます。また、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合も再びONにすれば残りの撮影が行えます。

シャッタースピードの補正が行われない場合について

- 下記の場合、オートブラケティングによるシャッタースピードの補正は行われません。いずれの場合も、カスタムメニュー**「e6：BKT変化要素」**（P.108）を**「絞り値」**、**「シャッタースピードと絞り値」**、または**「SB」**にセットすることにより、絞りまたはTTL調光レベルを変化させたオートブラケティング撮影が可能です。
  - ・カスタムメニュー**「b5：シャッタースピード延長」**（P.100）を**「ON」**にセットし、低速側に40秒以上のシャッタースピードがセットされている場合
  - ・露出モードが M（マニュアル）の時に、シャッタースピードが X にセットされている場合
  - ・スピードライト使用時に、シャッタースピードが bulb にセットされている場合

撮影中のオートブラケティングインジケーター表示について

- 撮影中のオートブラケティングインジケーターは、補正値を示す表示が1コマ撮影するごとに消灯します。

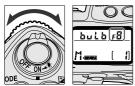
	補正ステップ：1/3段 撮影コマ数：両側3コマの場合		補正ステップ：2/3段 撮影コマ数：－側3コマの場合	
撮影状態	上面表示パネル	背面表示パネル（ノーマル表示時）	上面表示パネル	背面表示パネル（ノーマル表示時）
セット時	+ ....0 BKT ..... −	0.3 BKT	+ ....0 BKT ..... −	0.7 BKT
1コマ撮影後	+ ....0 BKT ..... −	0.3 BKT	+ ....0 BKT ..... −	0.7 BKT
2コマ撮影後	+ ....0 BKT ..... −	0.3 BKT	+ ....0 BKT ..... −	0.7 BKT
3コマ撮影後	+ ....0 BKT ..... −	0.3 BKT	+ ....0 BKT ..... −	0.7 BKT
3コマ撮影後から約0.5秒後	+ ....0 BKT ..... −	0.3 BKT	+ ....0 BKT ..... −	0.7 BKT

露出補正時のオートブラケティングインジケーター表示について

- 露出補正時の上面表示パネルおよびファインダー内表示のオートブラケティングインジケーターは、補正値を示す表示がセットした露出補正量分を加味して表示されます。ただし、最大補正値の表示がインジケーターの表示範囲外になる場合は範囲外表示 ◀ または ▶ を表示します。

露出補正量	補正ステップ：1/3段 撮影コマ数：両側3コマの場合	補正ステップ：2/3段 撮影コマ数：－側3コマの場合
補正無し	+ ....0 BKT .... −	+ ....0 BKT .... −
＋1.0	+ ....0 BKT .... −	+ ....0 BKT .... −
＋2.7	+ ....0 BKT .... −	+ ....0 BKT .... −
－3.0	+ ....0 BKT .... −	+ ....0 BKT .... −
－4.0	+ ....0 BKT .... −	+ ....0 BKT .... −

操作の詳細

長時間露出撮影

長時間露出（バルブ）は夜景や天体撮影など、30秒を超えるシャッタースピードで撮影したい時に便利です。シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります（三脚のご使用をおすすめします）。

1 露出モードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを M にセットします。

- イルミネーター（P.83）を使用すると、暗い所で上面表示パネルおよび背面表示パネルの表示が見やすくなります。

2 メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを bulb にセットし、サブコマンドダイヤルで絞りをセットします。

- 露出モードを M（マニュアル）にして bulb にセットした後、S（シャッター優先オート）にセットすると、bulb 表示が点滅してシャッターはきれません。
- 連続撮影可能時間は、新品3V CR123A リチウム電池を使用して約5時間です。ただし、低温時には電池の性能が低下しますので短くなります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- シャッターボタンを押すと、押している間はシャッターが開いたままとなります。
- シャッターボタンを指で押し続けるかわりに、別売のリモートコード、MC-30またはMC-36などを使用すると手ブレを軽減できます（P.176）。

長時間露出時の電源について

- シャッタースピードを bulb にセットして長時間露出撮影をする場合は、撮影中の電池切れを防ぐため、新品電池のご使用をおすすめします。また、別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40（P.172）を使用すると、さらに長時間の撮影が可能になります。

CSM b5：露出モードが M（マニュアル）の時に、通常30秒まで設定できる低速側のシャッタースピードを、最長30分まで延長できます（P.100）。

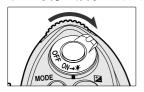
視度調節機能／イルミネーター

■視度調節機能

視度調節機能により、視力に合わせてファインダー内の像を見やすくできます。

視度調節ノブを引き上げ、ファインダーをのぞきながらファインダー内のフォーカスエリア、またはファインダー内表示が最も鮮明に見える位置まで回します。

- 視度調節は－2.0～＋1.0m^{-1}（近視～遠視）の間で可能です（＋－が水平になる位置が－1.0m^{-1}です）。また、別売の接眼補助レンズ（DK-17C）は－3.0～＋2.0m^{-1}の間で5種類が用意されています（P.173）。

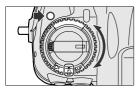
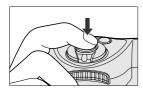
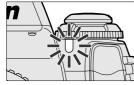
視度調節ノブを回す際のご注意

- ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回す際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目などを傷つけないように注意してください。

接眼補助レンズを取り付ける場合

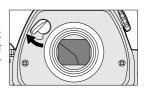
- 接眼補助レンズ（別売）は、付属アイピースDK-17を取り外して取り付けます。
  1. アイピースシャッターを閉じ、アイピースロックを解除します①。
  2. 付属アイピースをイラストのように反時計回りに回転させ、外します②。
  3. 接眼補助レンズを、イラストとは逆の方向（時計回り）に回転させながら、ねじ込んで固定します。
  4. アイピースシャッターを開き、アイピースロックをします。

  ・取り付ける際はアイピースロックを解除する必要はありません。アイピースシャッターの開閉にかかわらず取り付けることができます。

■イルミネーター

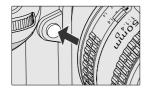
イルミネーターを点灯させると、暗い所で上面表示パネルおよび背面表示パネルの表示が確認しやすくなります。

電源スイッチをイルミネーター まで回すと、半押しタイマーが作動するとともに上面表示パネルおよび背面表示パネルにブルーグリーンのイルミネーターが点灯します。

- 電源スイッチは指を離すと元の位置に戻りますが、イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターをきった直後には消灯します。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたい時などに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 **給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルを ⏲ にセットします。**

2 **構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押します。**

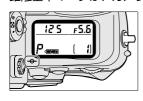
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズ前を体でさえぎらないように注意してください。
- セルフタイマーが作動すると、セルフタイマー表示LEDが8秒間点滅、2秒間点灯して合計10秒後にシャッターがきれます。
- フォーカスモードがS（シングルAFサーボ）の場合でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- 解除するには、給送モードセレクトダイヤルを ⏲ 以外にセットしてください。
- 露出モードが M（マニュアル）の場合でシャッタースピードが bulb にセットされている時は、約1/10秒でシャッターがきれます。

アイピースシャッターについて

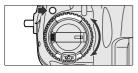
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じてください。

CSM c5：セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます（P.102）。

プレビューボタン／距離基準マーク

■プレビューボタン

ファインダーで被写界深度が確認できます。

ファインダーをのぞきながらプレビューボタンを押します。

- プレビューボタンを押し続けると、露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）の時は制御される絞りまで、露出モードが A（絞り優先オート）、M（マニュアル）の時はセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、おおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲 P.38）が確認できます。
- 別売のスピードライトSB-800・600使用時は、モデリング発光も同時に行われます（P.157）。モデリング発光を行いたくない場合は、スピードライトの電源をOFFにするか、カスタムメニュー「**e4：モデリング発光**」を**「OFF」**にセットしてください（P.107）。
- CPUレンズ使用時は、絞り込む前にAEロック（P.74）も同時に行われますので、そのままシャッターボタンを押して撮影できます。

■距離基準マーク

距離基準マークは、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。

- 距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内のフィルム面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
- レンズ取り付け面（レンズマウント）からフィルム面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

ミラーアップ撮影

望遠レンズ使用時や接写などでミラーによる振動を防止したい場合に、1回目のレリーズでミラーをアップさせ、2回目のレリーズで露光を行うことができます。

1 **給送モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルを M-UP にセットします。**

2 **構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押し込むと、ミラーアップ状態になります。**

- ミラーアップ中は、測光値およびピント（オートフォーカス時）はミラーアップ直前の状態でロックされます。また、ファインダーによる構図の確認はできません。

3 **もう一度シャッターボタンを押し込むとシャッターがきれ、ミラーが戻ります。**

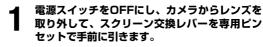
■ミラーアップ撮影の解除

- シャッターをきった（撮影した）後に、給送モードセレクトダイヤルをM-UP以外にセットします（ミラーアップ中にM-UP以外にセットしても解除できますが、自動的に直ちにシャッターがきれてフィルムが1コマ巻き上げられます）。
- 下記の場合は自動的にシャッターがきれてフィルムが1コマ巻き上げられますが、ミラーアップ撮影は解除されません。
  - ・ミラーアップ状態が約30秒間続いた時
  - ・ミラーアップ状態で電源スイッチをOFFにした時

ミラーアップ中のご注意

- ミラーアップ状態のまま、太陽光にレンズ面を向けて放置しないでください。太陽光がレンズ面より直接入射して、シャッター幕が焼けるおそれがあります。特に、大口径の望遠レンズを使用する際には注意してください。
- ミラーアップ状態でR1ボタンを押すと、シャッターがきれて上面表示パネルとファインダー内表示に Err が点滅し、背面表示パネルに「ERR」と表示して警告します。シャッターボタンを押して警告表示を解除してください（フィルムが1コマ送られますが、フィルムカウンターは変わりません）。

リモートコードについて

- 別売のリモートコード、MC-30またはMC-36などを使用すると、さらに撮影時の振動を軽減することができます（P.176）。

ファインダースクリーンの交換

このカメラにはB型クリアマットスクリーンが装着されていますが、別売のファインダースクリーン（U、E、M、J、A、L型 P.174）に交換できます。

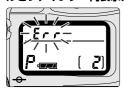
1 電源スイッチをOFFにし、カメラからレンズを取り外して、スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引きます。

- ファインダースクリーンが枠ごと下がります。

2 ファインダースクリーンの突起部をピンセットではさんで取り出し、装着するファインダースクリーンを枠に載せます。

- ファインダースクリーンは確実に枠の上に載せてください。

3 カチッと音がするまで枠を押し上げ、ファインダースクリーンを固定します。

- ファインダースクリーン交換の際は、カメラのミラーやファインダースクリーン面に触れないようにしてください。
- ファインダースクリーンは必ずF6専用のものを使用してください（他機種のファインダースクリーンは使用できません）。

スクリーン補正について

- B型（標準装備）およびE型のファインダースクリーンを使用する場合やマルチパターン測光時は必要ありませんが、B型およびE型以外のファインダースクリーンを使用する場合は、レンズやテレコンバーター等との組み合わせにより測光値の補正が必要となる場合があります。カスタムメニュー**「b6：スクリーン補正」**（P.100）を**「BorE以外」**にセットして、補正量を設定してください（補正量はファインダースクリーンの使用説明書をご覧ください）。
  - ・B型およびE型以外の場合は、補正量が0でも、**「BorE以外」**にセットしてください。

シャッターモニター機能

このカメラは、シャッターをきるごとにシャッタースピードを自動的にチェックして精度を補正する、「シャッターモニター機能」を内蔵しています。

シャッターモニター機能により、シャッタースピードの誤差を最小に抑えて制御すると同時に、シャッター幕に万一何らかの異常を検出した場合には、上面表示パネルとファインダー内表示に Err 表示を点滅させて警告します。

- シャッター精度やシャッター幕の異常を検出した場合は、上記の警告を行います。この場合、再度シャッターをきってください。この操作で警告表示がいったん解除され、撮影は継続できますが、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービスセンターにご相談ください。
- 警告が表示された撮影コマは、正常に撮影されていないおそれがあります。
- シャッターに不具合がある場合でも、ごくまれに警告が表示されない場合があります。

メニューガイド

ここでは各メニューの詳細を説明しています。

■カスタムメニュー［ P.92〜112］

- カメラの各機能の働きやセット内容を、撮影者自身の好みに合わせて変更できます。

■セットアップメニュー［ P.113〜128］

- 撮影データの記憶に関する設定や、日時の設定を行います。

■撮影メニュー［ P.129〜148］

- 撮影データの写し込み、多重露出撮影、インターバルタイマー撮影の設定を行います。

■レンズ情報［ P.149〜151］

- 非CPUレンズの焦点距離および開放絞り値の設定を行います。

■言語（Language）［ P.152］

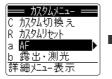
- 背面表示パネルに表示される表示言語の設定を行います。

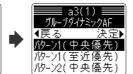
メニュー画面では、マルチセレクターの▼または▲で反転表示されている部分を移動させて項目を選択し、▶（またはマルチセレクターの中央部）を押して設定または決定を行います。

■メニューの設定方法（例：カスタムメニュー「a3：グループダイナミックAF」の場合）

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

- マルチセレクターがロックされている場合は、ロックを解除してください。

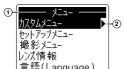
2 設定したいメニューを表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で設定したいメニューを選択し、▶を押すと選択したメニュー画面が表示されます。

3 設定したい項目を表示させます。

- ▼または▲で設定したい項目を選択し、▶を押すと選択した項目の詳細（サブメニュー）が表示されます。

4 設定したい機能を表示させます。

- ▼または▲でサブメニューの中からセットしたい機能を選択し、▶を押すと機能のセット内容が表示されます。

- カスタムメニュー「a5：フォーカスフレーム設定」および「f4：コマンドダイヤル設定」の場合、さらにサブメニューがあります。

5 機能を設定します。

- ▼または▲で設定したいセット内容を選択し、▶を押すと機能のセット内容が決定して、手順3で選択したメニュー画面に戻ります。

6 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

メニュー画面について

- メニュー画面内の表示は、それぞれ以下の事項を表しています。

①：**メニューの階層［☰］**
メニュー画面上部にある横線の本数は、メニューの階層を表しています。本数が多いほど深い階層になります。

②：**サブメニュー／選択項目［▶］**
選択している項目の右側に表示されている▶は、サブメニューまたは選択項目があることを表しています。

③：**初期設定以外の設定［*］**
項目の左側に表示されている＊は、初期設定以外に設定されている項目を表しています。

④：**設定状態**
選択している項目の設定状態が、メニュー画面の下部に表示されます。ただし、選択している項目にサブメニューがある場合は、**「詳細メニュー表示」**と表示されます。

カスタムメニュー

カメラの各機能の働きやセット内容を、撮影者自身の好みに合わせて変更できます。

■カスタムメニュー項目一覧

● a~fの各項目にそれぞれサブメニューがあります。

カスタムメニュー項目		
C ： カスタム切換え		**P.93**
R ： カスタムリセット		**P.94**
a ： AF		
a1	AF-Cモードの優先	P.96
a2	AF-Sモードの優先	P.96
a3	グループダイナミックAF	P.96
a4	半押しAF駆動	P.97
a5	フォーカスフレーム表示	P.97
a6	フォーカスエリア循環	P.98
a7	縦位置AF-ON釦	P.98
a8	M/A設定	P.98
b ： 露出・測光		
b1	露出設定ステップ	P.99
b2	露出補正ステップ	P.99
b3	露出補正簡易（設定）	P.99
b4	重点測光範囲	P.100
b5	シャッタースピード延長	P.100
b6	スクリーン補正	P.100
c ： AE/AFロック・タイマー		
c1	半押しAEロック	P.101
c2	AE-L/AF-L釦	P.101
c3	AF-ON・AE-L釦	P.102
c4	半押しタイマー	P.102
c5	セルフタイマー	P.102

カスタムメニュー項目		
d ： 撮影・表示		
d1	フィルム自動空送	P.103
d2	自動巻き戻し	P.103
d3	フィルムリーダー残し	P.103
d4	フィルム終端コマ	P.104
d5	MB-40 CHコマ速（変更）	P.104
d6	DX警告表示	P.104
d7	背面情報表示	P.105
d8	写し込み濃度	P.105
d9	MB-40電池（設定）	P.105
e ： SB・BKT撮影		
e1	同調速度変更	P.106
e2	SB時低速制限	P.106
e3	SB絞り連動	P.107
e4	モデリング発光	P.107
e5	オートBKTのセット	P.107
e6	BKT変化要素	P.108
e7	BKT補正順序	P.108
e8	BKT設定方法	P.108
f ： 操作		
f1	中央釦の機能	P.109
f2	マルチセレクター起動	P.109
f3	ファンクション釦機能	P.110
f4	コマンドダイヤル設定	P.111
f5	釦設定方法	P.112

■カスタムメニュー項目の詳細（太字は初期設定）

C：カスタム切換え

カスタムメニューa〜fの機能を、操作しやすいように変更した設定の組み合わせを、「A」、「B」、「C」、「D」に記憶させておくことができ、必要に応じて一括して簡単に呼び出すことができます。また、「A」、「B」、「C」、「D」には、それぞれ英数字で名前をつけることができます。

［セット内容］
A： カスタムをAにセットします。
B： カスタムをBにセットします。
C： カスタムをCにセットします。
D： カスタムをDにセットします。

- 希望する設定状態を記憶させているカスタムを「A〜D」の中から選択し、▶を押すと「名称の変更」画面が表示されます。名称の変更を行わない場合は、さらに▶を押してカスタムを決定します。名称の変更を行う場合は下記の「名称の変更方法」をご覧ください。

■名称の変更方法

カスタムの名称はそれぞれ6文字の英数字、アルファベットの大文字（A〜Z）と数字（0〜9）で名前をつけることができます。また、空白（スペース）も使用できます。

カスタムAの場合

- 反転表示を▼または▲で**「しない」**から**「　　　A」**に移動させ、▶を押すと、左から1文字目が反転表示されます。
- 反転表示されている、1文字目を▼または▲で設定します。
- ▶を押して「2文字目」〜「6文字目」を順次反転表示させ、それぞれ設定します。
- 「6文字目」の設定後、▶を押すと名前とカスタムが確定し、カスタムメニュー画面に戻ります。

カスタムメニューの設定内容を変更しても、その時選択されているカスタム（A〜Dのいずれか）における設定のみ変更され、他のカスタムの設定は変更されません。

カスタムメニューの設定内容を変更した場合の表示について

- 選択されているカスタム（A〜D）の設定内容が初期設定から変更されている場合は、背面表示パネルにカスタム表示（例：CSM-A［カスタムAの場合］）が表示されます。

R：カスタムリセット

カスタムメニューの設定内容を初期設定に戻す場合に使用します。選択しているカスタム（A～Dのいずれか）の設定内容のみがリセットされます。

カスタムリセット
◀戻る　決定▶
A:　A
しない
する

[セット内容]
しない ： カスタムをリセットしません。
する ： カスタムをリセットします。

- リセットしたいカスタムを「A～D」の中から選択し、▶を押すとカスタムリセットの確認画面が表示されます。
- 「する」を選択し、▶を押すとリセットされます。

■各項目の初期設定一覧

カスタムメニュー項目		初期設定
a ： AF		
a1	AF-Cモードの優先	レリーズ
a2	AF-Sモードの優先	フォーカス
a3	グループダイナミックAF	パターン1（中央優先）
a4	半押しAF駆動	ON
a5	フォーカスフレーム表示	
	MF時表示	ON
	連写時表示	ON
	選択時表示時間	0.2秒
a6	フォーカスエリア循環	OFF
a7	縦位置AF-ON釦	AF-ON
a8	M/A設定	AF駆動しない
b ： 露出・測光		
b1	露出設定ステップ	1/3段
b2	露出補正ステップ	1/3段
b3	露出補正簡易（設定）	OFF
b4	重点測光範囲	φ12mm
b5	シャッタースピード延長	OFF
b6	スクリーン補正	OFF

カスタムメニュー項目		初期設定
c ： AE/AFロック・タイマー		
c1	半押しAEロック	OFF
c2	AE-L/AF-L釦	AE-L/AF-L
c3	AF-ON・AE-L釦	変更しない
c4	半押しタイマー	8秒
c5	セルフタイマー	10秒
d ： 撮影・表示		
d1	フィルム自動空送	裏ぶた閉じ操作
d2	自動巻き戻し	フィルム終端検出時
d3	フィルムリーダー残し	OFF
d4	フィルム終端コマ	OFF
d5	MB-40CHコマ速（変更）	8コマ
d6	DX警告表示	空送り後
d7	背面情報表示	ノーマル画面
d8	写し込み濃度	0
d9	MB-40電池（設定）	単3形アルカリ
e ： SB・BKT撮影		
e1	同調速度変更	1/250
e2	SB時低速制限	1/60
e3	SB絞り連動	OFF
e4	モデリング発光	ON
e5	オートBKTのセット	AE・SBブラケティング
e6	BKT変化要素	シャッタースピード
e7	BKT補正順序	初期設定
e8	BKT設定方法	補正値とコマ数選択
f ： 操作		
f1	中央釦の機能	AFエリア中央リセット
f2	マルチセレクター起動	半押し起動しない
f3	ファンクション釦機能	FVロック
f4	コマンドダイヤル設定	
	回転方向	ノーマル
	メインとサブ入換え	OFF
	絞り値設定	サブコマンドダイヤル
	メニューでの使用	OFF
f5	釦設定方法	デフォルト

a1：AF-Cモードの優先

P.50

レリーズ優先のコンティニュアスAFサーボを、レリーズ優先でもピントを合わせるために必要に応じてフィルム巻上げ速度を落とす状態に変更できます（低輝度条件で予測駆動する場合などに効果的です）。また、ピントが合っている時のみシャッターがきれるようにフォーカス優先にも変更できます。

a1
AF-Cモードの優先
◀戻る　決定▶
レリーズ
レリーズ/フォーカス
フォーカス

［セット内容］

レリーズ　：シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

レリーズ／フォーカス　：シャッターボタンを押すとシャッターがきれますが、できるだけピントが合うように必要に応じてフィルム巻上げ速度を落とします。

フォーカス　：ピント表示 ● が点灯するまでシャッターはきれません。

a2：AF-Sモードの優先

P.50

フォーカス優先のシングルAFサーボを、レリーズ優先に変更できます。

a2
AF-Sモードの優先
◀戻る　決定▶
フォーカス
レリーズ

［セット内容］

フォーカス　：ピント表示 ● が点灯するまでシャッターはきれません。

レリーズ　：シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

a3：グループダイナミックAF

P.54

フォーカスエリアグループの組み合わせを変更できます。

a3(1)
グループダイナミックAF
◀戻る　決定▶
パターン1(中央優先)
パターン1(至近優先)
パターン2(中央優先)

a3(2)
グループダイナミックAF
◀戻る　決定▶
パターン2(至近優先)

［セット内容］

パターン1（中央優先）：パターン1（中央優先）にします。

パターン1（至近優先）：パターン1（至近優先）にします。

パターン2（中央優先）：パターン2（中央優先）にします。

パターン2（至近優先）：パターン2（至近優先）にします。

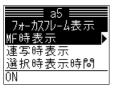
● フォーカスエリアグループの組み合わせについてはP.55をご覧ください。

a4：半押しAF駆動

P.32、51

シャッターボタンの半押しではオートフォーカスが作動しない（AF作動ボタンの操作でのみ作動）ように変更できます

[セット内容]

ON ： シャッターボタンの半押しでもオートフォーカスが作動します。

OFF ： AF作動ボタンのみでオートフォーカスが作動します。

a5：フォーカスフレーム表示

P.52

マニュアルフォーカス時や連写時に、ファインダー内のフォーカスフレームが点灯しないように変更できます。また、フォーカスエリア選択時のフォーカスフレーム点灯時間を0.2秒または1秒のいずれかにセットできます

[セット内容]

MF時表示 ： マニュアルフォーカス時、シャッターボタンを半押しした時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させるか、させないかを選択します。

連写時表示 ： 連続巻き上げ撮影時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させるか、点灯させないかを選択します。

選択時表示時間 ： フォーカスエリア選択時のフォーカスフレーム点灯時間を選択します。

a5-1：MF時表示

[セット内容]

ON ： マニュアルフォーカス時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させます。

OFF ： マニュアルフォーカス時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させません。

a5-2：連写時表示

[セット内容]

ON ： 連続巻き上げ撮影時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させます。

OFF ： 連続巻き上げ撮影時にファインダー内のフォーカスフレームを点灯させません。

a5-3：選択時表示時間

[セット内容]

0.2秒：フォーカスフレームの点灯時間を約0.2秒にします。

1秒　：フォーカスフレームの点灯時間を約1秒にします。また、オートフォーカスが作動している間、選択したフォーカスエリアのフレームが点滅し続けます。

a6：フォーカスエリア循環

P.52

マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になる循環方式に変更できます。

[セット内容]

OFF：フォーカスエリアの選択を循環方式にしません。

ON　：フォーカスエリアの選択を循環方式にします。

a7：縦位置AF-ON釦

P.172

マルチパワーバッテリーパックMB-40（別売）の縦位置AF作動ボタンの機能を、AE/AFロックボタンの機能に変更できます。

[セット内容]

AF-ON　　：AF作動ボタンとして機能します。

AE-L/AF-L：AE/AFロックボタンとして機能します。

- 「AE-L/AF-L」にセットした場合、カスタムメニュー「c2：AE-L/AF-L釦」（P.101）の設定状態で機能します。

a8：M/A設定

P.63

装着しているAF-SレンズまたはAF-IレンズをM/Aモードにセットし、カメラのフォーカスモードをマニュアルフォーカスにセットした場合でも、オートフォーカス撮影ができるように変更できます。

[セット内容]

AF駆動しない　：マニュアルフォーカスになります。

AF-CモードAF駆動：コンティニュアスAFサーボでオートフォーカス撮影ができます。

AF-SモードAF駆動：シングルAFサーボでオートフォーカス撮影ができます。

b1：露出設定ステップ

P.66、68、70、72

通常1/3段ステップで設定、表示されるシャッタースピードと絞りを、1/2段ステップまたは1段ステップに変更できます。

b1
露出設定ステップ
◀戻る 決定▶
1/3段
1/2段
1 段

[セット内容]

1/3段：1/3段ステップで設定、表示します。
1/2段：1/2段ステップで設定、表示します。
1段：1段ステップで設定、表示します。

b2：露出補正ステップ

P.76

通常1/3段ステップで設定される露出補正を、1/2段ステップまたは1段ステップで設定できるように変更できます。

b2
露出補正ステップ
◀戻る 決定▶
1/3段
1/2段
1 段

[セット内容]

1/3段：1/3段ステップで設定します。
1/2段：1/2段ステップで設定します。
1段：1段ステップで設定します。

b3：露出補正簡易（設定）

P.76

露出補正ボタンを押さなくても、P（プログラムオート）時、S（シャッター優先オート）時はサブコマンドダイヤル、A（絞り優先オート）時はメインコマンドダイヤルのみで露出補正がセットできるように変更できます。

b3
露出補正簡易設定
◀戻る 決定▶
OFF
ON

[セット内容]

OFF：露出補正ボタンとコマンドダイヤルで露出補正をセットします。
ON：コマンドダイヤルのみで露出補正がセットできます。

- 露出モードが M（マニュアル）以外の場合、**「ON」**にセットすると、上面表示パネルおよびファインダー内表示には常に露出補正インジケーターが表示され、インジケーターの **0** が点滅表示します（カメラの制御範囲を超えた場合、インジケーターの **0** が点灯に変わり、同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが表示されます）。また、M（マニュアル）時は**「ON」**にセットしても機能しません。
- カスタムメニュー**「f4：コマンドダイヤル設定」**（P.111）の**「メインとサブ入換え」**を**「ON」**にセットしてある場合は、それぞれ操作するダイヤルが P（プログラムオート）時を除き逆になります。

b4：重点測光範囲

P.65

中央部重点測光時の、画面中央の重点測光範囲（重点度75%）を変更できます。また、画面全体の平均測光にも変更できます。

b4
重点測光範囲
◀戻る　決定▶
φ8mm　φ20mm
φ12mm　平均測光
φ15mm

［セット内容］

φ8mm　：重点測光範囲をφ8mmにします。
φ12mm：重点測光範囲をφ12mmにします。
φ15mm：重点測光範囲をφ15mmにします。
φ20mm：重点測光範囲をφ20mmにします。
平均測光　：画面全体を平均測光します。

b5：シャッタースピード延長

P.72

露出モードが M（マニュアル）の時に、通常30秒まで設定できる低速側のシャッタースピードを、最長30分まで延長できます。

b5
シャッタースピード延長
◀戻る　決定▶
OFF
ON

［セット内容］

OFF：延長しません。
ON　：延長します。

- 「ON」にセットしたときに30秒を超えるシャッタースピードの設定はメインコマンドダイヤルで次のように延長できます。

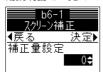
40秒	50秒	1分	1.5分	2分	3分	4分	5分
6分	8分	10分	13分	15分	20分	25分	30分

・上記のシャッタースピードをセットした場合は、オートブラケティングによるシャッタースピードの補正は行われません。また、露出インジケーターは消灯します。

b6：スクリーン補正

P.87、174

使用するファインダースクリーンやレンズ、テレコンバーター等により測光値を補正する必要がある場合に補正量を設定します。

b6
スクリーン補正
◀戻る　決定▶
OFF
BorE以外　補正

［セット内容］

OFF　　：補正しません。
BorE以外：補正します。

- 補正量の設定方法は次ページの「補正量の設定方法」をご覧ください。
- 使用するファインダースクリーンがB型およびE型以外の場合、補正量が0でも、**「BorE以外」**にセットしてください。

■補正量の設定方法

1/2段ステップで±2段の補正が行えます（補正量はファインダースクリーンの使用説明書をご覧ください）。

- 「BorE以外」を選択し、▶を押すと設定画面が表示されます。
- ▼または▲で補正量を設定し、▶を押すと補正量が確定します。

c1：半押しAEロック

P.74

通常はAE/AFロックボタンを押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にもAEロックが行われるように変更できます。

［セット内容］

OFF ：AE/AFロックボタンのみでAEロックを行います。

ON ：シャッターボタンまたはAE/AFロックボタンでAEロックを行います。

c2：AE-L/AF-L釦

P.60、74

通常はAE/AFロックボタンを押した時にAEロックとフォーカスロックを同時に行いますが、下記のように変更できます。

［セット内容］

AE-L/AF-L ：AEロックとフォーカスロックを同時に行います。

AE-L ：AEロックのみ行います。

AE-L（レリーズリセット）：AE/AFロックボタンから指を離してもAEロック状態が維持され、シャッターをきると解除されます。また、半押しタイマーがOFFになるか、再度AE/AFロックボタンを押しても解除されます。

AE-L（ホールド）：AE/AFロックボタンから指を離してもAEロック状態が維持され、シャッターをきっても解除されません。半押しタイマーがOFFになるか、再度AE/AFロックボタンを押すと解除されます。

AF-L ：フォーカスロックのみ行います。

c3：AF-ON・AE-L釦

P.51、60、74

AF作動ボタンとAE/AFロックボタンの機能を、下記のように変更できます。

c3(1)
AF-ON・AE-L釦
◀戻る 決定▶
変更しない
入換え
両方AF-ON釦

c3(2)
AF-ON・AE-L釦
◀戻る 決定▶
両方AE/AF-L釦

［セット内容］

変更しない　：変更しません。
入換え　：AF作動ボタンの機能とAE/AFロックボタンの機能を入れ換えます。
両方AF-ON釦　：AE/AFロックボタンもAF作動ボタンとして機能します（AF作動ボタンの機能は変更しません）。
両方AE/AF-L釦：AF作動ボタンもAE/AFロックボタンとして機能します（AE/AFロックボタンの機能は変更しません）。

- AE/AFロックボタンとしての機能は、カスタムメニュー「c2：AE-L/AF-L釦」（P.101）の設定状態で機能します。
  例：「両方AE-L/AF-L釦」にセットした場合、「c2：AE-L/AF-L釦」を「AF-L」にセットすると、どちらのボタンでもフォーカスロックのみ行います。

c4：半押しタイマー

P.22

通常8秒の半押しタイマー作動時間を、4秒、15秒、30秒のいずれかに変更できます。

c4
半押しタイマー
◀戻る 決定▶
4秒 30秒
8秒
15秒

［セット内容］

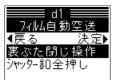
4秒　：半押しタイマーが4秒でOFFになります。
8秒　：半押しタイマーが8秒でOFFになります。
15秒：半押しタイマーが15秒でOFFになります。
30秒：半押しタイマーが30秒でOFFになります。

- 半押しタイマーの作動時間を長い時間に設定すると、電池の消耗が早まり、撮影可能本数が減る場合があります。

c5：セルフタイマー

P.84

通常10秒のセルフタイマー作動時間を、2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

c5
セルフタイマー
◀戻る 決定▶
2秒 20秒
5秒
10秒

［セット内容］

2秒　：セルフタイマー作動時間が2秒になります。
5秒　：セルフタイマー作動時間が5秒になります。
10秒：セルフタイマー作動時間が10秒になります。
20秒：セルフタイマー作動時間が20秒になります。

d1：フィルム自動空送

P.26

フィルム装填時、電源スイッチがONの時に裏ぶたを閉じると開始されるフィルムの1コマ目までの空送りを、シャッターボタンを押すことで開始されるように変更できます。

［セット内容］

裏ぶた閉じ操作　：裏ぶたを閉じると空送りを開始します。

シャッター釦全押し：裏ぶたを閉じ、シャッターボタンを押すと空送りを開始します。

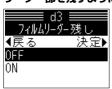
d2：自動巻き戻し

P.48

フィルム終了時に、自動的に巻き戻しを開始せずに、ボタン操作により巻き戻しが開始されるように変更できます。

d2
自動巻き戻し
◀戻る 決定▶
フィルム終端検出時
巻き戻し操作

［セット内容］

フィルム終端検出時：フィルムが終了すると自動的に巻き戻しをを開始します。

巻き戻し操作　：ボタン操作により巻き戻しを開始します。

- ボタン操作による巻き戻しについてはP.48をご覧ください。

d3：フィルムリーダー残し

P.36、48

フィルムを巻き戻す時に、パトローネ内にフィルムを全て巻き取らずに、フィルムリーダー部を残すように変更できます。

［セット内容］

OFF：フィルムを全て巻き取ります。

ON　：フィルムリーダー部を残します。

ONにセットした場合のご注意

- 巻き戻し後、フィルムリーダー部を残したフィルムが、カメラ内に入ったままの状態で、シャッターをきらないでください。シャッター幕を破損する原因になります。

d4：フィルム終端コマ P.36

通常はフィルムを全て撮り終わるとフィルムの巻き戻しを開始しますが、36枚撮りフィルムの場合に、フィルムの巻き戻し開始を36コマ目撮影終了時、または35コマ目撮影終了時に変更できます（フィルムを6コマスリーブまたは5コマスリーブで保存する場合に便利です）。

d4
フィルム終端コマ
◀戻る　決定▶
OFF
36コマ撮影終了時
35コマ撮影終了時

［セット内容］

OFF	：	フィルムが全て終了すると自動的に巻き戻しを開始します。
36コマ撮影終了時	：	36コマ目の撮影が終了すると自動的に巻き戻しを開始します。
35コマ撮影終了時	：	35コマ目の撮影が終了すると自動的に巻き戻しを開始します。

- カスタムメニュー**「d2：自動巻き戻し」**（P.103）を**「巻き戻し操作」**にセットした場合は、36コマ目または35コマ目でフィルム給送を停止します。

d5：MB-40 CHコマ速（変更） P.47、172

マルチパワーバッテリーパックMB-40（別売）使用時のフィルム給送モードがCH（高速連続巻き上げ）の場合、通常巻き上げ速度は最高約8コマ／秒ですが、約7コマ／秒、約6コマ／秒に変更できます。

［セット内容］

8コマ	：	最高約8コマ／秒で巻き上げます。
7コマ	：	最高約7コマ／秒で巻き上げます。
6コマ	：	最高約6コマ／秒で巻き上げます。

d6：DX警告表示 P.27

通常はカメラのフィルム感度を DX にセットしてDXマークがないフィルムを装填するとフィルムを1コマ目まで空送りした後に警告を行いますが、その警告を電源スイッチONの状態で裏ぶたを閉じた時点で（1コマ目まで空送りせずに）行われるように変更できます。

［セット内容］

空送り後	：	フィルムを空送りした後に警告を行います。
電源ON時	：	電源スイッチONの状態で裏ぶたを閉じた時点で（フィルムを空送りせずに）警告を行います。

d7：背面情報表示

P.14

背面表示パネルの情報表示を、詳細表示または拡大表示に変更できます。

d7
背面情報表示
◀戻る　決定▶
ノーマル画面
詳細画面
拡大画面

[セット内容]

ノーマル画面：ノーマル表示を表示します。
詳細画面：詳細表示を表示します。
拡大画面：拡大表示を表示します。

d8：写し込み濃度

P.140

データの写し込み濃度を調整することができます。濃度は5段階で調整できます。

[セット内容]

+2：より濃く写し込みます。
+1：濃く写し込みます。
0：標準の濃さで写し込みます。
−1：薄く写し込みます。
−2：より薄く写し込みます。

■写し込み濃度の設定方法

- **「写し込み濃度」**を選択し、▶を押すと設定画面が表示されます。
- ▼または▲で濃度を設定し、▶を押すと濃度が確定します。

d9：MB-40電池（設定）

P.23、172

マルチパワーバッテリーパックMB-40（別売）使用時のバッテリーチェック表示を、使用する電池に応じて正しく表示させるために、使用する電池を選択します。

d9
MB-40電池設定
◀戻る　決定▶
単3形アルカリ
単3形NiMH
単3形リチウム

[セット内容]

単3形アルカリ：アルカリ電池を使用する場合に選択します。
単3形NiMH：ニッケル水素充電池を使用する場合に選択します。
単3形リチウム：リチウム電池を使用する場合に選択します。

- 別売のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4（別売のバッテリー室カバーBL-3を併用）使用時は設定する必要がありません。

e1：同調速度変更 P.168

スピードライト撮影時の高速側の同調シャッタースピードの限界を、1/60秒～1/250秒の中から選択できます。

e1
同調速度変更
◀戻る 決定▶
同調速度
1/250

[セット内容]

1/250	：	1/250秒にします。
1/250FP	：	1/250秒にします。また、SB-800・600使用時に、シャッタースピードが1/250秒よりも高速の場合は、自動的にオートFPハイスピードシンクロを行うようにします。
1/200	：	1/200秒にします。
1/160	：	1/160秒にします。
1/125	：	1/125秒にします。
1/100	：	1/100秒にします。
1/80	：	1/80秒にします。
1/60	：	1/60秒にします。

- 露出モードが S（シャッター優先オート）または M（マニュアル）の場合にシャッタースピードを X にセットすると、**「同調速度変更」**で設定したシャッタースピードにセットされます。
- オートFPハイスピードシンクロについてはP.159をご覧ください。

■同調速度の設定方法

- **「同調速度変更」**を選択し、▶を押すと設定画面が表示されます。
- ▼または▲で同調速度を選択し、▶を押すと同調速度が確定します。

e2：SB時低速制限 P.168

露出モードが P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）時の、スピードライト撮影時の低速側の同調シャッタースピードの限界を、30秒～1/60秒の中から選択できます。

e2
SB時低速制限
◀戻る 決定▶
シャッタースピード
1/60

[セット内容]

1/60	：	1/60秒にします。	1"	：	1秒にします。
1/30	：	1/30秒にします。	2"	：	2秒にします。
1/15	：	1/15秒にします。	4"	：	4秒にします。
1/8	：	1/8秒にします。	8"	：	8秒にします。
1/4	：	1/4秒にします。	15"	：	15秒にします。
1/2	：	1/2秒にします。	30"	：	30秒にします。

- スローシンクロモード時は、自動的に30秒まで延長されます（P.164）。

■シャッタースピードの設定方法

- **「SB時低速制限」**を選択し、▶を押すと設定画面が表示されます。
- ▼または▲でシャッタースピードを設定し、▶を押すとシャッタースピードが確定します。

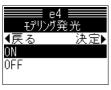
e3：SB絞り連動

P.161

スピードライトSB-80DX・28DXで外部調光を行う場合、絞りに連動しない外部自動調光（A）になりますが、絞り連動外部自動調光（AA）に変更できます。

[セット内容]

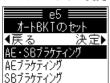
OFF　：絞りに連動しない外部自動調光（A）になります（絞りのセットはスピードライトで行ってください）。

ON　：絞り連動外部自動調光（AA）になります。

- 絞り連動外部自動調光（AA）についてはP.161をご覧ください。
- SB-800の場合は、ここでの設定にかかわらず、スピードライト側の設定が優先されます。

e4：モデリング発光

P.157

スピードライトSB-800・600装着時にカメラのプレビューボタンを押すと、通常はモデリング発光と絞り込みが同時に行われますが、モデリング発光せずに絞り込みのみ行うように変更できます。

[セット内容]

ON　：モデリング発光と絞り込みを行います。

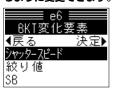
OFF　：絞り込みのみを行います。

e5：オートBKTのセット

P.77

通常のオートブラケティングセット時には、AEブラケティングとSBブラケティングが同時にセットされますが、AEブラケティングのみのセット、SBブラケティングのみのセットに変更できます。

[セット内容]

AE・SBブラケティング　：AEブラケティングとSBブラケティングを同時にセットします。

AEブラケティング　：AEブラケティングのみをセットします。

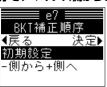
SBブラケティング　：SBブラケティングのみをセットします。

e6：BKT変化要素

P.77

通常、オートブラケティング時に露出モードが M（マニュアル）の場合はシャッタースピードとスピードライトの調光レベルが変化しますが、「シャッタースピードと絞り値と調光レベル」、「絞り値と調光レベル」、「調光レベルのみ」のいずれかが変化するように変更できます。

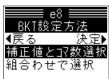
[セット内容]

シャッタースピード	：	シャッタースピードおよび調光レベルが変化します。
シャッタースピード／絞り値	：	シャッタースピード、絞り値および調光レベルが変化します。
絞り値	：	絞り値および調光レベルが変化します。
SB	：	調光レベルのみが変化します。

● スピードライト使用時に、カスタムメニュー **「e5：オートBKTのセット」** を **「AEブラケティング」** にセットしてある場合は、調光レベルの変化を行いません（P.107）。

e7：BKT補正順序

P.77

通常は初期設定の順（P.78、79）で行われるオートブラケティング時の補正順序を、マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

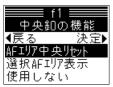
[セット内容]

初期設定	：	初期設定の順で撮影します。
−側から＋側へ	：	マイナス側からプラス側へ順番に撮影します。

e8：BKT設定方法

P.77

通常オートブラケティングをセットする場合は、メインコマンドダイヤルで撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルで補正ステップをセットしますが、メインコマンドダイヤルでオートブラケティングのON/OFFを、サブコマンドダイヤルで補正ステップと撮影コマ数の組み合わせをセットできるように変更できます。

[セット内容]

補正値とコマ数選択	：	メインコマンドダイヤルで撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルで補正ステップをセットします。
組み合わせで選択	：	メインコマンドダイヤルでオートブラケティングのON/OFFを、サブコマンドダイヤルで補正ステップと撮影コマ数の組み合わせをセットします。

● 組み合わせで選択する場合の組み合わせについては、P.78、79をご覧ください。

f1：中央釦の機能

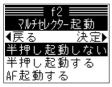
P.52、90

マルチセレクターの中央部を押した時の機能を下記のように変更できます。

［セット内容］

AFエリア中央リセット：撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、中央のフォーカスエリア（グループダイナミックAFモードの場合は中央のフォーカスエリアグループ）を選択します。

選択AFエリア表示：撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、ファインダー内で選択されているフォーカスエリア（グループダイナミックAFモードの場合はフォーカスエリアグループ）のフレームが点灯します。

使用しない：撮影時、メニュー操作時などにマルチセレクターの中央部を押しても、機能しません。

f2：マルチセレクター起動

P.22、32

マルチセレクターの操作で、半押しタイマーがON、またはオートフォーカスが作動するように変更できます。

［セット内容］

半押し起動しない：半押しタイマーがOFFの時にマルチセレクターを操作しても、半押しタイマーはONになりません。

半押し起動する：半押しタイマーがOFFの時にマルチセレクターを操作すると、半押しタイマーがONになります。

AF起動する：マルチセレクターを操作するとオートフォーカスが作動します（マニュアルフォーカス時を除く）。

f3：ファンクション釦機能

P.10

通常はファンクションボタンを押すとFVロック（P.157）を行いますが、下記のいずれかにファンクションボタンの機能を変更できます。

f3(1)
ファンクション釦機能
◀戻る　決定▶
FVロック
レンズ情報設定
露出値1段選択

f3(2)
ファンクション釦機能
◀戻る　決定▶
AE-L/AF-L釦
SB発光禁止
BKT自動連写

f3(3)
ファンクション釦機能
◀戻る　決定▶
簡易設定
簡易設定
簡易設定

［セット内容］

FVロック	：	SB-800・600・400使用時は、ファンクションボタンを押すと、FVロックを行います。
FVロック／レンズ情報設定	：	SB-800・600・400使用時は、ファンクションボタンを押すと、FVロックを行います。また、SB-800・600・400の不使用時および電源OFF時は、非CPUレンズ使用時の焦点距離と開放絞り値の組み合わせ（レンズNo.）をセットできます。
露出値1段選択	：	カスタムメニュー「b1：露出設定ステップ」（P.99）の設定にかかわらず、ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを操作すると、シャッタースピードまたは絞りを1段ステップでセットすることができます。
AE-L/AF-L釦	：	ファンクションボタンがAE/AFロックボタンとして機能します。
SB発光禁止	：	スピードライト撮影時、ファンクションボタンを押している間、スピードライトを発光禁止にします。
BKT自動連写	：	オートブラケティング撮影時にファンクションボタンを押しながら、シャッターボタンを押すと、フィルム給送モードがS（1コマ巻き上げ）の場合、セットした撮影コマ数だけ連続撮影を行い自動的に停止します。また、フィルム給送モードがCL、CH、CS（連続巻き上げ）の場合、セットした撮影コマ数が終了しても繰り返しオートブラケティング撮影を行います。
簡易設定	：	ファンクションボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光に切り換わります。
簡易設定	：	ファンクションボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光に切り換わります。
簡易設定	：	ファンクションボタンを押している間、測光モードがスポット測光に切り換わります。

- **「レンズ情報設定」**は単独で選択することはできません。**「レンズ情報設定」**を選択する場合は**「FVロック」**とともに選択されます。
- **「AE-L/AF-L釦」**にセットした場合、カスタムメニュー**「c2：AE-L/AF-L釦」**（P.101）の設定状態で機能します。

f4：コマンドダイヤル設定

P.16

コマンドダイヤルに関する下記の設定を行えます。

f4(2)
コマンドダイヤル設定
メニューでの使用
OFF

［セット内容］

回転方向	：	メインコマンドダイヤルおよびサブコマンドダイヤル操作時の回転方向を変更できます。
メインとサブ入換え	：	シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行えるように変更できます。
絞り値設定	：	Gタイプ以外のCPUレンズ装着時に、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットを行えるように変更できます。
メニューでの使用	：	通常メニューの操作はマルチセレクターを使用しますが、コマンドダイヤルも使用できるように変更できます。

- **「コマンドダイヤル設定」**の各設定を変更すると、別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40（P.172）の、縦位置メインコマンドダイヤルおよび縦位置サブコマンドダイヤルの機能や、絞り値の設定方法も同様に変更されます。

f4-1：回転方向

［セット内容］

ノーマル	：	メインコマンドダイヤルおよびサブコマンドダイヤルが通常どおりの回転操作（初期設定の状態）になります。
逆方向	：	メインコマンドダイヤルおよびサブコマンドダイヤルが通常とは逆の回転操作になります。

f4-2：メインとサブ入換え

［セット内容］

OFF	：	シャッタースピードのセットをメインコマンドダイヤルで、絞りのセットをサブコマンドダイヤルで行います。
ON	：	シャッタースピードのセットをサブコマンドダイヤルで、絞りのセットをメインコマンドダイヤルで行います。

f4-3：絞り値設定

f4-3
コマンドダイヤル設定
◀戻る　決定▶
絞り値設定
サブコマンドダイヤル
絞りリング

[セット内容]

サブコマンドダイヤル：サブコマンドダイヤルで絞りのセットを行います。

絞りリング：Gタイプ以外のCPUレンズ装着時に、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットを行います。

- 露出モードが P（プログラムオート）または S（シャッター優先オート）の場合は、**「絞りリング」**にセットしても、絞りリングによる絞りのセットは行えません。

f4-4：メニューでの使用

f4-4
コマンドダイヤル設定
◀戻る　決定▶
メニューでの使用
OFF
ON

[セット内容]

OFF：メニューの操作をマルチセレクターでのみ行います。

ON：メニューの操作をコマンドダイヤルでも行えます。

- **「ON」**にセットすると、メインコマンドダイヤルがマルチセレクターの▼および▲と、サブコマンドダイヤルがマルチセレクターの◀および▶と同じ機能になります。

f5：釦設定方法　P.16

通常は各操作ボタンを押し続けている間のみ設定可能状態になり、コマンドダイヤルを操作して設定を行いますが、各操作ボタンを押すと設定可能状態が約20秒間ホールド（維持）され、コマンドダイヤルを操作して設定を行えるように変更できます（再度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、設定可能状態が解除されます）。

f5
釦設定方法
◀戻る　決定▶
デフォルト
ホールド

[セット内容]

デフォルト：初期設定の状態になります。ボタンを押し続けないと設定可能状態がホールド（維持）されません。

ホールド：ボタンを押すと設定可能状態がホールド（維持）されます。

- カスタムメニュー**「c4：半押しタイマー」**（P.102）を**「30秒」**にセットすると、ホールド（維持）される時間が約30秒になります。

撮影データの記憶に関する設定や、日時の設定を行います。

■セットアップメニュー項目の詳細

撮影データメニュー

P.114

撮影データの記憶に関する設定を行います。詳細はP.114〜126の「撮影データの記憶」をご覧ください。

≡ 撮影データメニュー ≡
記憶設定 ▶
データ消去
記憶警告
フィルム番号設定
記憶しない

[セット内容]

記憶設定 ： 撮影データを記憶しないか、記憶する場合は記憶モードの選択を行います。

データ消去 ： 記憶された撮影データの消去を行います。

記憶警告 ： 撮影データを記憶できるフィルム本数を超えた場合の動作（警告表示無しで上書き記憶をするか、または警告を表示してシャッターをきれなくし、記憶も停止する）の選択を行います。

フィルム番号設定 ： 識別番号（カメラID）およびフィルム番号の設定を行います。

日時設定

P.127

撮影データの記憶（P.114）および撮影データの写し込み（P.130）に使用する日時の設定を行います。設定方法はP.127の「日時の設定」をご覧ください。

- 「年」、「月」、「日」、「時」、「分」を設定します。

年月日表示設定

P.128

「年月日」が背面表示パネルに表示される場合や、「年月日」を写し込む時（P.130）の表示順序の設定を行います。

≡年月日表示設定≡
◀戻る 決定▶
年月日
月日年
日月年

[セット内容]

年月日 ： 年月日の順序で表示し、写し込みます（初期設定）。

月日年 ： 月日年の順序で表示し、写し込みます。

日月年 ： 日月年の順序で表示し、写し込みます。

撮影時のシャッタースピードや絞り値、レンズの焦点距離などの撮影データをカメラに記憶し、背面表示パネルに表示したり、別売のデーターリーダーMV-1を使用してコンパクトフラッシュカード（以下CFカードといいます）に保存し、パソコンで活用したりできます。

■記憶モードと記憶項目

記憶項目は異なる2つの記憶モードより選べます。13項目の基本的な情報を記憶する「簡易情報記憶」。さらに詳細な情報を加えた21項目を記憶する「詳細情報記憶」。各記憶モードの記憶項目は下表のとおりです。

記憶項目		記憶モード	
		簡易情報	詳細情報
①	フィルム感度	○	○
②	フィルム番号	○	○
③	識別番号（カメラID）	○	○
④	フィルムカウント数値（コマ番号）	○	○
⑤	シャッタースピード	○	○
⑥	絞り値	○	○
⑦	設定焦点距離	○	○
⑧	レンズの焦点距離		○
⑨	開放絞り値		○
⑩	測光モード	○	○

記憶項目		記憶モード	
		簡易情報	詳細情報
⑪	露出モード	○	○
⑫	シンクロモード		○
⑬	露出補正量	○	○
⑭	露出偏差	○	○
⑮	調光補正量		○
⑯	スピードライト設定		○
⑰	多重露出撮影	○	○
⑱	AEロック		○
⑲	VR機能		○
⑳	撮影日	○	○
㉑	撮影時刻		○

- ①〜③：**フィルム情報** フィルム1本ごとの情報
- ④〜㉑：**コマ情報** 撮影コマ1コマごとの情報
- 各記憶項目の詳細は、P.115をご覧ください。
- 撮影データの記憶の設定については、P.118をご覧ください。

■記憶項目の詳細

① フィルム感度

フィルムを装填して1コマ目のシャッターをきった時に設定されているフィルム感度を記憶します。

- フィルム感度を DX にセットしてDXマーク付フィルム使用した場合は、自動的にセットされたフィルム感度を記憶します。また、手動でフィルム感度をセットした場合は、セットしたフィルム感度を記憶します。

② フィルム番号

セットアップメニューの「撮影データメニュー：フィルム番号設定」（P.123）で設定したフィルム番号（4桁の数字）を記憶します。

- フィルムを装填して1コマ目のシャッターをきった時にフィルム番号を記憶します。新たにフィルムを装填して1コマ目のシャッターをきるごとに、設定した数値から1ずつ加算して記憶します。
- 「9999」までカウントした後は、再び「0001」からカウントします。

③ 識別番号（カメラID）[データ記憶のみ行います]

セットアップメニューの「撮影データメニュー：フィルム番号設定」（P.123）で設定した識別番号（3桁の数字）を記憶します。

- 別売のデータリーダーMV-1（P.172）を使用して撮影データをCFカードに保存する際のフォルダ名になります。

④ フィルムカウント数値（コマ番号）

撮影時に上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されるフィルムカウンターの数値（コマ番号）を記憶します。

⑤ シャッタースピード

撮影時に上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードを記憶します。

⑥ 絞り値

撮影時に上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示される絞り値を記憶します。

⑦ 設定焦点距離

撮影時の設定焦点距離（ズーム位置）を記憶します。

- ズームレンズ装着時はズーム位置を、単焦点レンズ装着時はレンズの焦点距離を記憶します。

⑧ レンズの焦点距離

撮影時に装着していたレンズの焦点距離を記憶します。

- ズームレンズ装着時は、最広角側および最望遠側の焦点距離（ズーム範囲）を記憶します。

⑨ 開放絞り値

撮影時に装着していたレンズの開放絞り値を記憶します。

- 開放絞り値が変化するズームレンズ装着時は、最広角側および最望遠側の開放絞り値を記憶します。

⑩ 測光モード

撮影時の測光モードを記憶します。

⑪ 露出モード

撮影時の露出モードを記憶します。

⑫ シンクロモード［データ記憶のみ行います］

撮影時のシンクロモード（P.163）を記憶します。

- スピードライトを使用していなくても、背面表示パネルに表示されているシンクロモードを記憶します。

⑬ 露出補正量

撮影時にセットした露出補正量（P.76）を記憶します。

- 露出補正をセットしていない場合は「0」を記憶します。
- オートブラケティング撮影時（P.77）は、ブラケティング補正量を加算して記憶します。詳細は、P.154の「露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて」をご覧ください。

⑭ 露出偏差［データ記憶のみ行います］

撮影時にカメラが制御した露出値、またはカメラにセットした露出値と、カメラが適正露出と判断した露出値との差（露出偏差：露出オーバー量または露出アンダー量）を1/6段ステップで記憶します。

⑮ 調光補正量

スピードライト撮影時にセットした調光補正量を記憶します（調光補正については使用するスピードライトの使用説明書をご覧ください）。

- 調光補正をセットしていない場合は「0」を記憶します。
- スピードライト使用時に露出補正（P.76）やオートブラケティング撮影（P.77）を行うと、同時にスピードライトの発光量も補正されます。この場合、スピードライトで調光補正をセットしていない場合でも調光補正量として記憶します。詳細は、P.154の「露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて」をご覧ください。

⑯ スピードライト設定［一部データ記憶のみ行います］

以下の5項目の、スピードライトの設定状態を記憶します。

a：発光モード（TTL）

スピードライト撮影時の発光モードがTTL（i-TTL）モードか、TTLモード以外かを記憶します。

- 調光方式が「i-TTL-BL調光」、「スタンダードi-TTL調光」、「マルチエリアBL調光」、「スタンダードTTL調光」の場合（P.156、160）、TTLモードと記憶します。
- スピードライトを使用していない場合は、発光モードをTTLモード以外と記憶します。

b：スピードライト使用有無

撮影時にスピードライトを使用したかどうかを記憶します。

- スピードライトの使用が判別可能なスピードライトはTTL調光可能なスピードライトのみです（P.165、166）。
- スピードライトの電源がOFFの場合には、スピードライト不使用として記憶します。

c：アドバンストワイヤレスライティング撮影［データ記憶のみ行います］

スピードライト撮影時にアドバンストワイヤレスライティング撮影（P.157）を行ったことを記憶します。

d：オートFPハイスピードシンクロ（FP発光）［データ記憶のみ行います］

スピードライト撮影時にオートFPハイスピードシンクロ撮影（P.159）を行ったことを記憶します。

- FP発光機能を備えたニコンクリエイティブライティングシステム非対応スピードライト（P.166）を装着し、FP発光撮影を行った場合も記憶します。

e：FVロック

スピードライト撮影時にFVロック機能（P.157）を使用したことを記憶します。

⑰ 多重露出撮影

撮影時に多重露出撮影（P.143）を行ったかどうかを記憶します。

⑱ AEロック

撮影時にAEロック（P.74）を行ったかどうかを記憶します。

⑲ VR機能［データ記憶のみ行います］

VRレンズ（P.40）を装着した場合、撮影時にVR機能を使用したかどうかを記憶します。

- VR機能を備えていないレンズを装着した場合は、VR機能不使用として記憶します。

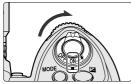
⑳ 撮影日

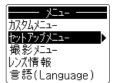
撮影時の年月日を記憶します。

㉑ 撮影時刻

撮影時の時分を記憶します。

データ記憶のみ行われる記憶項目について

- 記憶項目の右側に **［データ記憶のみ行います］** と表記されている記憶項目は、背面表示パネルに撮影データを表示する場合（P.124）には表示されません。データとしては記憶されていますので、別売のデータリーダーMV-1（P.172）を使用するとCFカードに保存することができます（P.126)。

絞り値および焦点距離について

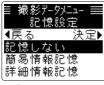
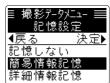
- 「⑥ 絞り値」、「⑦ 設定焦点距離」、「⑧ レンズの焦点距離」、「⑨ 開放絞り値」はCPUレンズのみ記憶できます。
- 非CPUレンズの場合は、「レンズ情報」（P.149）で設定した値を記憶します（設定を行っていない場合、絞り値は開放からの絞り段数を、開放絞り値および焦点距離は空白を記憶します)。
- AF-S、AF-Iテレコンバーター使用時は合成値を記憶します（CPUレンズのみ)。ただし、AF-SテレコンバーターTC-17E IIとAF-S ED300mm F2.8D、AF-S ED400mm F2.8Dを組み合わせて使用すると、焦点距離が正しく記憶されません（AF-S ED 300mm F2.8D II、AF-S ED400mm F2.8D II使用時は正しく記憶されます)。

メニューガイド

■撮影データの記憶の設定方法

1 カメラにフィルムが入っていない状態で、電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

- カメラにフィルムが装填されたままでは、記憶設定の変更は行えません。フィルムを取り出してから行ってください。
- 撮影データが記憶されている状態では、記憶設定の変更は行えません。撮影データを消去してから行ってください（P.120）。

2 「セットアップメニュー」の「撮影データメニュー」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「セットアップメニュー」を選択し、▶を押すと、セットアップメニュー画面が表示されます。
- ▼または▲で「撮影データメニュー」を選択し、▶を押すと、撮影データメニュー画面が表示されます。

3 「記憶設定」で記憶モードを選択します。

- ▼または▲で「記憶設定」を選択し、▶を押すと、記憶設定画面が表示されます。
- ▼または▲で「簡易情報記憶」、または「詳細情報記憶」を選択し、▶を押すと記憶モードがセットされ、撮影データメニュー画面に戻ります。
- 「記憶しない」を選択し、▶を押すと撮影データは記憶されません。

4 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

必ず日時の設定（☞P.127）を行ってから記憶設定を行ってください。

記憶容量（撮影データを記憶できるフィルム本数：36枚撮りフィルム）

- 「簡易情報記憶」：約57本
- 「詳細情報記憶」：約31本
  - ・セットアップメニュー**「撮影データメニュー：記憶警告」**（☞P.121）で、撮影データを記憶できるフィルム本数を超えた場合の動作（警告表示無しで上書き記憶をするか、または警告を表示してシャッターをきれなくし、記憶も停止する）を選択できます。

撮影データの表示例

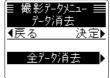
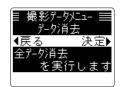
- 背面表示パネルに撮影データを表示する場合（☞P.124）、「フィルム情報」と「コマ情報」に分けて表示します。
- 以下の項目は表示されませんが、データとして記憶されています（☞P.126）。
  - ・識別番号（カメラID）
  - ・シンクロモード
  - ・露出偏差
  - ・スピードライト設定の「アドバンストワイヤレスライティング撮影」、「オートFPハイスピードシンクロ（FP発光）」
  - ・VR機能

フィルム番号/感度	
0009	100
0008	100
0007	400
0006	100
0005	400

フィルム情報

コマ情報（簡易情報記憶時）

コマ情報（詳細情報記憶時）

多重露出撮影時（☞P.143）は、1回目の露光の時の撮影データを記憶します。

■撮影データの消去方法

1 カメラにフィルムが入っていない状態で、電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させ、「セットアップメニュー」の「撮影データメニュー」を表示させます。

- 「撮影データメニュー」の表示方法は、「撮影データの記憶の設定方法」の操作手順1、2をご覧ください（P.118）。
- カメラにフィルムが装填されたままでは、撮影データの消去は行えません。フィルムを取り出してから行ってください。

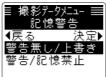
2 「データ消去」で全データを消去します。

- ▼または▲で「データ消去」を選択し、▶を押すと、データ消去画面が表示されます。
- ▶を押すと「全データ消去を実行します」と表示されますので、▶を押して全データを消去します（◀を押すと消去されずに、撮影データメニュー画面に戻ります）。
- 消去後、撮影データメニュー画面に戻ります。

3 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

撮影データをCFカードに保存した場合

- 別売のデータリーダーMV-1（P.172）を使用して撮影データをCFカードに保存した場合、自動的にカメラ内の撮影データを消去します（カメラに撮影途中のフィルムが装填されている場合は、撮影途中の撮影データはCFカードに保存されず、カメラ内に残ります）。

■記憶警告の設定方法

撮影データを記憶できるフィルム本数（P.119）を超えた場合の動作（警告表示無しで上書き記憶をするか、または警告を表示してシャッターをきれなくし、記憶も停止する）の選択を行います。

1 カメラにフィルムが入っていない状態で、電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させ、「セットアップメニュー」の「撮影データメニュー」を表示させます。

- 「撮影データメニュー」の表示方法は、「撮影データの記憶の設定方法」の操作手順1、2をご覧ください（P.118）。
- カメラにフィルムが装填されたままでは、記憶警告の設定は変更できません。フィルムを取り出してから行ってください。
- 撮影データが記憶されている状態では、記憶警告の設定は変更できません。撮影データを消去してから行ってください（P.120）。

2 記憶警告を設定します。

- ▼または▲で「記憶警告」を選択し、▶を押すと、記憶警告の設定画面が表示されます。
- ▼または▲で「警告無し／上書き」または「警告／記憶禁止」を選択し、▶を押すと、記憶警告がセットされ、撮影データメニュー画面に戻ります。

3 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

記憶警告の設定内容

- 撮影データを記憶できるフィルム本数を超えた場合、記憶警告の設定により、以下のように動作します。
  - **・警告無し／上書き（初期設定）：**
    警告表示無しで上書き記憶します（最も古いフィルムの撮影データから消去して、新しい撮影データを記憶します）。
  - **・警告／記憶禁止：**
    警告を表示してシャッターをきれなくし、記憶も停止します。

「警告／記憶禁止」にセットした場合の警告表示について

撮影データ
記憶容量不足

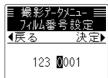
電源スイッチ
ON → OFF

- 「記憶警告」を「警告／記憶禁止」にセットした場合、撮影データを記憶できるフィルム本数（P.119）を超えると、フィルムを入れた時に上面表示パネルおよびファインダー内表示に FuL が点滅（半押しタイマーがOFFになると消灯）し、背面表示パネルにイラストのような警告が表示（半押しタイマーがOFFになると消灯）され、シャッターがきれなくなりますので下記のように対応してください。
  - ・電源スイッチをOFFにし、再びONにするとシャッターがきれるようになりますが、撮影データは記憶しません。
  - ・撮影データの消去（P.120）を行うと、シャッターがきれるようになります。また、新たに撮影データを記憶し始めます。
  - ・別売のデータリーダーMV-1（P.172）を使用して撮影データをCFカードに保存すると、シャッターがきれるようになります。CFカードへの保存と同時にカメラ内の撮影データは消去され、新たに撮影データを記憶し始めます（カメラに撮影途中のフィルムが装填されている場合は、撮影途中の撮影データはCFカードに保存されず、カメラ内に残ります）。

■識別番号（カメラID）およびフィルム番号の設定方法

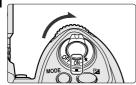
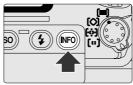
1 カメラにフィルムが入っていない状態で、電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させ、「セットアップメニュー」の「撮影データメニュー」を表示させます。

- 「撮影データメニュー」の表示方法は、「撮影データの記憶の設定方法」の操作手順1、2をご覧ください（P.118）。
- カメラにフィルムが装填されたままでは、識別番号およびフィルム番号の変更は行えません。フィルムを取り出してから行ってください。
- 撮影データが記憶されている状態では、識別番号およびフィルム番号の変更は行えません。撮影データを消去してから行ってください（P.120）。

2 「撮影データメニュー」の「フィルム番号設定」を選択します。

- ▼または▲で「フィルム番号設定」を選択し、▶を押します。

3 識別番号（カメラID）およびフィルム番号を設定します。

- 左側の3桁の数字が識別番号（カメラID）です。
- 反転表示されている、左から1桁目を▼または▲で設定します。
- ▶を押して「2桁目」、「3桁目」を順次反転表示させ、それぞれ設定します。
- 「3桁目」の設定後、▶を押すと右側の4桁の数字（フィルム番号）の1桁目が反転表示されます。

- 右側の4桁の数字がフィルム番号です。
- 反転表示されている、左から1桁目を▼または▲で設定します。
- ▶を押して「2桁目」～「4桁目」を順次反転表示させ、それぞれ設定します。
- 「4桁目」の設定後、▶を押すと識別番号（カメラID）およびフィルム番号の数値が確定し、撮影データメニュー画面に戻ります。

4 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

［撮影データの表示方法］

1 電源スイッチをONにし、INFOボタンを押してフィルム情報を表示させます。

フィルム番号／感度
0009 100
0008 100
0007 400
0006 100
0005 400

- フィルム情報は最新の情報から表示されます。

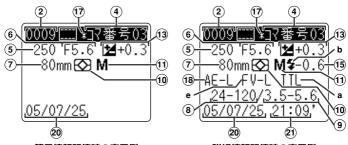
2 マルチセレクターでコマ情報を表示させたいフィルムを選択します。

フィルム番号／感度
0009 100
0008 100
0007 400
0006 100
0005 400

0008 コマ番号36
125 F8 -0.3
35mm M+1.0
FV-L TTL
24-120/3.5-5.6
05/07/25 20:34'

- ▼または▲で表示させたいフィルム情報を選択し、▶を押すと選択したフィルム情報のコマ情報が表示されます。
- コマ情報は選択したフィルム情報の中の最新のコマ情報から表示されます（コマ情報を表示した後に、◀で一度フィルム情報表示に戻り、再度▶を押すと、最後に表示したコマ情報が表示されます）。
- コマ情報は記憶モード（イラストは詳細情報記憶時）により表示する項目数が異なります。

3 マルチセレクターでコマ情報を表示させたいコマを選択します。

0008 コマ番号35
125 F8 -0.3
50mm M+1.0
FV-L TTL
24-120/3.5-5.6
05/07/25 20:33'

- ▼または▲で表示させたいコマ情報を選択します。
- ◀または▶を押すと、フィルム情報表示に戻ります。
- ◀を2回押すか、INFOボタンを押すと、撮影情報表示に戻ります。

［撮影データ表示の詳細］

簡易情報記憶時の表示例　　詳細情報記憶時の表示例

※：表示例の番号、記号はP.114〜117の記憶項目の説明に準じています。

記憶項目		表示例の意味
②	フィルム番号	0009
④	フィルムカウント数値（コマ番号）	3コマ目
⑤	シャッタースピード	1/250秒
⑥	絞り値	F5.6
⑦	設定焦点距離	80mm
⑧	レンズの焦点距離	24-120mm
⑨	開放絞り値	F3.5-5.6
⑩	測光モード	マルチパターン測光
⑪	露出モード	マニュアル

記憶項目		表示例の意味
⑬	露出補正量	+0.3
⑮	調光補正量	−0.6
a	発光モード（TTL）	TTLモード使用
b	スピードライト使用有無	使用
e	FVロック	使用
⑰	多重露出撮影	実行
⑱	AEロック	使用
⑳	撮影日	2005年7月25日
㉑	撮影時刻	21時9分

- 数値以外で表示される記憶項目は、それぞれ以下の内容を示します。
  - ⑩：（マルチパターン測光）、（中央部重点測光）、（スポット測光）
  - ⑪：P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）
  - a：TTL（TTL［i-TTL］モード使用）、表示無し（TTLモード以外を使用）
  - b：ϟ（スピードライト使用）、表示無し（スピードライト不使用）
  - e：FV-L（FVロック使用）、表示無し（FVロック不使用）
  - ⑰：⁎（多重露出撮影）、表示無し（通常撮影）
  - ⑱：AE-L（AEロック使用）、表示無し（AEロック不使用）
- 「⑳ 撮影日」は、セットアップメニューの**「年月日表示設定」**（P.128）を**「月日年」**または**「日月年」**に変更すると、変更した順序で表示します。
- 記憶項目の内容については、P.115〜117の「記憶項目の詳細」をご覧ください。

メニューガイド

［撮影データのCFカードへの保存］

別売のデータリーダーMV-1（P.172）を使用して撮影データをCFカードに保存することができます。保存したデータは、CFカードからパソコンへ転送して活用できます。詳細はデータリーダーMV-1の使用説明書をご覧ください。

- CFカードへは、CSV（Comma Separated Value）形式のテキストファイルとして保存されます。Microsoft® Excelなどの表計算ソフトを使用して見やすく整理できます。
- パソコンへ転送する場合、別売のPCカードアダプターEC-AD1や市販のPCカードアダプターまたはCFカードリーダーなどが必要になります。

撮影データの活用例

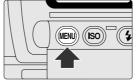
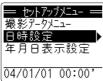
- 下表は、CFカードに保存したデータを、Microsoft®Excelを使用して表にしたものです。

Microsoft Excel - n00002

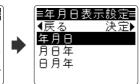
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	Film speed	Film number	Camera ID						
2	50	2	000						
3	Frame number	Shutter speed	Aperture	Focal length	Lens maximum aperture	Metering system	Exposure mode	Flash sync mode	Exposure compe
4	01	125	F4	48(28-70)	F3.5-F4.5	Color matrix	M	Front curtain sync	+1.7
5	02	250	F4.2	60(28-70)	F3.5-F4.5	Color matrix	M	Front curtain sync	+1.7
6	03	640	F13	62(28-70)	F3.5-F4.5	Spot	P	Front curtain sync	0.0
7	04	640	F7.1	62(28-70)	F3.5-F4.5	Spot	P	Front curtain sync	-1.0
8	05	250	F18	52(28-70)	F3.5-F4.5	Center weighted	S	Front curtain sync	-1.0
9	06	640	F2.8	300	F2.8	Center weighted	A	Front curtain sync	+0.3
10	07	800	F2.8	300	F2.8	Center weighted	A	Front curtain sync	+0.3
11	08	500	F4	600	F4	Center weighted	M	Front curtain sync	+0.3
12	09	500	F5.6	600	F4	Center weighted	M	Front curtain sync	+0.3
13	10	320	F2.8	50	F1.4	Matrix	A	Front curtain sync	+0.3
14	11	60	F5.6	50	F1.4	Matrix	A	Front curtain sync	+0.3
15	12	250	F4	180	F2.8	Matrix	A	Front curtain sync	0.0
16	13	125	F2.8	180	F2.8	Spot	M	Front curtain sync	0.0
17	14	125	F5.6	180	F2.8	Spot	M	Front curtain sync	0.0
18	15	125	F14	55(28-70)	F3.5-F4.5	Spot	S	Front curtain sync	0.0
19	16	160	F10	55(28-70)	F3.5-F4.5	Spot	S	Front curtain sync	+0.7

撮影データの写し込みや記憶、インターバルタイマー撮影のために、日時の設定を行います。

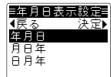
■日時の設定方法

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

2「セットアップメニュー」の「日時設定」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「セットアップメニュー」を選択し、▶を押すと「セットアップメニュー」が表示されます。
- ▼または▲で「日時設定」を選択し、▶を押すと日時の設定画面が表示されます。

3 日時を設定します。

- ▶を押して設定したい部分を反転表示させ、▼または▲で設定します。
- 「分」が反転表示の時に▶を押すと時計の計時が開始（00秒からスタート）され、セットアップメニュー画面に戻ります。
- セットアップメニューの**「年月日表示設定」**を**「月日年」**または**「日月年」**に変更すると（次ページ手順4、5）、「年」、「月」、「日」の設定順序も変更されます。

［年月日表示順の設定］

4「セットアップメニュー」の「年月日表示設定」を表示させます。

- ▼または▲で「年月日表示設定」を選択し、▶を押すと年月日表示設定画面が表示されます。

［年月日表示順の設定］

5 日付の表示順序を設定します。

- ▼または▲で設定したい表示順序を選択し、▶を押すと表示順序がセットされ、セットアップメニュー画面に戻ります。
- 「月日年」または「日年月」にセットすると、背面表示パネルに表示したり、写し込んだり（P.130）する日付の順序も変更されます。

6 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

カメラの内蔵時計について

- カメラの内蔵時計は一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

写し込み、多重露出撮影、インターバルタイマー撮影の設定を行います。

■撮影メニュー項目の詳細

写し込みメニュー

P.130

撮影時にフィルムの画面内、コマ間、0コマ目に撮影日時などの撮影データを写し込むことができます。詳細はP.130〜142の「撮影データの写し込み」をご覧ください。

写し込みメニュー
戻る　決定
画面内写し込み
ｺﾏ間写し込み
0ｺﾏﾃﾞｰﾀ写し込み
OFF

[セット内容]

画面内写し込み	：撮影データを画面内に写し込みます。
コマ間写し込み	：撮影データをコマ間に写し込みます。
0コマデータ写し込み	：撮影データを0コマ目のコマ間、または0コマ目の画面内に写し込みます。

多重撮影

P.143

多重露出撮影の設定を行います。詳細はP.143〜144の「多重露出撮影」をご覧ください。

- 多重露出の回数を2〜10回の中から選択し、設定します。

インターバルタイマー

P.145

インターバルタイマー撮影の設定を行います。詳細はP.145〜148の「インターバルタイマー撮影」をご覧ください。

- 「撮影開始日時」、「撮影間隔」、「繰り返し回数」、「1回の撮影コマ数」を設定します。

撮影時にフィルムの画面内、コマ間、0コマ目に撮影日時などの撮影データを写し込むことができます。

■画面内写し込み

「年月日」、「日時分」、「固定数値」、「フィルムカウント数値（コマ番号）」、「アップカウント数値」のいずれかをフィルムの画面内に写し込むことができます。

■写し込み内容

年月日：

撮影日を、「年月日」の順序で写し込みます。

- セットアップメニューの**「年月日表示設定」**を**「月日年」**または**「日月年」**に変更すると、変更した順序で写し込みます（P.128）。

日時分：

撮影日時（日時分）を写し込みます。

固定数値：

撮影者自身が任意に設定した6桁の数値を写し込みます。

- 固定数値は、コマ間写し込み（P.134）と共通の数値です。

フィルムカウント数値（コマ番号）：

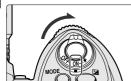
撮影時に上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されるフィルムカウンターの数値（コマ番号）を写し込みます。

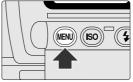
アップカウント数値：

撮影者自身が任意に設定した6桁の数値（P.133）から、シャッターをきるごとに1ずつ加算した数値を写し込みます。総撮影フィルムコマ数の確認等に便利です。

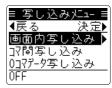
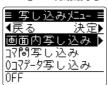
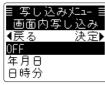
- 「99 99 99」までカウントした後は、再び「00 00 00」からカウントします。
- アップカウント数値は、コマ間写し込み（P.134）と共通の数値です。画面内、コマ間、いずれかの写し込み項目としてセットしてある限りカウントを続けます。写し込み項目としてセットされていない場合はカウントしません。
- フィルムが入っていない時や、フィルムの空送り中はカウントしません。
- アップカウント数値は、フィルムの巻き戻しや、フィルム交換等で裏ぶたを開けてもリセットされません。
- 多重露出撮影時（P.143）は、1回目の露光時にのみカウントします。

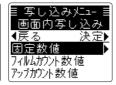
データの写し込み位置と写し込み例

写し込み項目	写し込み例
年月日※	'05 07 25
日時分	25 15:30
固定数値	03 12 02
フィルムカウント数値	FC 28
アップカウント数値	00 01 23

- データは画像の右下（イラストの▬の位置）に写し込まれます。
- 写し込み位置に白、赤、オレンジ、黄色などの明るいものがあると、写し込まれたデータが読み取りにくくなることがありますので注意してください。
- 写し込み例は、年月日および日時分が「2005年7月25日15時30分」、固定数値が「31202」、フィルムカウント数値（コマ番号）が「28」、アップカウント数値が「123」の場合です。

  ※：年月日は、セットアップメニューの**「年月日表示設定」**で**「月日年」**にセットすると「07 25 '05」と、**「日月年」**にセットすると「25 07 '05」と写し込みます（P.128）。

写し込みの注意事項についてはP.140をご覧ください。

■画面内写し込みの設定方法

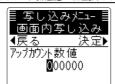
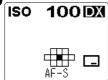
1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

2 「撮影メニュー」の「写し込みメニュー」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「撮影メニュー」を選択し、▶を押すと、「撮影メニュー」が表示されます。
- ▼または▲で「写し込みメニュー」を選択し、▶を押すと、「写し込みメニュー」が表示されます。

3 「写し込みメニュー」の「画面内写し込み」を選択します。

- ▼または▲で「画面内写し込み」を選択し、▶を押します。

4 写し込み項目を選択します。

- ▼または▲で「年月日」、「日時分」、「固定数値」、「フィルムカウント数値」、「アップカウント数値」のいずれかを選択し、▶を押すと写し込み項目がセットされます。

● 「年月日」、「日時分」、「フィルムカウント数値」セット時は写し込みメニュー画面に戻ります。
● 「固定数値」、「アップカウント数値」セット時は数値設定画面が表示されます。

■「固定数値」を選択した場合は数値を設定します。

● 反転表示されている、左から1桁目を▼または▲で設定します。
● ▶を押して「2桁目」〜「6桁目」を順次反転表示させ、それぞれ設定します。
● 「6桁目」の設定後、▶を押すと数値が確定し、写し込みメニュー画面に戻ります。
● 数値の設定を行わない場合は「00 00 00」が写し込まれます。

■「アップカウント数値」を選択した場合は最初の数値を設定します。

● 反転表示されている、左から1桁目を▼または▲で設定します。
● ▶を押して「2桁目」〜「6桁目」を順次反転表示させ、それぞれ設定します。
● 「6桁目」の設定後、▶を押すと数値が確定し、写し込みメニュー画面に戻ります。
● 最初の1コマは設定した数値を写し込みます。その後、フィルムを巻き上げてシャッターをきるごとに設定した数値から1ずつ加算して写し込みます。
● 数値の設定を行わない場合は「00 00 00」から写し込みが始まります。

メニューガイド

5 設定を終了します。

● ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。
● 画面内写し込みをセットすると、背面表示パネルに画面内写し込みマーク が表示されます。また、画面内写し込みとコマ間写し込みの両方をセットしている場合は、写し込みマーク が表示されます。

■コマ間写し込み

画面内写し込みと同様の「年月日」、「日時分」、「固定数値」、「フィルムカウント数値（コマ番号）」、「アップカウント数値」や、さらに詳細な撮影データをフィルムのコマ間に写し込むことができます。

■写し込み内容

年月日／日時分／固定数値／フィルムカウント数値／アップカウント数値：

P.130の「画面内写し込み」の写し込み内容をご覧ください。

シャッタースピード：

撮影時に上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示されるシャッタースピードを写し込みます。

絞り値：

撮影時に上面表示パネル、背面表示パネル（詳細表示時および拡大表示時）およびファインダー内表示に表示される絞り値を写し込みます。

- 非CPUレンズ使用時に「レンズ情報」（P.149）で開放絞り値の設定を行っていない場合は開放からの絞り段数となり、絞り段数の前に「▲」が写し込まれます。

露出モード：

シャッタースピードおよび絞り値の前に写し込まれる「■」の有無は、撮影時にセットしていた露出モードを示します。

- P（プログラムオート）時は、「■」はいずれの前にも写し込まれません。
- S（シャッター優先オート）時は、シャッタースピードの前に「■」が写し込まれます。
- A（絞り優先オート）時は、絞り値の前に「■」が写し込まれます。
- M（マニュアル）時は、シャッタースピードと絞り値の前に「■」が写し込まれます。

露出補正量：

露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）または A（絞り優先オート）の場合はセットした露出補正量（P.76）を写し込みます。また、露出モードが M（マニュアル）の時は適正露出からの露出オーバー量または露出アンダー量を写し込みます（写し込める範囲は±9.7の範囲で、それ以上の場合は「－9.7」または「＋9.7」と写し込まれます）。

- 露出補正をセットしていない場合は「0.0」が写し込まれます。
- 多重露出撮影時（P.143）は「--」が写し込まれます。
- オートブラケティング撮影時（P.77）は、ブラケティング補正量を加算して写し込みます。詳細は、P.154の「露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて」をご覧ください。

調光補正量（⚡☒）：

スピードライト撮影時にセットした調光補正量を写し込みます（調光補正については使用するスピードライトの使用説明書をご覧ください）。

- 調光補正をセットしていない場合は「0.0」が写し込まれます。

- スピードライト使用時に露出補正（P.76）やオートブラケティング撮影（P.77）を行うと、同時にスピードライトの発光量も補正されます。この場合、スピードライトで調光補正をセットしていない場合でも調光補正量として写し込みます。詳細は、P.154の「露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて」をご覧ください。
- スピードライトの電源がOFFの場合には、何も写し込まれません。

測光モード：

撮影時にセットした測光モード（P.64）を写し込みます。

焦点距離：

撮影時の設定焦点距離（ズーム位置）を写し込みます。

- ズームレンズ装着時はズーム位置を、単焦点レンズ装着時はレンズの焦点距離を写し込みます。
- 非CPUレンズの場合は、「レンズ情報」（P.149）で設定した値を写し込みます（設定を行っていない場合は何も写し込みません）。
- AF-S、AF-Iテレコンバーター使用時は合成値を写し込みます（CPUレンズのみ）。ただし、AF-SテレコンバーターTC-17EIIとAF-S ED300mm F2.8D、AF-S ED400mm F2.8Dを組み合わせて使用すると、焦点距離が正しく写し込まれません（AF-S ED300mm F2.8DII、AF-S ED400mm F2.8DII使用時は正しく写し込まれます）。

時刻：

撮影時刻を写し込みます。

写し込まれる撮影データについて

- 写し込みメニューで写し込み項目をセットすると、下表に示す組み合わせで撮影データを写し込むことができます。

写し込み項目	写し込み内容
＋年月日	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、年月日
＋日時分	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、日時分
＋固定数値	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、固定数値
フィルムカウント数値	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、フィルムカウント数値
アップカウント数値	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、アップカウント数値
⚡⊠＋測光モード	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、調光補正量、測光モード
⚡⊠＋焦点距離	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、調光補正量、焦点距離
⚡⊠＋時刻	シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量、調光補正量、時刻
年月日	年月日
日時分	日時分
固定数値	固定数値

※：写し込み項目が「＋年月日」、「＋日時分」、「＋固定数値」の場合、同時にシャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正量も写し込まれます。

データの写し込み位置と写し込み例

- データは画像の左側コマ間にイラストのように写し込まれます。
- 写し込み例は、シャッタースピード「1/125秒」、絞り値「F5.6」、露出モード※1「A（絞り優先オート）」、露出補正量「＋1.3」、年月日※2「2005年7月25日」の場合です。
  ※1：P（プラグラムオート）時は「 125 F5.6」、S（シャッター優先オート）時は「■125 F5.6」、M（マニュアル）時は「■125 ■F5.6」と写し込みます。
  ※2：年月日は、セットアップメニューの**「年月日表示設定」**で**「月日年」**にセットすると「07 25 '05」と、**「日月年」**にセットすると「25 07 '05」と写し込みます（P.128）。
- セットした写し込み項目（イラストの□内）が**「年月日（＋年月日）」**以外の場合は下表のように写し込みます。

写し込み項目	写し込み例
日時分（＋日時分）	25 15：30
固定数値（＋固定数値）	03 12 02
フィルムカウント数値	FC 28
アップカウント数値	00 01 23

写し込み項目	写し込み例
⚡±＋測光モード※3	--2.0 C w
⚡±＋焦点距離	--2.0 3 00
⚡±＋時刻	--2.0 15：30

- 表中の写し込み例は、日時分および時刻が「25日15時30分」、固定数値が「31202」、フィルムカウント数値（コマ番号）が「28」、アップカウント数値が「123」、調光補正量（⚡±）が「－2.0」、測光モードが「中央部重点測光」、焦点距離が「300mm」の場合です。
  ※3：マルチパターン測光時は「 AmP 」、スポット測光時は「 SP 」と写し込みます。

写し込みの注意事項についてはP.140をご覧ください。

■コマ間写し込みの設定方法

1 **電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させ、「撮影メニュー」の「写し込みメニュー」を表示させます。**

- 「写し込みメニュー」の表示方法は、「画面内写し込み」の操作手順1、2をご覧ください（P.132）。

2 **「写し込みメニュー」の「コマ間写し込み」を選択します。**

- ▼または▲で「コマ間写し込み」を選択し、▶を押します。

3 **写し込み項目を選択します。**

- ▼または▲で「＋年月日」、「＋日時分」、「＋固定数値」、「フィルムカウント数値」、「アップカウント数値」、「 ＋測光モード」、「 ＋焦点距離」、「 ＋時刻」、「年月日」、「日時分」、「固定数値」のいずれかを選択し、▶を押すと、写し込み項目がセットされます。
- 「＋年月日」、「＋日時分」、「フィルムカウント数値」、「 ＋測光モード」、「 ＋焦点距離」、「 ＋時刻」、「年月日」、「日時分」セット時は写し込みメニュー画面に戻ります。
- 「＋固定数値」、「アップカウント数値」、「固定数値」セット時は数値設定画面が表示されます。数値の設定方法は「画面内写し込み」の手順4をご覧ください（P.132）。

4 **設定を終了します。**

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。
- コマ間写し込みをセットすると、背面表示パネルにコマ間写し込みマークが表示されます。また、画面内写し込みとコマ間写し込みの両方をセットしている場合は、写し込みマークが表示されます。

メニューガイド

■0コマデータ写し込み

フィルム装填時にフィルムの空送りを3コマでいったん停止し、0コマ目（1コマ目の1コマ前）に写し込みを行った後、1コマ目まで空送りします。
0コマデータ写し込みは、0コマ目のコマ間には「識別番号（カメラID)」、「フィルム番号」およびフィルム装填時の「年月日」を、0コマ目の画面内にはフィルム装填時の「年月日」または「フィルム番号」を写し込むことができます。

■写し込み内容

識別番号（カメラID）：
「撮影データの記憶」で設定した識別番号（カメラID）を写し込みます（P.123)。

フィルム番号：
「撮影データの記憶」で設定したフィルム番号を写し込みます（P.123)。

年月日：
フィルム装填時の日付を、「年月日」の順序で写し込みます。
- セットアップメニューの**「年月日表示設定」**を**「月日年」**または**「日月年」**に変更すると、変更した順序で写し込みます（P.128)。

データの写し込み位置と写し込み例

[コマ間の場合]

- データは0コマ目左側のコマ間相当部分に上のイラストのように写し込まれます。

[画面内の場合]

写し込み項目	写し込み例
画面内年月日※	'05 07 25
画面内フィルム番号	00 09

- データは0コマ目右下（イラストの▬の位置）に写し込まれます。
- 写し込み例は、識別番号（カメラID）が「123」、フィルム番号が「0009」、年月日※が「2005年7月25日」の場合です。
  ※：年月日は、セットアップメニューの**「年月日表示設定」**で**「月日年」**にセットすると「07 25 '05」と、**「日月年」**にセットすると「25 07 '05」と写し込みます（P.128)。

写し込みの注意事項についてはP.140をご覧ください。

■0コマデータ写し込みの設定方法

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させ、「撮影メニュー」の「写し込みメニュー」を表示させせます。

- 「写し込みメニュー」の表示方法は、「画面内写し込み」の操作手順1、2をご覧ください（P.132）。

2 「写し込みメニュー」の「0コマデータ写し込み」を選択します。

- ▼または▲で「0コマデータ写し込み」を選択し、▶を押します。

3 写し込み項目を選択します。

- ▼または▲で「コマ間」、「画面内年月日」、「画面内フィルム番号」、のいずれかを選択し、▶を押すと、写し込み項目がセットされ、写し込みメニュー画面に戻ります。

4 設定を終了します。

- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。

フィルム装填時のご注意

- 0コマデータ写し込みはフィルム装填時に写し込みます。フィルムを装填して、1コマも撮影を行わずにフィルムを抜き出しても、0コマデータは写し込まれていますのでご注意ください。
- フィルム装填時にフィルムを引き出しすぎると、0コマデータを写し込む位置まで感光してしまい、写し込んだデータが判読できない場合がありますのでご注意ください。

［写し込みについてのご注意］

データの写し込み濃度について

- データの写し込み濃度は、自動的にセットされた、または任意にセットしたフィルムの感度に合わせて設定されます。ただし、写し込みはフィルムの裏側から行いますので、同じ感度のフィルムでも裏側からの感度に違いがあるため、写し込んだデータが薄くて判別できない場合や、濃すぎてにじんでしまう場合があります。あらかじめ試し撮りされることをおすすめします。濃度が適切でない場合は、カスタムメニュー**「d8：写し込み濃度」**（P.105）の設定を変更して調整してください。
  - ・裏側からの感度が特に低い「コダクローム64」、「コダクローム200」、「フジクロームVelvia」などを使用する場合は、写し込み濃度を「＋1」または「＋2」にセットしてください。

特殊フィルム使用時について

- 赤外線および複写用などの特殊フィルムは、フィルム感度が低いため写し込みはできません。

必ず日時の設定を行ってから写し込みの設定を行ってください（P.127）。

多重露出撮影時の写し込み

- 多重露出撮影時（P.143）は、1回目の露光時に写し込みます。
- 画面内写し込みの場合、多重露出の回数が多い時は背景や被写体が重なって、写し込まれたデータが判読しにくくなることがありますのでご注意ください。

コマ間写し込みを行った撮影フィルムを現像する際のご注意

- 現像処理作業の段階でホルダー収納のためフィルムを裁断する際、フィルムのコマの間に写し込まれたデータや、場合によっては撮影画面が切断されてしまうことがあります。このようなことを避けるために現像をご依頼の際は、コマ間データや撮影画面が切断されない長巻きなどの処置を事前に指示してください。

画面内写し込みとコマ間写し込みの両方をセットする場合

- 画面内写し込みとコマ間写し込みの両方をセットする場合、写し込み項目の選択に制限がある、または画面内写し込みが行えない場合があります。セットしたい項目が選択できない時や、画面内写し込みが行えない場合は、写し込みの設定を変更してください。

 画面内写し込みが先に設定されている場合：

 ・画面内写し込みが「年月日」、「日時分」、「固定数値」、「フィルムカウント数値」、「アップカウント数値」のいずれかにセットしてある場合、コマ間写し込みの項目は、画面内写し込みの項目と同じ項目以外にセットできません。ただし、「年月日」の場合は「＋年月日」に、「日時分」の場合は「＋日時分」に、「固定数値」の場合は「＋固定数値」にはそれぞれセットできます。

 コマ間写し込みが先に設定されている場合：

 ・コマ間写し込みが「年月日（＋年月日）」、「日時分（＋日時分）」、「固定数値（＋固定数値）」、「フィルムカウント数値」、「アップカウント数値」のいずれかにセットしてある場合、画面内写し込みの項目は、コマ間写し込みの項目と同じ項目以外にセットできません。

 ・コマ間写し込みが「⚡±＋測光モード」、「⚡±＋焦点距離」、「⚡±＋時刻」のいずれかにセットしてある場合、画面内写し込みはできません。

低温時のご注意

- 写し込みには液晶を使用しています。液晶の応答性の関係上、0℃未満の低温時に写し込みを行う場合は以下の事項に注意してください。

 画面内写し込みおよびコマ間写し込みの場合：

 ・電源スイッチをONにしてから（または半押しタイマーがONになってから）、2秒以上経過後、半押しタイマーがOFFになる前にシャッターをきってください。2秒以上経過する前にシャッターをきると、正常に写し込みが行われない場合があります。

 ・2秒程度の間隔を開けて撮影してください。間隔を開けないと、データの切り換わりと撮影動作が重複した場合に、切り換わる前のデータが写し込まれたり、データが二重に写し込まれることがあります。

 0コマデータ写し込みの場合：

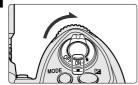
 ・フィルム装填時に電源スイッチをONにしてから（または半押しタイマーがONになってから）、2秒以上経過後、半押しタイマーがOFFになる前の間にフィルムの装填（1コマ目までの空送りまで）を完了させてください。2秒以上経過する前にフィルムの装填が完了すると、正常に写し込みが行われない場合があります。

写し込み時間について

- 写し込み撮影時は、写し込みに使用する液晶の応答時間に合わせるため、常温でも写し込みに時間がかかります（低温下ではさらに時間がかかります）。また、写し込み撮影時には写し込み完了後にフィルムの巻き上げを行いますので、フィルム給送モードをCL（低速連続巻き上げ）またはCH（高速連続巻き上げ）にセットして連続巻き上げ撮影を行う場合に、巻き上げ速度が遅くなることがあります。
  - ･写し込み項目の組み合わせと写し込み時間については下表をご覧ください。
  - ･気温が低いほど、フィルム感度が低いほど、写し込み濃度（カスタムメニュー**「d8：写し込み濃度」**で設定 P.105）が濃いほど写し込みに時間がかかります（気温の低下が最も大きな要因です）。

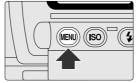
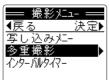
■写し込み項目の組み合わせと写し込み時間

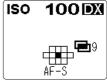
コマ間写し込み ＼ 画面内写し込み	OFF	年月日	日時分	固定数値	フィルムカウント数値	アップカウント数値
OFF	◎	○	○	○	△	△
＋年月日	△	△				
＋日時分	△		△			
＋固定数値	△			△		
フィルムカウント数値	△				△	
アップカウント数値	△					△
⚡⊠＋測光モード	△					
⚡⊠＋焦点距離	△					
⚡⊠＋時刻	△					
年月日	○	○				
日時分	○		○			
固定数値	○			○		

○の場合は通常の撮影時（◎：写し込み無し）とほぼ同じような状態で撮影できますが、△の場合は撮影コマごとに変化する撮影データを写し込むため、写し込みに時間がかかります（　は設定不可）。

- ○の場合でも、フィルム給送モードをCH（高速連続巻き上げ）にセットして連続巻き上げ撮影を行う際、フィルム感度がISO 64以下、写し込み濃度が「＋1」または「＋2」の場合は、若干巻き上げ速度が遅くなる場合があります。

多重露出撮影では、フィルムの同一コマ上に画像を何回も重ねて撮影することができます。いずれの露出モードでもセット可能です。

■多重露出撮影の設定方法

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

2 「撮影メニュー」の「多重撮影」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「撮影メニュー」を選択し、▶を押すと、「撮影メニュー」が表示されます。
- ▼または▲で「多重撮影」を選択し、▶を押すと、多重撮影画面が表示されます。

3 多重露出の回数をセットします。

- ▼または▲で多重露出の回数を2〜10回の中から選択し、▶を押すとセットされます。
- 多重露出がセットされると、ファインダー内表示に多重露出マーク ▣ が、背面表示パネルに多重露出マーク ▣ と多重露出の回数が表示されます。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- フィルム給送モードがS（1コマ巻き上げ）の場合、シャッターボタンを押すと1回目の露光が行われ、ファインダー内表示の多重露出マーク が点滅します。フィルムの給送は行われず、2回目にシャッターボタンを押すと多重露出撮影となります。セットした回数分シャッターボタンを押すとフィルムの給送が行われ、多重露出が解除されます。
- フィルム給送モードがCL（低速連続巻き上げ）、CH（高速連続巻き上げ）、CS（超低速連続巻き上げ）のいずれかの場合、シャッターボタンを押し続けると、連続して露光が行われます。セットした回数が終了すると多重露出が解除され、フィルムの給送が行われます。
- 多重露出がセットされている間は、フィルムカウンターのカウントアップは行われません。

■多重露出の解除方法

- 操作手順3の多重露出の回数を0にセットするか、ツーボタンリセット（P.153）を行ってください。この時、多重露出の途中の場合はフィルムは給送されますが、多重露出のセット後に一度も露光を行っていない場合は、フィルムは給送されません。
- 多重露出の途中や多重露出のセット後に、フィルムの巻き戻しが行われると多重露出が解除されます。また、R1ボタンを押して、シャッターボタンを押し込んだ場合も多重露出が解除されます（この場合、シャッター幕は開かずにフィルムが1コマ送られます）。

多重露出回数に応じた露出補正について

- 多重露出はフィルムの同一コマ上に何度も露出を与えますので、背景や被写体が重なっていく場合、多重露出の回数に応じた露出補正を撮影前に行う必要があります。
  ・一般的な補正量の目安は次のとおりです。

多重露出の回数	補正量の目安
2回	−1.0
3回	−1.5
4回	−2.0
8〜9回	−3.0

- 実際の補正量は条件によって変わりますので、試し撮りをおすすめします。
- 背景が完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。

画面のずれについて

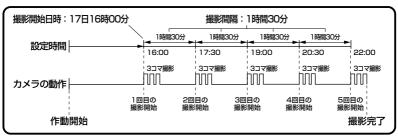
- 多重露出の際、画面がわずかにずれることがあります。特にフィルムの最初と最後のコマはフィルムの巻きぐせがありますので、おすすめできません。

撮影メニュー［インターバルタイマー撮影］

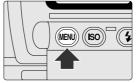
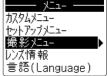
設定した日時から一定時間ごとに、設定した回数の撮影を自動的に繰り返し行えます。

■設定できる項目と範囲

設定項目		設定範囲
撮影開始日時	日	--、1～31
	時	00～23
	分	00～59
撮影間隔	時	00～99
	分	00～59
	秒	00～59
繰り返し回数		1～99
1回の撮影コマ数		1～36

- 撮影開始日時の「日」を「--」にセットした場合は、即時スタートをセットしたことになり、インターバルタイマーをセットした直後に撮影が開始されます（「時」、「分」をセットすることはできません）。
- 撮影開始日時は、設定終了時以降の最大1カ月の間に存在する日付、時分のみセットできます。

  例：1月7日に撮影開始日時を6日にセットすると、2月6日が撮影開始日になります。
  　　また、1月7日16時00分に7日15時00分とセットすると、2月7日15時00分が撮影開始日時になります。

■インターバルタイマー撮影例

- 下記の設定例で、下図のようにインターバルタイマー撮影が行われます。
  - ・撮影開始日時　：17日16時00分
  - ・撮影間隔　：1時間30分00秒
  - ・繰り返し回数　：5回
  - ・1回の撮影コマ数　：3コマ

※：撮影開始日時を「--」にセットした場合は、作動開始と同時に1回目の撮影が開始されます。

■インターバルタイマーの設定方法

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

- 必ず日時の設定（P.127）を行ってからインターバルタイマーの設定を行ってください。

2「撮影メニュー」の「インターバルタイマー」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「撮影メニュー」を選択し、▶を押すと、「撮影メニュー」が表示されます。
- ▼または▲で「インターバルタイマー」を選択し、▶を押すと、「インターバルタイマー」の撮影開始日時・撮影間隔設定画面が表示され、現在日時が画面内の下部に表示されます。

3 撮影開始日時と撮影間隔をセットします。

- 撮影開始日時をセットします。反転表示されている、「日」を▼または▲でセットします。
- ▶を押して「時」、「分」を順次反転表示させ、それぞれ▼または▲でセットし、▶を押します。
- 撮影間隔をセットします。反転表示されている、「時」を▼または▲でセットします。
- ▶を押して「分」、「秒」を順次反転表示させ、それぞれ▼または▲でセットし、▶を押すと、繰り返し回数と1回の撮影コマ数の設定画面が表示されます。

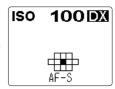
4 繰り返し回数と1回の撮影コマ数をセットします。

- 繰り返し回数をセットします。反転表示されている、「回数」を▼または▲でセットし、▶を押します。

- 1回の撮影コマ数をセットします。反転表示されている、「コマ数」を▼または▲でセットし、▶を押します。

5 撮影開始をセットします。

- 撮影開始をセットします。▼または▲で「する」を選択し、▶を押すと、セットが完了し、インターバルタイマーが作動します。背面表示パネルには「インターバルタイマー撮影中」画面が表示され、撮影開始日時（次回撮影）、繰り返し回数、1回の撮影コマ数が表示されます。
- 「しない」を選択し、▶を押すと、インターバルタイマーはセットされずに撮影メニュー画面に戻ります。

6 撮影が行われます。

- 背面表示パネルで撮影開始10秒前からカウントダウンが開始され、撮影中はシャッターがきられるごとに1回の撮影コマ数が減算表示されます。1回の撮影が終了すると、次回撮影開始日時が表示され、繰り返し回数は残りの回数を表示します。また1回の撮影コマ数はセットしたコマ数に戻ります。以後、同様の撮影を残りの繰り返し回数分行い、全て終了するとインターバルタイマー撮影が解除され、通常の状態に戻ります。
- インターバルタイマー撮影中に、電源スイッチのOFF、ツーボタンリセット（P.153）またはインターバルタイマーの設定値の変更を行うと、インターバルタイマーは解除されます。

インターバルタイマー撮影中のカメラの状態・制御

- 撮影間隔が長くなると、途中で半押しタイマーがOFFになり、背面表示パネルの現在日時が消灯しますが、撮影開始30秒前に半押しタイマーONになり、現在日時が再点灯します。また、オートフォーカス時は、撮影開始2秒前からピント合わせを行います。
- INFOボタンを押すと背面表示パネルが撮影情報画面に切り換わりますので、カメラの設定状態が確認できます。
- インターバルタイマー撮影中でも、そのまま通常の撮影が可能です。インターバルタイマーは継続し、セットした繰り返し回数および1回の撮影コマ数は変わりません。
- 各回の撮影で、フォーカスモードがS（シングルAFサーボ）の場合にピントが合わなかった時は、その回のインターバル撮影はキャンセルされますが、次のインターバル撮影は行われます。
- インターバル撮影をセットした状態で、フィルムの巻き戻しを行うと、インターバル撮影は解除されます。
- 撮影間隔はセットまたは制御されるシャッタースピードにかかわらず設定できますが、露光中に次の撮影開始日時に達した場合は、現在の撮影を優先して続行します（重なった回のインターバル撮影はキャンセルされますが、次のインターバル撮影は行われます）。
- シャッタースピードが bulb にセットされている時は、約1/10秒でシャッターがきれます。

インターバルタイマーとその他の機能

- ミラーアップ撮影と併用する場合、1回の撮影毎にミラーアップしてから約0.4秒後に露光を行います（P.86）。
- 給送モードがS（1コマ巻き上げ）およびミラーアップモード時に、1回の撮影コマ数を2コマ以上にセットした場合、給送モードはCL（低速連続巻き上げ）として制御されます。
- オートブラケティング（P.77）と併用する場合、インターバルタイマーの1回の撮影コマ数が、自動的にブラケティングの撮影コマ数と同じコマ数にセットされます。また、インターバルタイマー撮影中にオートブラケティングがセットされた場合はブラケティングの撮影コマ数と同じコマ数に変更されます（その後ブラケティングを解除するとコマ数は元に戻ります）。
- 多重露出撮影（P.143）と併用することも可能です。

  例：多重露出の回数が3回でインターバルタイマーの1回の撮影コマ数が2コマの場合、1回目の撮影で2回多重露出を行います（フィルムは給送されません）。次のインターバル撮影時に3回目の多重露出を行いフィルムを給送して多重露出撮影が解除され、インターバル撮影の2コマ目を撮影します。以後、通常のインターバルタイマー撮影となります。

写し込み併用時のご注意

- 画面内写し込み（P.130）、およびコマ間写し込み（P.134）を併用する場合、写し込みに使用する液晶の応答時間を確保するため、0℃未満の低温時には、撮影間隔を2秒以上にセットしてください。また、オートブラケティング（P.77）も併用すると、0℃未満の低温時には、写し込みが正しく行われない場合があります。

レンズ情報

非CPUレンズを使用する場合、レンズの焦点距離と開放絞り値を設定することにより、下記のとおり、CPUレンズ装着時のみ使用可能な機能の一部が使用できます。

使用可能になる機能

- **焦点距離を設定して使用できる機能**
  スピードライトのオートパワーズーム(設定した焦点距離に応じて照射角がセットされます)
- **開放絞り値を設定して使用できる機能**
  絞り値の表示、スピードライトの絞り連動外部自動調光(P.161)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能**
  RGBマルチパターン測光(P.64)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して精度が向上する機能**
  中央部重点測光(P.65)、スポット測光(P.65)、スピードライトのi-TTL-BL調光※(P.156)、マルチBL調光※(P.160)

  ※:測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

設定できる焦点距離と開放絞り値

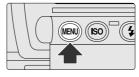
- **焦点距離:**
  6、8、13、15、16、18、20、24、25、28、35、43、45、50、55、58、70、80、85、86、100、105、135、180、200、300、360、400、500、600、800、1000、1200、1400、1600、2000、2400、2800、3200、4000mm
- **開放絞り値:**
  f/1.2、1.4、1.8、2、2.5、2.8、3.3、3.5、4、4.5、5、5.6、6.3、7.1、8、9.5、11、13、15、16、19、22

レンズ情報を設定可能な非CPUレンズについて

- AI方式レンズを使用する場合に設定可能です。AI方式以外のレンズを使用する場合は、レンズ情報を設定しても正常に機能しません。AI方式以外のレンズを使用する場合は、焦点距離と開放絞り値を設定していないレンズNO.をセットして、撮影してください。

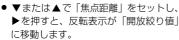
一致する焦点距離が設定できない場合

- ズームレンズやテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が設定できない場合は、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値をセットしてください。
  ・この場合にスピードライトを使用する時は、マニュアルでスピードライトの照射角をセットしてください。

ズームレンズ装着時のズーミングについて

- ズームレンズを装着してズーミングを行うと、レンズの焦点距離や絞りが変化しますが、カメラに設定したレンズ情報はズーミングに連動しません。ズーミングを行った場合はその都度レンズ情報の設定を行ってください。

■レンズ情報の設定方法

1 電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させます。

2「レンズ情報」の「レンズ情報修正」を表示させます。

- マルチセレクターの▼または▲で「レンズ情報」を選択し、▶を押すと、レンズ情報画面が表示されます。
- レンズ情報ではレンズNo.として10種類設定することができます。0～9の中から設定したい番号を▼または▲で選択し、INFOボタンを押すと、「レンズ情報修正」が表示されます。また、INFOボタンを押さずに▶を押すと、そのレンズNo.がセットされ、メニュー画面に戻ります。

3 レンズ情報を設定します。

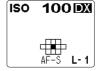
- ▼または▲で「焦点距離」をセットし、▶を押すと、反転表示が「開放絞り値」に移動します。
- ▼または▲で「開放絞り値」をセットし、▶を押すとセットした値がレンズNo.に記憶されるとともに、そのレンズNo.がセットされ、メニュー画面に戻ります。

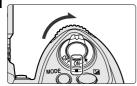
4 設定を終了します。

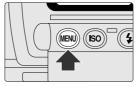
- ◀を押して1画面ずつ戻るか、MENUボタンを2回押すと、撮影情報表示に戻ります。
- セットされたレンズNo.は背面表示パネルに**「L-1（例：レンズNo.1の場合)」**のように表示されます（CPUレンズ装着時は表示されません)。ただし、焦点距離またはレンズの開放絞り値のどちらか片方しか設定されていない場合は表示されません。

■ボタンとダイヤル操作によるレンズNo.の設定方法

レンズ情報で設定したレンズNo.（焦点距離と開放絞り値の組み合わせ）を、メニュー画面を表示させずに、ファンクションボタンとメインコマンドダイヤルの操作で設定することができます。

1 カスタムメニューの「f3：ファンクション釦機能」（P.110）を「FVロック」および「レンズ情報設定」にセットします。

- P.90の「メニューの設定方法」を参考にして、カスタムメニューの **「f3：ファンクション釦機能」** を **「FVロック」** および **「レンズ情報設定」** にセットしてください。
  - ・「レンズ情報設定」は単独で選択することはできません。「レンズ情報設定」を選択する場合は「FVロック」とともに選択されます。

2 ファンクションボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルでレンズNo.（0〜9）をセットします。

- ファンクションボタンを押すと背面表示パネルにレンズ情報画面が表示されますので、表示されるレンズの焦点距離と開放絞り値を確認しながらレンズNo.をセットしてください。
- セットされたレンズNo.は背面表示パネル（撮影情報表示時）に **「L-1（例：レンズNo.1の場合）」** のように表示されます（CPUレンズ装着時は表示されません）。ただし、焦点距離またはレンズの開放絞り値のどちらか片方しか設定されていない場合は表示されません。
- スピードライトSB-800・600・400装着時は、「FVロック」（P.157）が優先されますので、スピードライトの電源をOFFにしてレンズNo.のセットを行ってください。

メニューガイド

言語の設定

メニュー操作や撮影機能の設定のために、表示言語の設定を行います。

■表示言語の設定方法

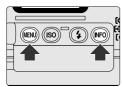
1 **電源スイッチをONにし、MENUボタンを押してメニュー画面を表示させせます。**

2 **「言語（Language)」を表示させせます。**

- マルチセレクターの▼または▲で「言語（Language)」を選択し、▶を押すと言語の選択画面が表示されます。

3 **言語を選択します。**

- ▼または▲で「English」を選択し、▶を押すと表示言語が英語に設定され、メニュー画面に戻ります。

日本語以外の表示言語について

- 日本語以外に以下の言語を設定できます。
  - **Deutsch　：ドイツ語**
  - **English　：英語**
  - **Español　：スペイン語**
  - **Français　：フランス語**
  - **中文（簡体）：中国語（簡体）**

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。

MENUボタンと、INFOボタンを同時に2秒以上押し続けると、背面表示パネルに「初期状態復帰」と表示されます。

- 背面表示パネルに「初期状態復帰」と表示されるとツーボタンリセットが完了します。各機能の働き・セット状態は次のようになります。

機能	状態
露出モード	P（プログラムオート）
プログラムシフト	解除
フォーカスエリア	中央（グループダイナミックAFモード時は中央のフォーカスエリアグループ）
シンクロモード	先幕シンクロ
露出補正	解除
オートブラケティング	解除※1
AEロック	解除
シャッタースピードロック	解除
絞りロック	解除
写し込み	解除
多重露出撮影	解除
インターバルタイマー撮影	解除※2

※1：設定値も初期状態になります。「補正ステップ：1/3段ステップ」、「撮影コマ数：0コマ」になります。また、カスタムメニュー**「e8：BKT設定方法」**（P.108）を**「組み合わせで選択」**にセットした場合は、「補正ステップ：1/3段ステップ」、「撮影コマ数：両側3コマ」、「撮影：OFF」になります。

※2：設定値も初期状態になります。「撮影開始日時：- -」、「撮影間隔：1秒」、「繰り返し回数：1回」、「1回の撮影コマ数：1コマ」になります。

撮影メニュー以外の各メニューで設定した項目について

- ツーボタンリセットを行っても、「カスタムメニュー」、「セットアップメニュー」、「レンズ情報」、「言語（Language）」で設定した各項目は、設定された状態が保持されます。
- カスタムメニューの設定内容を初期設定に戻す場合は、カスタムメニュー**「R：カスタムリセット」**（P.94）でカスタムリセットを行ってください。

露出補正量および調光補正量の記憶と写し込みについて

露出補正量および調光補正量として記憶される（P.116）、または写し込まれる（P.134）補正量は、露出補正、調光補正、ブラケティングの組み合わせによって下表のようになります。

- 表中のA、B、Cは以下の補正量を表します。
  A：露出補正でセットした補正量（カメラで設定）
  B：調光補正でセットした補正量（スピードライトで設定）
  C：ブラケティングでセットした補正量（カメラで設定）

補正の組み合わせ	露出補正量※1	調光補正量※2
補正なし	0※3	0※3
露出補正	A	A
調光補正	0※3	B
AE・SBブラケティング	C	C
AEブラケティング	C	0※3
SBブラケティング	0※3	C
露出補正＋調光補正	A	A+B
露出補正＋AE・SBブラケティング	A+C	A+C
露出補正＋AEブラケティング	A+C	A
露出補正＋SBブラケティング	A	A+C
露出補正＋調光補正＋AE・SBブラケティング	A+C	A+B+C
露出補正＋調光補正＋AEブラケティング	A+C	A+B
露出補正＋調光補正＋SBブラケティング	A	A+B+C

- 露出モードが M（マニュアル）の時にカスタムメニュー**「e6：BKT変化要素」**（P.108）を**「SB」**にセットしてオートブラケティング撮影（P.77）を行うと、露出補正量および調光補正量として記憶される、または写し込まれる補正量は、露出補正、調光補正、ブラケティングの組み合わせによって下表のようになります（表中のA、B、Cは上表と同じ）。

補正の組み合わせ	露出補正量※1	調光補正量※2
AE・SBブラケティング	0※3	C
AEブラケティング	0※3	0※3
SBブラケティング	0※3	C
露出補正＋AE・SBブラケティング	A	A+C
露出補正＋AEブラケティング	A	A
露出補正＋SBブラケティング	A	A+C
露出補正＋調光補正＋AE・SBブラケティング	A	A+B+C
露出補正＋調光補正＋AEブラケティング	A	A+B
露出補正＋調光補正＋SBブラケティング	A	A+B+C

※1：露出モードが M（マニュアル）の時に露出補正量を写し込むと、適正露出からの露出オーバー量または露出アンダー量が写し込まれます。
※2：スピードライトの電源がOFFの場合は「0」が記憶されますが、写し込みの場合は何も写し込まれません。
※3：写し込みの場合は「0.0」が写し込まれます。

スピードライト撮影

ニコンクリエイティブライティングシステム機能を搭載した別売スピードライトと組み合わせて使用すると、多彩なスピードライト撮影が行えます。

ニコンクリエイティブライティングシステム

アクセサリーシューに別売スピードライトを装着すると、スピードライト撮影が可能になります。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたい時、人物の目にキャッチライトを入れたい時などに、補助光としても使用できます。

ニコンクリエイティブライティングシステムでのスピードライト撮影

このカメラはニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）に対応しており、ニコンクリエイティブライティングシステム対応の別売スピードライトSB-800・600などとの組み合わせにより多彩なスピードライト撮影が行えます。ニコンクリエイティブライティングシステムでは「i-TTLモード」、「FVロック」、「オートFPハイスピードシンクロ」、「マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）」などの専用機能が使用できます。また、SB-800を主灯、またはワイヤレススピードライトコマンダーSU-800をコマンダーとして、複数の補助灯（SB-800・600・R200）を発光制御する、「アドバンストワイヤレスライティング」によるワイヤレス増灯撮影が可能になります。

■i-TTLモード

モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）です。i-TTL-BL調光などのスピードライト撮影が可能です。i-TTLモード時は、次のようなスピードライト撮影が行えます。

［i-TTL-BL調光］

マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、スピードライトがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーまたは1005分割RGBセンサーが瞬時にモニターし、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。

- Gタイプまたはタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味した最適な発光量を決定します。
- 非CPUレンズ装着時は、「レンズ情報」でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定すると、より精度が向上します（P.149）。
- スポット測光時は自動的にスタンダードTTL調光となりますので、カメラの測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

［スタンダードTTL調光］

背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う時に適しています。

- 測光モードをスポット測光にセットすると、自動的にスタンダードTTL調光になります。
- 通常はモニター発光を行いませんが、オートFPハイスピードシンクロ時やFVロック時にはモニター発光を行う、スタンダードi-TTL調光になります。
- 背景光が極端に明るい時は、発光しない場合があります。

■アドバンストワイヤレスライティング

SB-800を主灯、またはワイヤレススピードライトコマンダーSU-800をコマンダーとして、複数の補助灯（SB-800・600・R200）を発光制御する、ワイヤレス増灯撮影を行うことにより、被写体の影を消して自然な配光にしたり、被写体以外の部分に光を当てるなどの効果を出すことができます。

- カメラと複数のスピードライトを接続するための増灯コードが不要です。
- ワイヤレス増灯時にもi-TTLモードによる自動調光が可能です。また、絞り連動外部自動調光、外部自動調光、マニュアル発光、リピーティング発光も設定可能です。
- カメラに装着したSB-800（主灯）、またはワイヤレススピードライトコマンダーSU-800（コマンダー）が、カメラから離した複数のSB-800・600・R200（補助灯）を最大3グループ（A、B、C）まで分けてグループごとにワイヤレスで発光を制御します。
- グループごとに調光補正量（±3EV）や、異なる発光モード（i-TTL、絞り連動外部自動調光、外部自動調光、マニュアル発光）をセットすることも可能です。また、主灯の本発光をOFFに設定し、補助灯のみでワイヤレス増灯撮影を行うことも可能です。
- 詳細はSB-800・600・R200、SU-800の使用説明書をご覧ください。

モデリング発光について

- SB-800・600装着時には、カメラのプレビューボタンを押すとモデリング発光が行われます。アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認することができます。
  - ・プレビューボタンを押した時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー**「e4：モデリング発光」**を**「OFF」**にセットしてください（P.107）。

■FVロック

FVロックを行うと、構図を変えてもフラッシュ露光量がロックされるため、被写体の明るさを一定に保つ撮影が可能です。

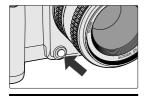
- i-TTLモード時および絞り連動外部自動調光時のみ使用可能です。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時や、オートFPハイスピードシンクロ時でも機能します。
  - ・アドバンストワイヤレスライティングの場合、主灯の発光モードが外部自動調光でもFVロックが可能になります。
- FVロック中にズーミングや絞り値の変更を行っても、発光量は自動追随するのでフラッシュ露光量（明るさ）は変わりません。
- FVロックの使用方法は次ページをご覧ください。

■FVロックの使用方法

1 **カスタムメニュー「f3：ファンクション釦機能」で、「FVロック」（初期設定）または「FVロック／レンズ情報設定」に設定します（P.110）。**

2 **SB-800、SB-600またはSB-400を装着して電源をONにし、発光モードをTTLモードまたはAA（SB-800のみ）にセットします（詳細はSB-800・600・400の使用説明書をご覧ください）。**

- SB-400装着時は、電源をONにするだけでTTLモードにセットされます。
- アドバンストワイヤレスライティングの場合、主灯の発光モードを外部自動調光にセットすることも可能です。

3 **露光量を合わせたい被写体が画面の中心になるようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。**

4 **カメラのファンクションボタンを押します。**

- スピードライトがモニター発光を行い、露光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にFVロックマーク ⚡L が表示されます。

5 **撮影したい構図にしてシャッターをきります。**

- FVロック中は、被写体の露光量を一定にしたまま複数コマを撮影することができます。必要に応じて手順5を繰り返してください。
- FVロックを解除する場合は、カメラのファンクションボタンを再度押してください（ファインダー内表示のFVロックマーク ⚡L が消灯します）。また、下記の場合にもFVロックが解除されます。
  - ・半押しタイマーOFF
  - ・フィルムの巻き戻し
  - ・レンズの取り外し
  - ・スピードライトの電源OFF
  - ・i-TTLモード以外の発光モードへの変更
  - ・フラッシュヘッドの角度変更
  - ・スピードライト側操作によるモデリング発光
  - ・測光モードの切り換え（マルチパターン測光と中央部重点測光との間の切り換え以外の場合）
  - ・カスタムメニュー**「f3：ファンクション釦機能」**を、**「FVロック」**および**「FVロック／レンズ情報設定」**以外にセット

FVロック時の測光領域について

- FVロック時の測光領域は以下のようになります。

撮影状態	発光モード	測光領域
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ6mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光領域
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光領域
	外部自動調光（主灯）	

■オートFPハイスピードシンクロ

シャッタースピードが1/250秒以上の高速になった場合、自動的にFP発光に切り換わります。1/8000秒までの全てのシャッタースピードでスピードライト撮影が可能です。日中の撮影でも、同調シャッタースピードを気にすることなく、レンズの絞りを開いて背景をボカした撮影が行えます。

- オートFPハイスピードシンクロを使用するには、カスタムメニュー「**e1：同調速度変更**」を「**1/250FP**」に設定する必要があります（P.106）。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時でも機能します。
- 使用できる発光モードは、1灯での使用時はi-TTLモード、絞り連動外部自動調光、距離優先マニュアル発光、マニュアル発光です。また、増灯時はi-TTLモード、絞り連動外部自動調光、外部自動調光、マニュアル発光が使用できます。

■マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）

SB-800・600、SU-800のアクティブ補助光（AF補助光）は、このカメラの11カ所のフォーカスエリア全てに対応しています。夜間でも被写体の位置を気にせずにオートフォーカスによるピント合わせが行えます。

- 全てのAFエリアモード（シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード、グループダイナミックAFモード、至近優先ダイナミックAFモード）で使用可能です。
- 焦点距離24〜105mmのAFレンズを装着し、フォーカスモードを**S**（シングルAFサーボ）にセットして撮影を行う場合、被写体が暗い時には自動的にアクティブ補助光（AF補助光）を照射します。
- 焦点距離35mmより広角のAFレンズ装着時に左端、右端のフォーカスエリアを選択している場合は、アクティブ補助光（AF補助光）は照射されません。

CLS非対応スピードライトのTTLモードによる撮影

別売スピードライト（SB-800・600・400以外）をカメラに装着し、スピードライトをTTLモードにセットすると次のような撮影が行えます。

■マルチエリアBL調光

1005分割RGBセンサー測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。特にモニター発光を行うスピードライト（SB-80DX・50DX・28/28DX・27・26・25）使用時は、シャッターボタンを押すとスピードライトが本発光直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターして、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な調光レベルを決定します。

- モニター発光が可能なスピードライトとGタイプまたはDタイプレンズを組み合わせると、距離情報も加味され、より精度の高い**3D-マルチBL調光**になります。
- モニター発光が行われないスピードライト使用時や、GタイプおよびDタイプ以外のレンズ装着時は、モニター発光による情報や距離情報が省略された**マルチBL調光**になります。
- 非CPUレンズ装着時は、「レンズ情報」でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定すると、より精度が向上します（P.149）。
- スポット測光時は自動的にスタンダードTTL調光となりますので、カメラの測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

■スタンダードTTL調光

スピードライトSB-80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24使用時はスピードライト側で設定可能です。その他のTTLスピードライトではカメラの露出モードを M（マニュアル）にセットした時に自動的に行われる調光モードです。背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う時に適しています。

- 測光モードをスポット測光にセットすると、自動的にスタンダードTTL調光になります。

TTLモード以外の発光モード

TTLモード以外に、外部自動調光やマニュアル発光などの発光モードがあります。発光モードは、CLS対応、CLS非対応ともに、使用するスピードライトによって異なりますので、使用するスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■絞り連動外部自動調光（AA）

スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライト自身が測光し、カメラから伝達されるフィルム感度・絞り値・焦点距離・露出補正量などの情報を加えて、スピードライトが発光量を制御します。

- 使用するスピードライトがSB-80DX・28DXの場合は、カスタムメニュー**「e3：SB絞り連動」**（P.107）を**「ON」**にセットしてください。SB-800の場合は、この設定にかかわらず、スピードライト側の設定が優先されます。

■外部自動調光（A）

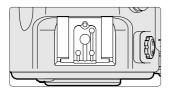
スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライト自身が測光し、適正な露出となるようにスピードライトが発光量を制御します。カメラの絞りを変えることで、露出補正（P.76）が簡単に行えます。

- 使用するスピードライトがSB-80DX・28DXの場合は、カスタムメニュー**「e3：SB絞り連動」**（P.107）を**「OFF」**にセットしてください。SB-800の場合は、この設定にかかわらず、スピードライト側の設定が優先されます。
- 手動でスピードライトに絞りをセットする必要があります。

■距離優先マニュアル発光（GN）

撮影距離、絞り値およびフィルム感度が決まれば、発光量はスピードライトが自動的にセットするマニュアル発光です。CPUレンズ装着時には、撮影距離を入力すれば、絞りを変化させても一定の露光量でのスピードライト撮影が行えます。

■マニュアル発光（M）

任意の絞りと発光量の組み合わせで露出や撮影距離をコントロールできるので、自動調光モードでは難しいスピードライト撮影にも対応できます。発光量はM1/1（フル発光）からM1/128の微少発光まで、撮影意図に合わせてセットできます（発光量は使用するスピードライトにより異なります）。

■リピーティング発光（RPT）

リピーティング発光では、シャッターが開いている間、スピードライトが連続発光するため、1コマの画面内に被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込めます。

- 手動でスピードライトに発光量、発光間隔、発光回数をセットします。

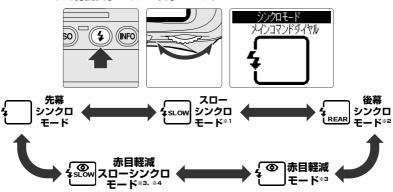
アクセサリーシュー／シンクロターミナル／レディーライト

■アクセサリーシュー

- スピードライトSB-800・600・400・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・25・24・23・22sなどを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。このカメラのアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800・600・400・80DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・25・22s）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

■シンクロターミナル

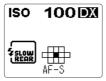
- シンクロコードを必要とするスピードライト使用時には、シンクロコードをシンクロターミナル（ISO 519外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-800・600・400・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24などをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。

■レディーライト

- スピードライトSB-800・600・400・80DX・50DX・30・29s/29・28/28DX・27・26・25・24・23・22sなどを使用している場合に、充電が完了して撮影が可能な状態になると、ファインダー内のレディーライト ϟ が点灯して知らせます。
- スピードライトがTTL、絞り連動外部自動調光、外部自動調光にセットされている時、シャッターをきった後レディーライト ϟ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

■シンクロモードの設定

シンクロモードはシンクロモードボタンとメインコマンドダイヤルでセットします。シンクロモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するシンクロモードを背面表示パネルに表示させせます。

※1： 露出モードが S または M の場合、自動的に「先幕シンクロモード」で制御されます。

※2： 露出モードが P または A の場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされます。セット後、背面表示パネルに下のイラストのように表示されます。

ノーマル表示時

※3： スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、シンクロモード表示が反転表示になります。

※4： 露出モードが S または M の場合、自動的に「赤目軽減モード」で制御されます。

スタジオ用大型ストロボ使用時について

- スタジオ用大型ストロボ使用時に後幕シンクロモードをセットすると、正しい同調が行えません。

■シンクロモードの種類と特長

セットできるシンクロモードは次のとおりです。

：先幕シンクロモード

通常のスピードライト撮影時にはこのモードにセットします（SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。

SLOW：スローシンクロモード

露出モードを P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/60秒～1/250秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/60秒～1/8000秒）に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで自動制御され、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

REAR：後幕シンクロモード

動く被写体をスピードライト撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます（SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします）。露出モードを P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。

：赤目軽減モード

スピードライトが発光する前に赤目軽減発光を行い、暗い所で人物の目が赤く写る現象を軽減することができます（SB-800・600・400・80DX・28/28DX・27・26・25使用時のみ）。

SLOW：赤目軽減スローシンクロモード

赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてください（SB-800・600・400・80DX・28/28DX・27・26・25使用時のみ）。

各シンクロモードのご注意

- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモード時には、シャッターボタンを押し込んでから赤目軽減発光を行った後にシャッターがきれてスピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 赤目軽減スローシンクロモードとスローシンクロモード時にはシャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

使用可能なスピードライトについて

組み合わせる別売スピードライトによって、使用できるスピードライト撮影機能が異なります。

装着レンズ欄の ① ② ③ は、それぞれ下記のレンズを示します。

①：GタイプまたはDタイプレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）

②：GタイプおよびDタイプ以外のCPUレンズ、「レンズ情報」でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定した非CPUレンズ（P.149）

③：非CPUレンズ

■ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトの場合

スピードライト	SB-800（カメラ装着時）			SB-800（補助灯時※1）			SB-600（カメラ装着時）			SB-600（補助灯時※1）			SB-400（カメラ装着のみ）		
機能 ＼ 装着レンズ	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
i-TTL-BL調光※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スタンダードTTL調光※3	○	○	○				○	○	○				○	○	○
絞り連動外部自動調光	○	○		○	○										
外部自動調光	○	○	○			○									
距離優先マニュアル発光	○	○	○												
マニュアル発光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
オートFPハイスピードシンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）	○	○※4					○	○※4							
リピーティング発光	○	○	○	○	○	○				○	○	○			
後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤目軽減発光	○	○	○				○	○	○				○	○	○

※1： アドバンストワイヤレスライティングの場合です。

※2： 測光モードをスポット測光以外にセットしてください。

※3： スポット測光ではスタンダードTTL調光となります。

※4： AFレンズ装着時のみ可能になります。

■ニコンクリエイティブライティングシステム非対応スピードライトの場合

スピードライト	装着レンズ	TTL			A	M		⚡	REAR	👁
		3D-マルチBL調光	マルチBL調光	スタンダードTTL調光 ※1	外部自動調光 ※2	マニュアル	FP発光	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-80DX SB-28/28DX	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②③		○	○	○	○	○	○	○	○
SB-50DX	①	○		○		○			○	
	②③		○	○		○			○	
SB-27	①	○		○	○	○			○	○
	②③		○	○	○	○			○	○
SB-26 ※3	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②③		○	○	○	○	○	○	○	○
SB-25	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②③		○	○	○	○	○	○	○	○
SB-24	①②③		○	○	○	○		○	○	
SB-29s/29 ※4 SB-23 SB-21B ※4	①②③		○	○		○			○	
SB-30、SB-22s SB-22、SB-20 SB-16B、SB-15	①②③		○	○	○	○			○	
SB-11 ※5 SB-14 ※5 SB-140 ※5、※6	①②③		○	○	○	○			○	

※1：スポット測光ではスタンダードTTL調光となります。また、SB-80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24以外のTTL調光が可能なスピードライトで露出モードを M（マニュアル）にセットすると、スタンダードTTL調光となります。

※2：SB-80DX・28DX使用時に、①②のレンズを装着した場合、絞り連動外部自動調光が可能になります。カスタムメニュー**「e3：SB絞り連動」**を**「ON」**にセットしてください（P.107）。

※3：ワイヤレススレーブセレクターをDにセットした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/200秒より低速側に切り換わります。

※4：SB-29s/29・SB-21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70-180mm）レンズ装着時のみ可能です。

※5：SB-11・14・140を使用して、TTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードSC-23が必要です。**A**モード、または**M**モードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用し、SB-140にはSC-13にSU-3を併用して、それぞれ接続します。SB-11・14・140とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内のレディーライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

※6：SB-140使用時の紫外線および赤外線撮影は、SB-140が**M**モード時のみ可能です。

他社製のフラッシュについて

- 他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

別売スピードライト使用時の注意

- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  - ・ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応の別売スピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、CLS対応グループカメラに該当する箇所をお読みください。
  - ・CLS非対応のTTLモードが可能な別売スピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、Aグループカメラに該当する箇所をお読みください。
- SB-26・25・24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターのセットが優先され、カメラ側のシンクロモードのセットは無効になります。ただし、SB-26使用時にカメラのシンクロモードを赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードに設定した場合は、カメラ側の設定が優先されます。
- スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/250秒以下の低速シャッタースピードです（メディカルニッコール120mm F4をご使用の場合は、1/125秒以下に設定してください)。
- TTLモード時のフィルム感度連動範囲はISO 25～1000です。
- マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）以外のアクティブ補助光（AF補助光）を備えた別売スピードライト使用時は、フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）でAFレンズを装着し被写体が暗い場合でも、次の条件ではアクティブ補助光（AF補助光）が点灯しません。
  - ・シングルエリアAFモード、またはダイナミックAFモード時に、中央以外のフォーカスエリアが選択されている時
  - ・グループダイナミックAFモード時に、中央のフォーカスエリアを含まないグループが選択されている時
- 露出モードが *P*（プログラムオート）の時、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用するフィルム感度によって下表のように制御されます。

フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1000
開放側の限界絞り（F）	2.8	3.3	4	4.8	5.6	6.7	7.1

※：フィルム感度1段に対し、絞りは1/2段変化します。
また、フィルム感度が表の中間値の場合も、上下のフィルム感度から比例的に変化します。
なお、制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトの調光補正時はファインダー内に露出補正マーク ☒ が点灯しますが、補正値は表示されません。

スピードライトを使用した撮影方法

ここではカメラにSB-800・600・400とGタイプまたはDタイプレンズを装着して行う、i-TTL-BL調光による撮影の方法を説明します。

1 スピードライトを装着し、測光モードをセットします。

- スポット測光以外にセットしてください。

2 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

- 赤目軽減スローシンクロ撮影とスローシンクロモード撮影を行う場合、露出モードは P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）にセットしてください。
- 露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	
P（プログラムオート）	カメラが自動的に1/60秒～1/250秒にセット※1	カメラが自動的にセット	P.66
S（シャッター優先オート）	30秒～1/250秒※2、X		P.68
A（絞り優先オート）	カメラが自動的に1/60秒～1/250秒にセット※1	任意の絞り※3	P.70
M（マニュアル）	bulb、30秒～1/250秒※2、X		P.72

※1：スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。また、オートFPハイスピードシンクロ時は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

※2：オートFPハイスピードシンクロ時は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒までセット可能です。

※3：調光範囲は設定しているフィルム感度と絞り値によって決まります。A（絞り優先オート）および M（マニュアル）時の絞りのセットはスピードライトの調光範囲を考慮して行ってください。

- カメラはセットされたシャッタースピードを基準に背景光を測光しますので、露出モードが S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）の時は、適正露出範囲外を示す露出インジケーターの表示頻度が高くなります。背景光を生かしたスピードライト撮影を行うには、S（シャッター優先オート）、M（マニュアル）の場合、この表示が適正露出となるようにシャッタースピードをセットします。また、P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）の場合、シンクロモードをスローシンクロモードにセットしてください。

3 シンクロモードをセットします。

4 スピードライトの電源をONにし、発光モードをセットします。

- TTL-BLにセットしてください（SB-400装着時は電源をONにするだけで自動的ににセットされます）。

5 スピードライトの表示パネルを確認します（SB-400以外の場合）。

- 表示パネルにi-TTL-BL調光時の表示「TTL BL（SB-800の場合）」または「TTL BL（SB-600の場合）」が点灯していること確認します。表示が異なる場合はMODEボタンを押して点灯させてください。

6 構図を決め、ピントを合わせてファインダー内表示を確認します。

- シャッターボタンを半押しして、ピント表示 ● とレディーライト ϟ の点灯を確認します。

7 調光範囲（光の届く範囲）を確認して、撮影します。

- シャッターをきった後レディーライト ϟ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
- スピードライト撮影を行う際は、ご使用になるスピードライトの使用説明書も併せてお読みください。

CSMe1：オートFPハイスピードシンクロをセットしたり、スピードライト撮影時の高速側の同調シャッタースピードの限界を、1/60秒～1/250秒の中から選択できます（P.106）。

CSMe2：露出モードが P（プログラムオート）、A（絞り優先オート）時のスピードライト撮影時の低速側の同調シャッタースピードの限界を、30秒～1/60秒の中から選択できます（P.106）。

資料編

別売アクセサリー、カメラと電池の取り扱いについて、
仕様、索引などが書かれています。

別売アクセサリー

F6にはマルチパワーバッテリーパック、リチャージャブルバッテリー、スピードライトなど、様々なアクセサリーが用意されています。

■マルチパワーバッテリーパックMB-40

F6に装着すると、単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）8本または別売のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4（別売のバッテリー室カバーBL-3を併用）を使用してF6本体に電源を供給し、最高約8コマ/秒の高速連続撮影が可能になります。また、縦位置用のシャッターボタン、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、AF作動ボタン、マルチセレクター、マルチセレクターロックレバーを搭載しています。

■Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4

マルチパワーバッテリーパックMB-40に使用可能なLi-ionリチャージャブルバッテリーです。クイックチャージャーMH-21を使用して充電、キャリブレーションが行えます。別売のバッテリー室カバーBL-3を取り付けて使用します。

■クイックチャージャーMH-21

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4専用のチャージャーで、残量のないEN-EL4a/EN-EL4を約100分でフル充電可能。キャリブレーション機能も備えています。AC100～240V、周波数50～60ヘルツに対応しています。

※：日本国内専用電源コード（AC100V対応）付属。日本国外で使用する場合は、別売の電源コードが必要です。

■データリーダーMV-1

カメラに記憶した撮影データ（P.114）をCFカードに保存することができます（CFカード付属)。保存した撮影データはパソコンへ転送して活用することができます。

※：パソコンへ転送する場合、別売のPCカードアダプターEC-AD1や市販のPCカードアダプターまたはCFカードリーダーなどが必要になります。

■アンティフォグ ファインダーアイピースDK-17A

寒い時や湿度が高い時など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアーなファインダー像を提供します。また、DK-17Aは脱落防止機能に対応しています。

■接眼補助レンズ／接眼補助レンズDK-17C

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部にねじ込むだけで簡単に取り換えができます。F6には、視度調節機構が内蔵されております（−2～＋1m⁻¹）ので、この範囲を超える視度補正が必要な時にご使用ください。−3、−2、0、＋1、＋2m⁻¹の5種類が用意されています（いずれもF6の視度調節ノブが調節範囲の中央［−1m⁻¹］の時の値）。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。また、DK-17Cは脱落防止機能に対応しています。

■マグニファイングアイピースDK-17M

カメラのファインダー接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を1.2倍拡大することができます。また、DK-17Mは脱落防止機能に対応しています。

■接眼目当てDK-19

接眼窓に取り付けて使用するゴム製の目当てで、撮影にあたってファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。DK-17（標準装備）、DK-17A、DK-17C、DK-17Mの脱落防止機能に対応しています。

■変倍アングルファインダーDR-5

アダプターリング（DR-5に付属）を併用して変倍アングルファインダーDR-5を装着可能。垂直方向からファインダー像を見ることができます。しかも、倍率を1倍（等倍）、2倍※に切り換えることができ、厳密なピントの確認が容易に行えます。

※：2倍では周辺部にケラレが生じます。

■マグニファイヤーDG-2／アイピースアダプターDK-7

アイピースアダプターDK-7を併用してマグニファイヤーDG-2を装着すると、ファインダー中央部の像を拡大して見ることができます。接写や複写、超望遠レンズ使用時などに、厳密なピントの確認が容易に行えます。

■専用セミソフトケースCF-64

F6には専用ケースとして、CF-64が用意されています。AF-S VR ED24-120mm F3.5-5.6Gより小さいレンズを取り付けた状態で収納できます。

■ネックストラップ／ハンドストラップ

ネックストラップはあみひも製のAN-4Y、AN-4B、および幅の広いAN-6Y、AN-6Wがあります。色はAN-4Y、AN-6Yが黄色、AN-4Bが黒、AN-6Wがワインカラーです。
ハンドストラップAH-4はカメラのホールディングを確実、容易にして速写性を向上させます。

■ファインダースクリーン

ファインダースクリーン			特長
B型	マット式		F6に標準装備されているスクリーン。一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に適しています。
U型	望遠用マット式		B型と同じマット式ですが、200mm以上の望遠レンズを使用する場合は、B型よりもファインダー像が見やすくなります。なお、広角レンズなど焦点距離の短いレンズでは、周辺が暗くなりますので適しません。測光モードは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。
E型	方眼マット式		E型はB型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いると便利です。
M型	十字線透過式		顕微鏡写真およびベローズ使用の近接撮影に適します。透過式で暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることもできます。目をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったことになります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。
J型	マイクロ式		一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますが、ピントが合っていない場合はギザギザに見えます。F8より暗いレンズでは、マット面でピント合わせを行います。
A型	スプリット式		一般撮影に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用すると、正確なピント合わせが素早く行えます。スプリットには、F5.6までかげりなくピント合わせのできるブライトビュースプリットを採用しています。
L型	斜スプリット式		中央のスプリットプリズム部が約45° に傾斜していますので、カメラを傾けなくても、水平線のピント合わせが行えます。

M型に交換した場合について

- 測光不可となりカメラの露出計は使用できません。また、光学特性上、カスタムメニュー**「a5：フォーカスフレーム表示」**の**「MF時表示」**（P.97）を**「OFF」**にセットして、マニュアルフォーカスで撮影することをおすすめします。

■ニコンスピードライトSB-800

- ガイドナンバー38（照射角35mm時、ISO 100・m表示、20℃）の多機能、高性能スピードライト。
- 通常は単3形電池を4本（付属の増設電池パックSD-800装着時は5本）使用。外部電源（別売）としてSD-6、7、8A、パワーブラケットSK-6もご使用になれます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を搭載（24～105mm）。内蔵ワイドパネルの使用で14mm、17mmレンズの画角もカバーします。
- 画面内に極端に反射率の高いものがある時や背景が大きく抜けている場合でも、背景と主要被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現するi-TTL-BL調光が可能です。
- i-TTL-BL調光、スタンダードTTL調光、絞り連動外部自動調光（AA）、外部調光（A）、距離優先マニュアル発光、マニュアル発光、リピーティング発光の発光モードを備えています。
- ニコンクリエイティブライティングシステムに対応しており、アドバンストワイヤレスライティング、FVロック撮影、オートFPハイスピードシンクロ、モデリング発光などが行えます。
- F6の11カ所のフォーカスエリアに対応したマルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）を内蔵しています。
- 付属のバウンスアダプターSW-10Hを使用すると、ソフトなライティングが可能になります。

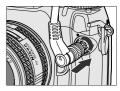
■ニコンスピードライトSB-600

- ガイドナンバー30（照射角35mm時、ISO 100・m表示、20℃）。
- 単3形電池4本で使用可能です。
- オートパワーズーム機能（24～85mm）を搭載。内蔵ワイドパネルの使用で14mmレンズの画角もカバーします。
- i-TTL-BL調光、スタンダードTTL調光、マニュアル発光、リピーティング発光（補助灯時のみ）の発光モードを備えています。
- ニコンクリエイティブライティングシステムに対応しており、アドバンストワイヤレスライティング（補助灯としてのみ使用可能）、FVロック撮影、オートFPハイスピードシンクロ、モデリング発光などが行えます。
- F6の11カ所のフォーカスエリアに対応したマルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）を内蔵しています。

■ニコンクローズアップスピードライトコマンダーキットR1C1

- ニコンクリエイティブライティングシステムに対応したクローズアップスピードライトシステムで、ワイヤレスで様々なクローズアップ撮影や増灯撮影を楽しむことができます。
- ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800（1台）、ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200（2台）にアタッチメントリングやカラーフィルター、ケースなどが付属されたキットです。

■10ピンターミナルに接続するアクセサリー

- 10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影、無人撮影などが行えます。
- 使用しない時は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
- 10ピンターミナルへの接続は、プラグをイラストのようにペンタプリズム側に傾け、指標を合わせて差し込み、リングを時計方向に回して固定します。
- 10ピンターミナルを使用する場合は、先にシンクロターミナル側のキャップを外してから、10ピンターミナル側のキャップを外すことをおすすめします。

名称	用途	長さ
延長コード MC-21	MC-22・23・25・30・36に併用可能な延長コードです。	約3m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能となります。	約1m
接続コード MC-23	F6を2台同時に作動させるための接続コードです。	約40cm
変換コード MC-25	2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。	約20cm
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい時や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影時に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80cm
リモートコード MC-36	カメラブレを避けたい時や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、設定時間間隔で撮影を行うインターバルタイマーの設定や、露光時間を指定した長時間露出が可能です。照明付きの表示パネルや、長時間露出（バルブ）撮影時にシャッターボタンをロックしたり、レリーズ中1秒ごとに電子音で知らせる機能を備えています。	約85cm
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作が行えます。また、あらかじめセットした撮影位置（送信機と受信機の間）に被写体が入ると自動的に撮影が行われるオートトリガー撮影も行えます。	–

フィルターについて

ニコンフィルターは、ねじ込み式、後部交換式、および組み込み式の3つの形式に大別できます。

- F6の場合は、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません。R60を使用する場合は+1段の露出補正をしてください。
- F6の測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できませんので円偏光フィルター（C-PLまたはC-PL Ⅱ）をご使用ください。
- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。
- 逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりする時は、場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。
- 露出倍数が1以外のフィルターを使用した場合には、マルチパターン測光の効果が得られないことがありますので、中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳細は、各フィルターの使用説明書をご覧ください。
- 市販の特殊フィルター等をご使用の場合、オートフォーカスやフォーカスエイド撮影が行えないことがありますのでご注意ください。

カメラと電池の取り扱いについて

■カメラの取り扱い

●カメラ本体をお手入れする際の注意

カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、乾いた柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。
まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルか点灯したり、黒く変色したりしますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズを手入れする際の注意

ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

●強いショックを与えないでください。

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●シャッター幕に触れないでください。

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

●風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。
・ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

●保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。

・保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。

・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。

・カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1ヵ月に一度を目安に電源を入れて数回シャッターをきってください。

■電池の取り扱い

●3V CR123A リチウム電池2本を使用してください。

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-40を使用すると単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）8本か、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4（別売のバッテリー室カバーBL-3を併用）が使用できます。

・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

●電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、⊕⊖を間違いのないよう正しく入れてください。

・付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。

・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●低温時には新しい電池を使用してください。

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。
低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。

・低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●電池を火の中に投入したり、ショートさせないでください。

電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

上面表示パネル、ファインダー内表示、背面表示パネルに警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき			原　因
上面表示パネル	ファインダー内	背面表示パネル	
FEE（点滅）	FEE（点滅）	FEE（点灯）	● Gタイプ以外のCPUレンズ使用時にレンズの絞りリングが最小絞りになっていません。
（電池マーク）（点灯）	（電池マーク）（点灯）		● 電池容量がわずかです。
（電池マーク）（点滅）	（電池マーク）（点滅）		● 電池が消耗しています。
		時計がリセットしました 日時を設定してください	● カメラの内蔵時計がリセットされました。
⊿F（点灯）	⊿F（点灯）	⊿F（点灯）	● 開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。
Err（点滅） E（点滅）	Err（点滅） E（点滅）	空送りエラー	● フィルムが正しく送られていません。
Err（点滅）	Err（点滅）	DX ERR	● フィルム感度を DX にセットした状態でDXマークがないフィルムが入っています。
E（点滅） ［半押しタイマーがOFFの間、点灯に変わります］	E（点滅） ［半押しタイマーがOFFの間、消灯します］	巻き戻し完了 ［半押しタイマーがOFFの間、消灯します］	● フィルム巻き戻し完了後、フィルムを取り出さずにおくと、半押しタイマーがONの間は、上面表示パネルおよびファインダー内表示にEが点滅し、背面表示パネルに「巻き戻し完了」と表示されます。
End（点滅）	End（点滅）	フィルム終了	● 撮影フィルムが終了しています。
0--（点滅） フィルムカウンター（点滅）	0--（点滅） フィルムカウンター（点滅）	巻き戻し中	● 電池容量の低下などで巻き戻し途中で停止しています。
	▶ ◀（点滅）		● オートフォーカスでピント合わせができません。

対処方法	
● レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.24
● 予備の電池を用意してください。	P.23
● 電池を交換してください。	P.23
● セットアップメニュー**「日時設定」**で、日時の設定を行ってください。	P.127
● レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	P.42 P.149
● フィルムを取り出して入れ直してください。	P.26
● DXマーク付フィルムに入れ換えるか、フィルム感度を手動でセットしてください。	P.27 P.46
● フィルムを取り出してください。	P.36
● R1ボタンとR2ボタンを同時に押してフィルムを巻き戻すか、巻き戻しクランクを使用して手動で巻き戻しを行ってください。	P.48 P.49
● 新品電池に交換するなどした後に再度巻き戻し操作を行うか、巻き戻しクランクを使用して手動で巻き戻しを行ってください。	P.48 P.49
● マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.63

こんなとき			原　因
上面表示パネル	ファインダー内	背面表示パネル	
HI（点灯）	HI（点灯）	HI（点灯）	● 被写体が明るすぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。
Lo（点灯）	Lo（点灯）	Lo（点灯）	● 被写体が暗すぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。
露出インジケーター（点滅）	露出インジケーター（点滅）		● ＋側の場合は被写体が明るすぎて、－側の場合は被写体が暗すぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。
buLb（点滅）	buLb（点滅）	buLb（点灯）	● 露出モードが S の時にシャッタースピードが buLb にセットされています。
P または S（点滅）	A（点灯）		● 非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で露出モードが P または S にセットされています。
250（点灯）［1/250秒より高速のシャッタースピードをセットした時］	250（点灯）［1/250秒より高速のシャッタースピードをセットした時］	250（点灯）［1/250秒より高速のシャッタースピードをセットした時］	● 露出モードを S または M にセットして、スピードライトを使用する場合に、シャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。
	⚡（点滅）		● 発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。
Err（点滅）	Err（点滅）	ERR（点灯）	● 撮影中に何らかの異常を検出しました。
FuL（点滅）	FuL（点滅）	撮影データ記憶容量不足 電源スイッチON→OFF	● 撮影データの記憶容量がいっぱいになっています。
		⚡（反転）	● 赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードがセットされ、赤目軽減発光が不可能なスピードライトが装着されています。

対処方法	
● 露出モードが P の時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（S、A の時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ● 露出モードが S の時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ● 露出モードが A の時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.67 P.69 P.71
● 露出モードが P の時はスピードライトを使用してください（S、A の時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ● 露出モードが S の時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ● 露出モードが A の時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.67 P.69 P.71
● ＋側の場合はND（光量調節用）フィルターを使用してください。－側の場合はスピードライトを使用してください。	P.69 P.71 P.73
● シャッタースピードを bulb 以外にセットするか、露出モードを M にセットしてください。	P.68 P.72
● 非CPUレンズが装着されている場合は、露出モードを A または M にセットしてください。	P.67 P.69 P.70 P.72
● シャッタースピードは自動的に1/250秒に切り換わりますので、そのまま撮影してください。 ● SB-800・600使用時は、カスタムメニュー **「e1：同調速度変更」** を **「1/250FP」** にセットして、セットしたシャッタースピードのまま、オートFPハイスピードシンクロ撮影が行えます。	P.106 P.168
● 撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.162 P.169
● 再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービスセンターにご相談ください。再度シャッターボタンを押して警告表示を解除した時に、フィルムが1コマ送られる場合がありますが、フィルムカウンターは変わりません。ただし、画面内、コマ間、いずれかの写し込み項目としてアップカウント数値がセットされている場合、アップカウント数値はカウントされます。	P.185
● いったん電源スイッチをOFFにし、再度電源スイッチをONにしてください。警告は解除され、撮影が行えます。ただし、記憶されている撮影データを消去するまで、次のデータは記憶されません。	P.122
● 赤目軽減発光が可能な専用スピードライトをご使用ください。	P.165 P.166

■電子制御カメラの特性について

- きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

■高温・低温下での液晶表示について

- 表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

■イルミネーターパネルの寿命について

- 表示パネルを照明するイルミネーターパネルは消耗品ですので、使用状況によって明るさが徐々に低下します。これはイルミネーターパネルの消耗によるもので故障ではありません。イルミネーターパネルの交換をご希望の場合は、最寄りのニコンサービスセンターへお申し付けください（有料）。

■シャッター幕の特性について

- シャッターを作動させるとシャッター幕に走行跡が生じますが、これはカメラの耐久性と高速駆動を得るための特性であり異常ではありません。また、性能上も影響を及ぼすことはありません。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

・ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

・ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、またはニコンサービスセンターにご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年間を目安としています。

・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

・修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。

・水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご購入者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から3年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。

仕様

型式	モーター内蔵35mm一眼レフレックス 電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	P：プログラムオート（プログラムシフト可能） S：シャッター優先オート A：絞り優先オート M：マニュアル
画面サイズ	24 × 36mm
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ	・GタイプまたはDタイプAFレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）：フル機能使用可 ・PCマイクロニッコール85mm F2.8D：オートフォーカスおよび露出モード P、S、A を除く機能使用可（あおり操作時を除く） ・GタイプおよびDタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光を除く機能使用可 ・AI-Pニッコール：3D-RGBマルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可 ・非CPUレンズ：露出モード A、M で可、開放F値がF5.6より明るい場合フォーカスエイド可、レンズ情報設定によりRGBマルチパターン測光、絞り値表示など使用可（AI方式レンズ使用時） ・TC-16AS：開放F値がF3.5以上明るいレンズでオートフォーカス使用可（フォーカスエイド不可）、一部レンズを除く ・非AI方式レンズ：ニコンサービスセンターでボディーを改造することで装着可能（絞り込み測光）
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用、視度調節機構内蔵（－2.0～＋1.0m^{-1}）、アイピースシャッター付、アイピースDK-17標準装備、脱落防止機能対応
アイポイント	18mm（－1.0m^{-1}の時）
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンⅡ改、他に別売の6種と交換可能
ファインダー視野率	約100%（対実画面）
ファインダー倍率	約0.74倍（50mmレンズ・∞・－1.0m^{-1}の時）
ファインダー内表示（イルミネーター付）	・ピント表示、測光モード表示、AEロックマーク、FVロックマーク、露出モード表示、シャッタースピードロックマーク、同調秒時マーク、シャッタースピード表示、絞り段数マーク、絞りロックマーク、絞り表示、多重露出撮影マーク、バッテリーチェック表示、フィルムカウンター／露出補正値表示、レディーライト、露出インジケーター、露出補正マーク、ブラケティングマーク、フォーカスエリア（フレーム）11点
ミラー	クイックリターン式

レンズ絞り	瞬間復元式
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM2000オートフォーカスモジュールにより検出 ・検出範囲：EV－1～＋19（ISO 100・常温）
レンズサーボ	**S**：シングルAFサーボ **C**：コンティニュアスAFサーボ **M**：マニュアルフォーカス ・**S**、**C**では、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	11カ所のフォーカスエリアの中から1カ所または複数カ所を選択可能
フォーカスエリアモード	・シングルエリアAFモード ・ダイナミックAFモード ・グループダイナミックAFモード ・至近優先ダイナミックAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはS（シングルAFサーボ）時シャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式 ・3D-RGBマルチパターン測光：GタイプまたはDタイプレンズ（DXおよびIXニッコールを除く）使用時 ・RGBマルチパターン測光：GタイプおよびDタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）、AI-Pニッコール、非CPUレンズ（レンズ情報設定時）使用時 ・中央部重点測光：φ12mm範囲を測光（中央重点度約75%） ・スポット測光：φ4mm相当を測光（全画面の約1.5%）、フォーカスエリアに連動して測光位置可動
測光範囲	3D-RGBマルチパターン測光：EV0～20 中央部重点測光：EV0～20 スポット測光：EV2～20 （常温、ISO 100、F1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用、露出計連動レバーを可倒式に改造可能
露出補正	±5段の範囲を1/3、1/2、1段ステップで補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
オートブラケティング	撮影コマ数：2～7コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1段のステップで可能
フィルム感度設定	・DX方式、マニュアルのいずれも可能（マニュアル優先） ・フィルム感度連動範囲：DX時・ISO 25～5000、マニュアル時・ISO 6～6400（1/3段ごとにセット可能）

シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター （シャッターモニター機能内蔵）
シャッタースピード	・P、A モード時：30～1/8000秒 ・S モード時：30～1/8000秒（1/3段ステップ）、X（1/250） ・M モード時：30～1/8000秒（1/3段ステップ）、buLb、X（1/250） ※：M モード時に30分まで延長可能
シンクロ接点	X接点のみ、1/250秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調（オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000秒まで可能）
スピードライトの調光方式	TTL自動調光5分割センサー一体型ICおよび1005分割RGBセンサー併用による以下のTTL調光制御： ・i-TTL-BL調光：SB-800・600・400・SU-800／SB-R200との組み合わせ時 ・マルチエリアBL調光：SB-80DX・50DX・28/28DX・27・26・25とGタイプまたはDタイプレンズの組み合わせにより3D-マルチBL調光可能。GタイプおよびDタイプ以外のCPUレンズ、非CPUレンズ、またはモニター発光を行わないスピードライトとの組み合わせ時にはマルチBL調光可能 ・スタンダードTTL調光：スポット測光時 ・TTL調光時のフィルム感度連動範囲：ISO 25～1000
シンクロモード	・先幕シンクロ、後幕シンクロ、スローシンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロがセット可能
レディーライト	SB-800・600・400・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・23等使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備、デジタルデータ通信対応 ・シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）標準装備、外れ防止ネジ付
ニコンクリエイティブライティングシステム	SB-800・600・R200・SU-800との組み合わせによりアドバンストワイヤレスライティング、オートFPハイスピードシンクロ、モデリング発光、FVロック、マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）に対応（SB-400はFVロックにのみ対応）
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒
プレビュー	電子制御式、プレビューボタンにより絞り込み可能
ミラーアップ	給送モードダイヤル操作により可能
フィルム装填	順巻きイージーローディング方式、フィルムセット完了後、裏ぶたを閉じることにより1コマ目まで自動空送り

フィルム巻き上げ	内蔵モータによる自動巻き上げ S　：1コマ巻き上げ CL ：低速連続巻き上げ（約2コマ/秒［約4コマ/秒］） CH ：高速連続巻き上げ（約5.5コマ/秒［約8コマ/秒］） CS ：超低速連続巻き上げ（約1コマ/秒［約2コマ/秒］） ・巻き上げ速度：フォーカスモードC、露出モード M、1/250秒以上の高速シャッタースピード、3V CR123A リチウム電池、36EX平均値（[ ]内はマルチパワーバッテリーパックMB-40に単3形電池またはLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4使用時）。
フィルム巻き戻し	・フィルム終了後、内蔵モータによる自動巻き戻し ・途中巻き戻し（R1、R2ボタン操作による）、手動巻き戻し可能 ・巻き戻し時間（36EX）：約7秒／約12秒（CS：超低速連続巻き上げ時）
多重露出	撮影メニュー操作によりセット可能
インターバルタイマー	撮影メニュー操作によりセット可能
上面表示パネル情報（イルミネーター付）	・シャッタースピードロックマーク、同調秒時マーク、シャッタースピード表示、絞り段数マーク、絞りロックマーク、絞り表示、ブラケティングマーク、露出インジケーター、露出モード表示、プログラムシフトマーク、露出補正マーク、バッテリーチェック表示、露出補正値表示、フィルムカウンター
背面表示パネル（イルミネーター付）	・撮影情報画面（ノーマル表示、詳細表示、拡大表示） ・撮影データ画面（フィルム情報表示、コマ情報表示） ・メニュー画面（カスタムメニュー、セットアップメニュー、撮影メニュー、レンズ情報、言語）
写し込み	撮影メニュー操作によりセット可能 ・画面内写し込み、コマ間写し込み、0コマデータ写し込み ・フィルム感度連動範囲：ISO 50～3200
内蔵時計	・クォーツデジタル（24時間制） ・月末、うるう年自動修正（2099年12月31日まで対応）
裏ぶた	蝶番式、フィルム確認窓付、AFエリアモードセレクトダイヤル、マルチセレクター、MENUボタン、ISO感度ボタン、シンクロモードボタン、INFOボタン、背面表示パネル装備、データ写し込みユニット内蔵
撮影データ記憶	記憶可能フィルム本数（36枚撮り）：簡易情報時（13項目）約57本／詳細情報時（21項目）約31本
10ピンターミナル	標準装備

項目	内容
電源	・電池ホルダーMS-41（標準装備）：3V CR123A リチウム電池2本使用 ・マルチパワーバッテリーパックMB-40（別売）：単3ホルダーMS-40（MB-40に付属 単3形電池［アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池］8本使用）またはLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4（別売 バッテリー室カバーBL-3併用） ・内蔵時計用バックアップ電池内蔵
電源スイッチ	電源ON、OFFの2ポジションに加え、上面・背面表示パネルにイルミネーターを点灯させるポジションを装備
半押しタイマー	・電源スイッチON後、半押しタイマーが作動し、無操作状態で約8秒後、半押しタイマー非作動 ・電源スイッチON時は、シャッターボタンの半押し等の操作に連動して、半押しタイマーが作動
バッテリーチェック	半押しタイマーが作動中で、上面表示パネルおよびファインダー内表示に以下のように表示

表示パネル	ファインダー	内容
		点灯（電池容量充分）
		点灯（電池消耗開始）
		点灯（電池消耗）
		点滅　交換表示（表示消灯時も電池交換）

撮影可能フィルム本数（36枚撮り）

	試験条件 ①		試験条件 ②	
	20℃	－10℃	20℃	－10℃
3Vリチウム電池使用時	約15本	約6本	約35本	約15本
MB-40使用時（単3形アルカリ電池）	約10本	約1本	約55本	約4本
MB-40使用時（単3形ニッケル水素充電池）	約30本	約30本	約55本	約50本
MB-40使用時（単3形リチウム電池）	約45本	約35本	約95本	約70本
MB-40使用時（Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a）	約40本	約30本	約75本	約60本
MB-40使用時（Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4）	約35本	約25本	約65本	約50本

・記載されているフィルム本数は下記の当社試験条件によるものです。

①：装着レンズAF-S VR ED24-120mm F3.5-5.6G、手ブレ補正機能使用、フィルム給送モード**S**、フォーカスモード**C**、シャッタースピード1/250秒、無限遠から至近間を1往復し、シャッターボタンの半押しを8秒間持続させ、1回レリーズした後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

②：装着レンズAF-S VR ED70-200mm F2.8G、手ブレ補正機能使用、フィルム給送モード**CH**、フォーカスモード**C**、シャッタースピード1/250秒、無限遠から至近間を3往復し、シャッターボタンの半押しを3秒間持続させ、1回レリーズした後、すぐに同じ動作を繰り返して実施。

バルブ撮影時 連続撮影時間		20℃	−10℃
	3Vリチウム電池使用時	約5時間	約3時間
	MB-40使用時（単3形アルカリ電池）	約6時間	約1.5時間
	MB-40使用時（単3形ニッケル水素充電池）	約5時間	約4時間
	MB-40使用時（単3形リチウム電池）	約8.5時間	約7時間
	MB-40使用時 （Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4）	約7時間	約6時間

三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222規格）
カスタムメニュー	41項目（P.92）
ツーボタンリセット機能	MENUボタンとINFOボタンを同時に約2秒間押す動作により、一部機能を除き、各機能のセット状態を一括して初期状態にリセット可能
大きさ	約157mm（幅）×119mm（高さ）×78.5mm（奥行）
質量（重さ）	約975g（ボディーのみ、電池を除く）
別売アクセサリー	・マルチパワーバッテリーパックMB-40 ・Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL4a/EN-EL4 ・バッテリー室カバーBL-3 ・クイックチャージャーMH-21 ・データリーダーMV-1 ・ファインダースクリーン6種 ・アンティフォグファインダーアイピースDK-17A ・接眼補助レンズDK-17C ・ソフトケースCF-64

※：撮影可能フィルム本数およびバルブ撮影時連続撮影時間は下記電池を使用した当社試験条件によるものです。撮影状況により、撮影可能フィルム本数およびバルブ撮影時連続撮影時間は前後します。
- ・3Vリチウム電池：松下電池工業製 CR123A
- ・単3形アルカリ電池：松下電池工業製 LR6
- ・単3形ニッケル水素充電池：三洋電機製 HR-3UB（2300mAh）
- ・単3形リチウム電池：富士写真フィルム製 FR6

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、新品3V CR123Aリチウム電池使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■商標説明

- CompactFlash™（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- Microsoft®、Microsoft® Excel、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

索引

操作ボタン・レバーや表示等は、各部の名称と主なはたらき（P.10〜18）をご覧ください。

英数

AEブラケティング P.77
AEロック P.74
AFエリアモード P.54
BuLb P.72、82
CPUレンズ P.24、40
DXマーク付フィルム P.27
Dタイプ（CPU）レンズ P.24、40
EV値 P.67
FVロック P.157、158
Gタイプ（CPU）レンズ P.24、40
i-TTL-BL調光 P.156、165
i-TTLモード P.156
RGBマルチパターン測光 P.40、64
SBブラケティング P.77
TTLモード P.160、166
0コマデータ写し込み P.138
1005分割RGBセンサー P.64
1コマ巻き上げ（S） P.47
3D-RGBマルチパターン測光 P.40、64
3D-マルチBL調光 P.160、166

あ

赤目軽減スローシンクロ（モード） P.164
赤目軽減（モード） P.164
アクティブ補助光（AF補助光） P.167
アドバンストワイヤレスライティング P.157
後幕シンクロ（モード） P.164
イルミネーター P.83
インターバルタイマー P.145
写し込み（メニュー） P.130
オートFPハイスピードシンクロ P.159
オートフォーカス（AF） P.28、50、62
オートブラケティング（自動段階露出） P.77

か

外部自動調光（A） P.161
開放絞り P.70、72
開放絞り値の設定 P.149
カスタムメニュー P.92
画面内写し込み P.130
距離情報 P.30、64、156、160
グループダイナミックAFモード P.54
言語（Language） P.152
高速連続巻き上げ（CH） P.47
コマ間写し込み P.134
コマンドロック P.69、71
コンティニュアスAFサーボ（AF-C） P.50

さ

最小絞り P.24、70、72
先幕シンクロ（モード） P.164
撮影データの写し込み P.130
撮影データの記憶 P.114
撮影メニュー P.129
至近優先ダイナミックAFモード P.55
視度調節機能 P.83
絞り優先オート（A） P.70
シャッターモニター機能 P.88
シャッター優先オート（S） P.68
焦点距離の設定 P.149
シングルAFサーボ（AF-S） P.50
シングルエリアAFモード P.54
シンクロ（モード） P.163、164
スタンダードi-TTL調光 P.156
スタンダードTTL調光 P.156、160
スポット測光 P.65
スローシンクロ（モード） P.164
セットアップメニュー P.113
セルフタイマー P.84
測光（モード） P.64

た

ダイナミックAFモード P.54
多重（露出）撮影 P.143
中央部重点測光 P.65
調光範囲 P.169
長時間露出（バルブ） P.82
超低速連続巻き上げ（Cs） P.47
ツーボタンリセット P.153
低速連続巻き上げ（CL） P.47
同調シャッタースピード P.106、159、167

な

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS） P.156
日時の設定 P.127
年月日表示順の設定 P.128

は

半押しタイマー P.22
非CPUレンズ P.41、42、149
被写界深度 P.38
ファインダー視野率 P.33
フォーカスエイド P.40、63
フォーカスエリア P.13、32、52
フォーカスフレーム P.13、32、52
フォーカスモード P.28、40、50、63
フォーカスロック（AFロック） P.60
プログラムオート（P） P.66
プログラムシフト P.66
プログラム線図 P.67

ま

マニュアル（発光／M）……P.161
マニュアル（フォーカス／ピント合わせ）……P.63
マニュアル（露出／M）……P.72
マルチBL調光……P.160
マルチエリアBL調光……P.160
マルチエリアアクティブ補助光（AF補助光）……P.159
マルチパターン測光……P.64
モデリング発光……P.157
モニター発光……P.156、158、160
ミラーアップ（M-UP）……P.86

や

予測駆動フォーカス……P.35、50

ら

レディーライト……P.162
レンズ情報……P.149
連続巻き上げ……P.47
露出補正……P.76
露出（モード）……P.30、66～73
リモート撮影……P.176

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通
☎0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**(03)5977-7033**におかけください。
FAXでのご相談は、**(03)5977-7499**におかけください。

音声によるご案内に従い、ご利用窓口の番号を入力してください。お問い合わせ窓口の担当者がご質問にお答えいたします。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理サービスの申し込みができます。
「修理見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

<インターネットを利用できない方のお問合せ>
ニコンカメラ販売（株）　サービス部　　電話：(045)500-3050
営業時間：9:30〜17:30（土・日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Japan
KL7B00100601(10)
8MAA2310--